

第二項 身長ヲ測定スルニハ名簿ニ照シテ其ノ氏名ヲ問ヒ衣服ヲ脱セシメ(眼鏡ヲ著ケ居ル者ハ同時ニ之ヲ脱セシム)著褲ノマ、身長計ノ臺上ニ立チ踵ヲ竝ヘテ後ニ接シ姿勢ヲ正サシメ殊ニ膝、腰、項部等ヲ正シク伸シアルヤ否ニ注意シ頭頂ヲ杆ノ正中ニ當テ更ニ全身ノ位置ヲ通視シテ身長ヲ定ム但尺度ノ釐位ニアルモノハ高キニ從フ
測尺終レハ衣服ヲ著セシム

第三項 視力ハ斯涅兒連氏試視力表ヲ以テ檢スヘシ試視力表ハ場内ノ最モ明ナル壁上ニ掲ケ大約眼ト同高ノ位置ニ在ラシメ受檢者ヲシテ二十尺ノ距離ニ畫セル位置ニ立チテ之ニ對向セシメ先ツ偏眼ヲ以テ次ニ兩眼ヲ以テ表中ノ細小ナル號ヨリ視セシメテ形狀ヲ問フヘシ其ノ二十號ヲ明視スル者ハ視力一、三十號ヲ明視スル者ハ視力三分ノ二トス其ノ他之ニ準シテ視力ヲ定ムヘシ但視力ノ度ヲ壯丁名簿(體格檢査表)ニ記入スルニハ約分ヲ用非ス表ソ號數ヲ分母トシテ願慮シ自己ノ視力ト相對比シテ受檢者ノ視力ヲ判定スヘシ
視力ニ障礙アル者ハ近視、遠視、弱視其ノ他ノ症タルコトヲ檢査シテ之ヲ記入スルヲ要ス其ノ種類及度數ヲ定ムルニハ規定ノ檢査器械ヲ使用スヘシ
辨色力ハ必要アル場合ニ限リ之ヲ檢査スヘシ

第四項 視力檢査終ラハ受檢者ヲシテ醫官ノ前方約六尺ノ距離ニ立タシメ濕キタル示指頭ヲ以テ交、一耳ヲ密塞シ其ノ檢スヘキ耳ヲ醫官ニ對向セシメ低聲ヲ以テ住所、職業、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ間言語、精神、聽官ノ機能ヲ檢スヘシ
特ニ聽力ノ檢査ヲ要スルトキハ約六尺ノ距離ニ於テ醫官先ツ上ノ注意ヲ用非テ低語ヲ發シ受檢者ヲシテ之ヲ復誦セシメ兩耳各別ニ檢査スルヲ要ス其ノ低語ハ隨意ニ二十一ヨリ九十九ニ至ルマテノ數字ヲ撰ビテ之ヲ用非ルヲ可トス但受檢者ヲシテ醫官ノ口ノ運動ヲ目撃シテ其ノ言語ヲ推測セシムヘカラス

第五項 前項ノ檢査終ルノ後體格一般ノ構造ヲ觀察スヘシ即チ受檢者ヲシテ衣服ヲ脱セシメ著褲ノマ、醫官ノ前二三歩ヲ距テ直立セシメ姿勢ヲ正シテ醫官ノ眼ニ注目セシメ額面、頸胸、腹部及四肢ノ前面ヲ通視シ次ニ背面セシメテ頭、項背、腰、臀部及四肢ノ後面ヲ通視シ同時ニ皮膚病ノ有無ニ注意スヘシ

第六項 關節運動ハ頸部ニ於テハ俯仰、顧盼、脊柱ニ於テハ反張、前屈及左右屈、四肢ニ於テハ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲ爲サシメ次ニ歩行ヲ試シ又趾尖ヲ以テ體重ヲ支ヘシメ支柱ノ力ヲ檢スヘシ

第七項 各部檢査ハ頭顱ニ起リ陰部、肛門ニ終ル其ノ順序ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
(イ)頭顱ニ於テハ先ツ其ノ大小及變形ノ有無ヲ檢シ其ノ有髮部ニハ特ニ髮隆シ若クハ陷凹セル部分ナキヤ或ハ外傷、腫瘍等ナキヤニ注意シ面部ニ於テハ全面部ヲ通視シ殊ニ眼險ノ形狀其ノ開閉ノ難易、睫毛ノ存否、位置、方向、淚液分泌及排泄ノ關係、結膜ノ健否ヲ檢シ次ニ眼球各箇ニ及ビ對比的ニ其ノ形狀、位置、大小及硬度(彈力性)瞳孔ノ形狀及開縮ノ狀態並屈折體ノ清濁ヲ檢シ次ニ鼻及其ノ近部鼻道通氣ノ良否並鼻腔ニ於ケル腫起、腫瘍ノ有無ヲ檢スヘシ
口及口腔ニ在テハ先ツ口唇ノ健否其ノ癒著ノ有無ヲ檢シ次ニ下顎關節運動ノ難易、舌、口蓋、咽喉、齒牙、齒齦及口腔一般ノ性状、健否ヲ檢シ呼吸氣惡臭ヲ帶ヒサルヤニ注意スヘシ

聽器ニ在テハ先ツ耳輪ノ周圍ニ注意シ次ニ外聽道ニ於ケル狹窄若クハ閉鎖排泄物並新生物ノ有無次テ要スルトキハ鼓膜ノ健否及歐氏管ノ通塞ヲ檢スヘシ

(ロ) 頸部ニ於テハ其ノ形狀及腫瘍瘻管癩痕等ノ有無其ノ他頭部ノ位置正シキヤ否ニ注意スヘシ

(ハ) 胸部ニ於テハ胸廓ノ長短廣狹厚薄ヲ檢シ次テ鎖骨胸骨劍狀軟骨及肋骨ノ性狀並其ノ畸形疾病ノ有無ヲ檢シ次テ受檢者ヲシテ深呼吸ヲ爲サシメテ呼吸ノ難易胸廓運動ノ狀況ヲ觀察シ又心臟ノ鼓動ニ注意シ若シ心肺等ニ病變ノ疑アラハ理學的診斷ヲ行フヘシ

胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測ルニハ兩上肢ヲ開展セシメ尺帶ニテ後ハ兩肩胛骨下角ノ下前ハ左右乳頭ノ直下ニ於テ水平ニ周匝シ次テ兩上肢ヲ垂レテ自然ノ位置ニアラシメ尋常ノ呼吸ヲ爲サシメテ先ツ胸圍ヲ測リ次テ深呼吸ヲ爲サシメテ縮張ノ差ヲ測ルヘシ其ノ度目ヲ讀ムハ一側ノ乳頭下ニ於テス

胸圍ハ身長ノ半ニ達シ呼吸縮張ノ差ハ一寸五分以上ナルヲ可トス但胸廓ノ構造良ナル者及將來發育ノ望アル者ハ之ヲ酌量スヘシ
胸廓構造一見佳良ナル者ハ測尺ヲ要セス

(ニ) 腹部ニ於テハ先ツ腹壁ヲ檢シ次テ腹腔内腫瘍臍狀兒尼亞ノ有無ニ注意スヘシ
(ホ) 脊柱及骨盤ニ於テハ先ツ其ノ方向位置ノ正否ヲ檢シ各椎骨腸骨薦骨尾骶骨等ニ異狀ナキヤニ注意スヘシ

(ハ) 四肢ニ於テハ其ノ形狀長短大小皮膚及皮下脈管ノ性狀等ヲ檢スヘシ
上肢ニ在テハ先ツ兩臂ヲ前方ニ展ヘ手掌ヲ接著セシメテ長短ノ差ナキヤ肥瘠及發育ニ不同

ナキヤ手掌指等ニ異狀ナキヤヲ檢シタル後兩臂ヲ上ケテ腋臭ノ有無ヲ檢スヘシ

下肢ニ在テハ兩肢ヲ比較シテ其ノ肥瘠及發育ノ度ヲ檢シ膝關節並膝關節ハ正位ニ在ルヤ下脚ニ靜脈怒張ナキヤ足背及趾ニ異狀ナキヤヲ檢シ次ニ足ヲ舉ケシメ足趾ヲ檢スヘシ

(ト) 陰部及肛門ノ検査ハ先ツ褲ヲ脱セシメ陰莖ニ於テハ尿道口ノ位置ヲ檢シ排尿ノ難易ヲ問ヒ陰囊ニ於テハ舉丸副舉丸ノ存否位置肥大瘦小腫瘍ノ有無精系靜脈ノ怒張及腹輪ノ擴張歇兒尼亞ノ有無ヲ檢シ次テ受檢者ヲシテ其ノ體ヲ背面且前屈セシメ痔核痔瘻脫肛其ノ他肛圍ニ於ケル病變ノ有無ヲ檢スヘシ但歇兒尼亞ノ有無ヲ檢スルニハ強ク努責セシムヘシ

第八項 前各項ノ検査終ラハ受檢者ヲシテ衣服ヲ著セシメ醫官ハ體格等位ヲ定メテ壯丁名簿(體格検査表)ニ等位ノ印及自印ヲ押スヘシ

醫官二名以上ニテ同一受檢者ノ検査ヲ分擔シタルトキハ毎分擔事項ニ自印ヲ押シ等位ノ判定ハ高級故參ノ者ニ於テスヘシ

第九項 壯丁名簿(體格検査表)ハ可成記註ヲ簡ニシ些細ノ異狀ハ記註ヲ要セスト雖モ甲種ニ定メタル者及身長不足ノ故ノミヲ以テ丙種丁種トナス者ノ他ハ其ノ等位ヲ定メタル理由ヲ記入スヘシ

第十項 身體變常ノ爲メ乙種丙種丁種トナスヘキ標準ハ附録ニ據ル

第十一項 身長不足ノ故ヲ以テ甲種乙種トナスヘカラサル者ハ視力以下ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

視力以下ノ検査中丙種若クハ丁種タルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ爾餘ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第十二項 身體各部ノ變常ハ不合格トナスニ足ラサルモ之ヲ合スレハ合格トナスヘカラサル者ハ不合格トス

第十三項 受檢者曾テ不合格タリシモ現時合格ト認ムル者及曾テ重病ニ罹リシモ再發ノ患ナシト認ムル者又ハ現ニ傷疾疾病ニ罹ルモ其ノ症輕ク適當ノ治療ニ依リ治癒スヘキ者ハ壯丁名簿(體格検査表)ニ其ノ意見ヲ記入シテ合格トナスヘシ

第十四項 受檢者ノ身體變常ハ検査上必要ノ場合ニアラサレハ他ニ示スコトヲ得ス且故ナク他人ニ漏告スヘカラス

第十五項 検査醫官ハ周密ヲ旨トシ學術ニ基キテ検査シ必ス自己ノ信憑スル所ニ據リテ判断スヘシ
検査醫官ハ受檢者ニ接スルコト溫和ニシテ苟モ之ヲ威嚇シ又ハ其ノ健康ヲ害フヘキ若クハ無用ナル検査ヲ行フコトヲ得ス

第十六項 検査場ニ充ツル家屋ハ適宜ニ廣ク且明ナルヲ要ス

第十七項 醫官ハ検査終了後陸軍報告例ニ據リ報告ヲ作ルヘシ

第二章 徵兵検査

第十八項 壯丁一日ノ検査人員ハ醫官一名ニ對シ百七十名以上百九十名以下トス

第十九項 身長ハ聯隊區又ハ警備隊區徵兵署事務員ヲシテ測定セシムヘシ

第二十項 病中又ハ畸形ニシテ測尺スヘカラサル者ハ壯丁名簿ニ其ノ事由ヲ記入シ又身長四尺五寸未滿ノ者ハ四尺五寸未滿ト記スヘシ

第二十一項 身長四尺八寸未滿ニシテ若シキ疾病變常ナシト認ムル者ハ他ノ検査ヲ行ハスニシテ等

位ヲ附スルコトヲ得

身長四尺八寸以上五尺未滿ノ者ハ先ツ體格一般ノ景況ヲ觀察シ且適宜要點ノミヲ檢シテ等位ヲ附スルモ妨ナシ身長五尺以上五尺一寸未滿ニシテ職工ニ適セサル者亦同シ

第二十二項 近視ノ者及弱視其ノ他ノ症ニテ視力ニ妨アル者ハ現役及補充兵ニ適セス六週間現役兵及雜卒職工ニ限リ裸眼ノ視力二分ノ一マテハ合格トナスコトヲ得

第二十三項 壯丁ノ家ニ就テ検査シタルトキ若クハ醫師ノ診斷證書其ノ他ノ證明書類ニ依リ體格ノ適否ヲ判定シタルトキハ該壯丁名簿摘要畫ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

第二十四項 徵集延期中ノ者ニ係ル壯丁名簿ニハ前年ニ異ナル要點ノミヲ記入スヘシ

第二十五項 壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作爲シタル者ト認メタルトキハ學理上確實ナル證據ニ基キ鑑定書ヲ製シテ徵兵官ニ出スヘシ

第二十六項 壯丁ノ父兄等ニ係ル醫師ノ診斷證書ヲ審按スルニ當リ癡疾不具ト認定スヘキ疾病畸形ハ概ネ左ノ如シ

- 一 精神病ニシテ自營ノ能力ナキ者
- 二 腦脊髓病(腦出血、脊髓勞等)
- 三 榮養失常(密尿病、白血病等)
- 四 內臟病(肺勞、胃癆等)
- 五 癩及惡性贅生物
- 六 全身之畸形
- 七 兩眼失明

八 偏眼失明シ他眼ノ視力著シク減弱スル者
九 啞及瘂

十 一肢以上ノ用ヲ廢スル者

第三章 志願兵及諸生徒志願者検査

第二十七項 志願者一日ノ検査人員ハ醫官一名ニ付概テ五十名トス

第二十八項 志願兵及諸生徒志願者身長ノ測尺ハ徵兵署事務員又ハ書記等ニ擔任セシムルモノトス

第二十九項 近視ノ者ハ合格トナスコトヲ得ス但軍醫學校生徒、衛生部獸醫部依託學生、同依託生徒志願者ニ在テハ此ノ限ニアラス

士官候補生志願者ニ在テハ近視ニシテ裸眼ノ視力斯涅兒連氏試視力表ノ三十號ヲ明視スル者一年志願兵志願者ニ在テハ近視ニシテ裸眼ノ視力同百號ヲ明視スル者ヲ合格トナスコトヲ得

第三十項 一年志願兵志願者ニ限リ不合格者中ノ二十歳未満者ヲ除ク徵兵體格等位ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキ者ナルコトヲ體格検査表摘要並ニ記入スヘシ

第三十一項 體格検査表ハ様式ニ從ヒ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製シ検査結了後順序ヲ經テ各志願者ノ屬スル部隊ニ送付スヘシ

(様式)

「府縣郡市町村族職 其男(兄弟月主等)」
位等 氏名 年齢

(内ハ朱書)

格 檢 査 表	
身長	視力
音 聾	一 般 造 部
聽 力	構 造 部
關 節 運 動	各 部 造 部
要 摘	
明治 年 月 日	検査場
検査官	検査官
「某地」	「官 氏 名 印」

附 録

徵兵及志願兵諸生徒志願者體格

徵兵検査ニ於テハ概テ左ノ疾病變常ヲ以テ乙種丙種丁種トナシ志願兵及諸生徒志願者ノ検査ニ於テハ同丙種丁種ヲ併セテ丙種トナス

全 身		種 別
一	二	乙
三	四	丙
五	六	丁
七	七	種 別
筋骨稍薄弱ナルモノ	筋骨薄弱ナルモノ	全身發育不全
脂肪過多	筋骨薄弱甚シキモノ	全身ノ畸形
急治スヘカラサル軟部ノ炎症、潰瘍等	骨、軟部ノ惡性腫瘍	全身發育不全
稍大ナル良性腫瘍	大ナル良性腫瘍、不治ノ慢性腺腫、腺潰瘍等	全身ノ畸形
六輕キ外因性炎症、潰瘍等		全身發育不全
七輕キ良性腫瘍		全身ノ畸形

頭		部										及																							
二五	眼瞼内外反、涙液、涙管閉、眼睫毛倒生	二四	顔面麻痺若クハ痙攣	二三	頭蓋變形及禿頭	二二	頭蓋變形ノ著帽ニ妨ナク醜形甚シカラサルモノ	二一	輕キ腋臭	二〇	不活ノ慢性皮膚病	一九	微瘡	一八	癬	一七	象皮膚	一六	癩疥	一五	不活ノ慢性神經病	一四	慢性腦脊髓病	一三	白癩	一二	精神病	一一	動脈瘤	一〇	運動ニ妨アル大ナル瘰癧	九	瘰癧、疔毒等ノ著シキ機能障礙ナク醜形甚シカラサルモノ	八	不活ノ骨、骨膜慢性炎及其繼發病

部																													
二六	著シキ結膜顆粒性炎	二七	視力ニ妨ナキ角膜翳	二八	輕キ斜視	二九	弱視等ニシテ視力五分ノ一以下ニ減セサルモノ	三〇	夜盲	三一	近視、遠視ニシテ裸眼ノ視力五分ノ一以下ニ減セサルモノ	三二	兩耳ノ重聽若クハ聾	三四	耳殼一部ノ缺損	三五	外耳、中耳慢性病	三六	鼻ノ畸形ニシテ機能障礙甚シカラサルモノ	三七	鼻腔、鼻副腔ノ慢性病ニシテ言語ノ障礙甚シカラサルモノ	三八	吃	三九	咽頭症	四〇	重キ唇瘻者、缺損若クハ單兔唇	四一	複兔唇、口蓋ノ破裂、穿孔

部 腹 及 部 胸										盤骨、柱脊及部頭								
五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	
形ノ異常	腕ノ痠痛	甚シキ筋系静脈怒張	腎丸、副腎丸ノ慢性病及腎丸、腹輪内ニ在リテ疼痛ヲ發スルモノ	輕キ尿道ノ畸形	脱肛、痔瘻若クハ間歇性出血、膿液等アル痔核	腹輪ノ擴張	腹輪ノ擴張	病	急治スヘカラサル肺、胸膜ノ慢性	胸膈異常ノ呼吸機能ニ著シキ妨ナキモノ	腎柱側彎、前後彎等ノ運動及服裝ニ妨ナキモノ	不活ノ喉頭、氣管慢性病	食道狭窄	運動ニ妨アル斜頸	牙關緊急	舌、扁桃腺ノ重キ腫瘍	多數ノ齒牙ノ疾病、缺損ニシテ咀嚼力ノ全缺若クハ殆ント全缺スルモノ	四二 輕キ齒牙ノ疾病、缺損
不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病	不活ノ腹内臟器慢性病

肢										
七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇
七〇	六九 輕キ屈足	六八	六七 第一趾ヲ除キ二趾ノ癒著	六六 第一趾ヲ除キ一趾ノ缺損強剛	六五	六四	六三 環指若クハ小指末節ノ缺損、強剛	六二	六一 全治セル骨傷	六〇
甚シキ足汗	著シキ屈足	刺趾	第一趾ヲ併セテ二趾以上ノ癒著	第一趾ノ末節若クハ他二趾ノ缺損、強剛	刺趾	中指ト環指又ハ環指ト小指ノ癒著	中指若クハ環指若クハ小指ノ缺損、強剛	骨幹部ノ彎曲、腫脹等ノ著シキ障礙ナキモノ	重キ下肢ノ靜脈怒張	骨幹部ノ短縮、彎曲、腫脹若クハ關節ニシテ大ニ其用ヲ妨クルモノ
刺趾	刺趾	刺趾	第一趾若クハ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ缺損、強剛	第一趾若クハ他二趾ノ缺損、強剛	刺趾	示指ト中指若クハ其以上ノ癒著	中指環指、小指ヲ除キ一指以上ノ缺損、強剛、拇指若クハ示指ヲ併セテ二指以上ノ缺損強剛	一肢以上ノ缺損	一肢以上ノ缺損	一肢以上ノ缺損

陸軍第二十七號

明治二十五年陸軍第十九號及明治三十年陸軍第五十四號ヲ廢ス

明治三十二年三月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十五年三月 陸軍省陸軍第十九號ハ徵兵醫官ノ徵兵検査報告手續同三十年四月ニ陸軍第五十四號ハ陸軍志願兵身體検査規則ナリ

○陸軍第二十八號

本年四月以後演習及教育ノ爲メ近衛師團ニ召集スヘキ者左ノ通定ム

明治三十三年三月二十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 第一師管ニ在籍スル第一補充兵ニシテ戰時近衛師團ノ要員ニ充ツヘキ者ハ近衛師團ニ於テ教育ヲ爲サシム
- 二 第一師管ニ在籍ノ者ニシテ近衛師團ニ於テ現役ヲ終リタル豫備役後備役將校同相當官准士官下士兵卒及近衛師團ニ於テ教育ヲ受ケタル第一補充兵ハ近衛師團ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム
- 三 横濱水戸本郷宇都宮聯隊區ニ寄留シ第一師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サントスル者アルトキハ近衛師團ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム

○陸軍第二十九號

明治三十一年陸軍第六十二號陸軍報告例中左ノ通改正ス但本年三月盡日調第二十三表、第二十五表及第二十六表ハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十三年三月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 目次日報第一項割註部隊限リハ「陸軍省職員ハ命課ニ限リ又在韓國及在臺灣官衙部ニ改ム」
- 一 同第二項割註職員ハ部隊限リヲ「陸軍省職員及在韓國在臺灣官衙部ニ改ム」
- 一 同年報第三百二十九表ノ「彈藥」ハ「彈藥」ニ改ム
- 一 同特報第九十五表ノ次ニ左ノ四行ヲ加フ
 - 二 徵兵病類表
 - 二 二年志願兵志願者病類表
 - 二 士官候補生志願者病類表
 - 二 地方幼年學校生徒志願者病類表

第百九十六表
第百九十六表
第百九十六表

第百九十六表
第百九十六表

○陸軍第二十號

明治三十三年度中衛成病院條例第七條ノ定額ハ一日金拾貳錢五厘同條例第九條ノ定額ハ一日金貳錢五厘トス又屯田兵移住給與規則第十六條ノ徵收費額及明治二十五年陸軍第二十六號ノ定額ハ一日金參錢五厘七歳未満ノ者ハ一日金壹錢八厘トス

明治三十三年三月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

勅令第二十七號衛成病院條例(明治三十一年二月二十一日官報)抄錄

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但准士官以上特例及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷疾疾病公務ニ起因セザル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム

第九條 營外居住タル軍人軍屬ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛成病院ヨリ藥物療用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止テ得サル場合ニ限リ軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但此ノ傷疾疾病公務ニ起因セザル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報)抄錄
第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷疾ヲ受ケケクハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定メタル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

陸軍第二十六號(明治二十五年三月三十一日)

北海道ニ於テ藥局ナキ地方又ハ藥局アルモ止ム得サル場合ニ當リ官費治療ヲ受ケサル軍人軍屬及其家族ニシテ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルトキハ屯田兵部隊ノ藥室ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但軍人軍屬ノ傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノ、他ハ其定額ヲ納メシム

○陸軍第二十一號

明治三十一年陸軍第七號陸軍平時備員定員表中左ノ通改正ス

明治三十三年三月二十二日

陸軍大臣子爵桂太郎

衛戍病院ノ區畫中五等ノ縱畫ヲ左ノ通改ム

五	等	四	一	一	六
---	---	---	---	---	---

臺灣衛戍病院ノ區畫ヲ左ノ通改ム

臺灣	北	一四〇	六	一四	一七八
衛戍	臺南	一三〇	五	一三	一八
病院					一六六

備考第七項中「廣島」ノ二字及「磨工一名」ノ四字ヲ削ル

○陸軍第三十二號

陸軍給與令細則第六章中左ノ通改正シ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十二年三月三十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條第一項中「馬飼料」ヲ「馬糧及繫畜料」ニ第二項中「前項馬飼料」ヲ「馬糧代金及繫畜料」ニ第三項

中「馬飼料」ヲ「馬糧代金及繫畜料」ニ改ム

第二條中「馬飼料」ヲ「馬糧代金及繫畜料」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前條及本條ノ場合ニ於テ前渡ノ馬糧ニ殘餘アルトキハ之ヲ返納セシム

第四條第二項但書ヲ削ル

第十三條中「馬飼料」ヲ「馬糧及繫畜料」ニ改ム

第十六條第一項中ノ増飼料ヲ第一項ノ増飼及増繫畜料ニ改メ之ヲ給シノ下ニ「同第二項ノ」ノ五

字ヲ加ヘ同第二項中ノ増飼料ヲ前段ノ増飼及増繫畜料ニ改ム

第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條 本令第四十三條ノ馬糧代金同第五十二條第一項ノ増飼代金及本細則第四條第二項ノ馬糧代金算出ノ相場ハ當該監督部長之ヲ指定スヘシ但本省ニ在テハ近衛師團監督部長ノ指定

相場ニ依ルヘシ

前項馬糧ノ代價ハ前月中ニ於テ軍隊ノ爲メ購入シタル平均相場ニ依ルモノトス

○海軍省達第三十五號

艦團部隊需用品定額表中左ノ通追加ス（追加略ス）

明治三十二年三月二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三十六號

海軍艦團部下士卒教育令實施例第九條第三射擊ノ部中「平均顯著得點二十點以上」トアルヲ效果得

點八十點以上ト改ム

明治三十二年三月七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三十七號

糧食經理規程中左ノ通改正ス

明治三十二年三月九日

海軍大臣山本權兵衛

第一條第二項ヲ左ノ通改ム

左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ本條ニ依リ糧食ヲ給與ス

一 營舎學校病院ニ於テ准士官以上及候補生宿直ヲ爲ストキ

二 事業ノ爲メ舟夫長及舟夫ヲ船舶ニ乗組マンメ軍港外ニ出航スルトキハ其ノ翌日ヨリ但難

破船救助ノ場合ニ於テ糧食ヲ自辨シ能ハサルトキハ軍港ノ内外ヲ問ハス其ノ當日ヨリ

前項第二但書ニ依リ給與スル糧食ハ軍港内ノ場合ニ於テハ現金ニ換ヘ給與スルコトナシ
 第五條中「經節」ヲ「經節類」ニ「野菜類」ヲ「乾物野菜類」ニ改ム
 第六條中「海軍糧食條例第八條」ニ依リ「毎年度別」ニ改ム
 第十九條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 兵備品會計官吏ハ請負人ヲ置キタル地方ニ於テ請負品ト同種類ニシテ請負品外ノモノアルトキ
 ハ前項ニ依リ毎年度定ムル所ノ代價以内ヲ以テ該請負人ヲシテ供給セシムルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第四十四號糧食經理規程(明治三十一年三月二十九日)抄録

- 第一條第二項
 發給學校病院ニ通動スル准士官以上及候補生宿直ヲ爲ストキハ本條ニ依リ糧食ヲ給與ス
 第五條 海軍糧食條例第五條ニ依リ買辦シ得ヘキ食品ハ左ノ品種トス糧食取扱主任ハ其ノ購買及現金出納ヲ監督シ軍醫官
 ハ現品ヲ検査スヘシ
 味増、漬物、餛飩、香料、牛酪、罐詰牛乳、生乾菓物、豆腐類、野菜類、葛粉、鶏卵、砂糖、醬油
 第六條 左ニ掲ケル事項ノ一ニ該ルトキハ海軍糧食條例第八條ニ依リ定ムル所ノ金額以内ヲ以テ規定ノ品種若ハ量額ニ依
 ラス適宜ノ糧食ヲ給與スルコトヲ得
 一 艦船醫官學校病院監獄外ニ在テ糧食ヲ配給シ得ザルトキ
 二 炊具ノ設備ナキトキ
 三 火氣ヲ禁シ調理ヲ爲ス能ハサルトキ
 四 海軍糧食條例第一條第二項ノ第二乃至第五ノ場合
 五 海軍糧食條例第七條ノ場合ニ該當スルトキ

○海軍省達第三十八號

糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給與スル場合ノ最上限金額ハ明治三十三年度間左ノ通定

明治三十一年達第三十二號食料内國乙類及犯罪者食料ノ金額並ニ備考第二項ハ本達施行ノ日ヨリ
 廢止ス
 明治三十三年三月九日
 海軍大臣山本權兵衛

備考	罪				食	別	一	食	金	額
	犯	外	内	外						
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額ニ依ル	罪	夜	夜	國	十	七	五	五	五	五

○海軍省達第三十九號
 海軍糧食條例第五條第六條及第七條ニ依レル金額ハ明治三十三年度間左ノ通定
 明治三十三年三月九日
 海軍大臣山本權兵衛

備考	料				食	別	一	食	金	額
	外	内	外	内						
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額ニ依ル	夜	夜	國	十	七	五	五	五	五	五

○海軍省達第四十號

糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給與スル場合ノ最上限金額ハ明治三十二年度間左ノ通定

明治三十二年三月九日

海軍大臣山本權兵衛

備考	費				別一食金額
	外	内	外	内	
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額ニ依ル	犯	外	内	外	食
	罪	國	國	國	別
	者	夜	夜	十	一
	三	食	食	七	食
	銀	三	二		金
	五				額
	里	銀	銀	銀	

○海軍省達第四十一號

糧食經理規程第十九條第三項ニ依リ購買スル糧食品代價ハ明治三十二年度間左表ノ通定

明治三十二年三月九日

海軍大臣山本權兵衛

物價表

種類	品目	數量	沿岸國別											
			第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區			
麵類	乾麵包	一貫目	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇
	麵包	同	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
鳥獸魚肉類	付生獸肉	同	八六〇	七〇〇	八七〇	八七〇	六二〇	九二〇	一一五〇	一一〇〇	一〇五〇	一〇五〇	一〇五〇	一〇五〇
	付生魚肉	同	六八〇	七〇〇	六三〇	七〇〇	七八〇	七四〇	九二〇	一一五〇	一一〇〇	一〇五〇	一〇五〇	一〇五〇
	罐詰獸肉	同	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇
	罐詰魚肉	同	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇
	白米	同	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇
穀類	粟	同	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
雜類	對馬	同	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇
	亞細亞洲露領沿岸	同	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇

第六十二條ノ次三左ノ二條ヲ加フ
 第六十三條乙 汽機汽縮ノ試験ヲ施行シタルトキハ造船廠長ヨリ其ノ成績ヲ艦船長若ハ艦船所屬長ニ報告スヘシ

第七十六條 船體機關其ノ他ノ改造新設廢却改色艦船備附船舟ノ引換増備等ニ依リ艦船要目表ノ項目ニ異動ヲ生シ又ハ重量配置ニ變更ルル艦船式ニ依リ生シタルトキハ造船廠ヨリ艦船長若ハ艦船所屬長ニ報告シ明細表ニ異動ヲ生シタルトキハ軍務局ニ報告スヘシ

第一號様式艦船要目表及第四號様式艦船明細表中船體部「計畫寸法」ノ四字ヲ削リ其ノ下欄ヲ上端ニ引上ケ其ノ次ニ左ノ二欄ヲ加ヘ「計畫載貨水線」ニ於テ「常備狀態」ニ於テ「ト改メ第二號表中「第三十八各石炭庫容積表」ヲ削リ第十號様式別紙ノ「通定」ニ（別紙略ス）

〔參照〕

- 海軍省達第百一號艦船造修試驗検査規則（明治三十二年七月二日）抄錄
- 第十八條 鎮守府司令長官ハ所屬造船廠ノ都合ニ依リ新造艦艇ノ船體或ハ機關ノ一部ノ製造ヲ他ノ海軍造船廠又ハ内國私立製造所ニ依リ托セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第二十三條 鎮守府司令長官ハ船舟或ハ其ノ汽機汽縮ノ製造ヲ内外國私立製造所ニ命シ或ハ之ヲ購入セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ造船廠長ヲシテ其ノ契約ヲ處理セシムヘシ
- 第三十二條 新造船舟ノ船體或ハ機關ノ一部ノ製造ヲ他ニ依リ托セントスルトキハ第十八條ニ依ルヘシ
- 第三十四條 艦船ノ修理等ニ付テハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ艦船所屬長ニ於テ精密ニ之ヲ調査シ理由明細書ヲ附シ所屬長官ニ具申スヘシ
- 第三十七條 鎮守府司令長官所屬艦船ノ修理等ヲ必要ト認メ又ハ其ノ具申要求ヲ受ケテ之ヲ至當ト認メタルトキハ造船廠長ヲシテ之ヲ検査セシメ總算定額ノ範圍内ニ於テ其ノ緩急ヲ依リ左ノ各項ニ依リ工事ヲ處理スヘシ
 - 一 改造新設及艦船備附船舟ノ増備若ハ引換或ハ三般裝置ノ變更ニ係ルモノハ其ノ理由書ニ造船廠長ノ意見書工事方案及之ニ關シテ之ノ詳細及之ニ一應毎三般番號ヲ附シ工事日數入費概算ヲ記シ全工事ノ竣工期日ヲ定メ又其ノ工事二箇年度以上三箇年度ノ間トキハ各年度ニ要スル入費概算書ヲ添ヘ海軍大臣ノ認可ヲ受ケクヘシ

第三十八條 鎮守府司令長官第三十五條ニ係ル具申若ハ要求ヲ受ケ其ノ地方ニ於テ施行セサルヲ得サルモノト認ムルトキハ艦隊司令長官司令官又ハ艦船長官ハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長官ノ所屬艦船長官若ハ直ニ最近鎮守府司令長官ニ要求シ其ノ旨本籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ其ノ要求ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ第四十條ニ依リ工事ヲ處理スヘシ

第三十九條 鎮守府司令長官前條ノ場合ニ於テ他ノ海軍造船廠ノ技術官職工ノ派遣及材料ノ送附ヲ便宜ト認ムルトキハ便宜ノ鎮守府司令長官ニ要求スヘシ其ノ要求ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ第四十條ニ依リ工事ヲ處理スヘシ

第四十一條 本籍鎮守府下遠隔ノ地ニ於テ艦船ニ損傷修理事等ヲ發見シ臨時急務ヲ要シ本籍鎮守府ニ要求スルトキハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長官ハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長官ノ所屬艦船長官若ハ直ニ最近鎮守府司令長官ニ報告スヘシ其ノ理由明細書ニ工事日數入費明細書ヲ添ヘ本籍鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十二條 艦船航海中修理或ハ引換ノ工事ヲ要シ其ノ性質艦船ノ安危ニ關シ或ハ航行ヲ妨クル等ニシテ第三十五條若ハ第四十一條ニ依ルコト能ハサルトキハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長官ハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長官ノ所屬艦船長官若ハ直ニ最近鎮守府司令長官ニ報告スヘシ其ノ理由明細書ニ工事日數入費明細書ヲ添ヘ本籍鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官所屬造船廠工事ノ都合ニ依リ艦船ノ修理等ヲ私立製造所ニ依リ托セントスルトキハ又ハ第三十七條ニ依リ既ニ認可ヲ得タル工事ヲ他ノ海軍造船廠ニ移サントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第四十五條 艦船備附ノ艇舟ヲ増備若ハ引換ノ爲メ製造スルトキハ軍務局中ノ艦船ノ修理費ヲ以テ支辨シ第二十四條乃至第二十九條ヲ適用シ其ノ船種若ハ寸法ヲ變更シタルモノニ在テハ尚ホ第三十條第三十一條ヲ適用ス但部屬校艦附屬ノ船舟ニ在テハ修理費ヲ以テ引換製造スルトコトヲ得ス總テ第二章ニ依ルヘシ

第五十四條 軍艦備附ノ艇舟及水雷艇備附ノ艇舟其ノ他ノ汽艇備附ノ艇舟若ハ其ノ所屬ヲ識別スル爲メ目標ヲ附ス其ノ目標ハ本艦艇及所屬部屬校艦名ノ平假名頭字一文字（ヨリ）或ハ二文字（ヨリ）ヲ船舟頭ノ兩舷ニ附著スヘシ其ノ色ハ艦艇用艇舟ハ金色其ノ他白色ノ船舟ニハ黑色黑色ノ船舟ニハ白色トシ其ノ文字及書體ハ軍務局長ヲシテ之ヲ定メシム（下略）

第七十六條 船體機關其ノ他ノ改造新設廢却改色艦船備附船舟ノ引換増備其ノ他試運轉ノ結果等ニ依リ在來艦船ノ要目表ノ項目ニ異動ヲ生シタルトキハ造船廠若ハ鎮守府主務局ヨリ艦船長軍港部長水雷艇所屬長若ハ船舟所屬長ニ報告シ明細表ニ異動ヲ生シタルトキハ軍務局ニ報告スヘシ

○海軍省達第四十八號
舊軍艦鳳翔ヲ海軍兵學校ニ付屬セシム

明治三十二年三月十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四十九號
艦船發著報告例左ノ通改正ス

明治三十二年三月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

艦船發著報告例

- 第一條 艦船ノ發著報告ハ總テ電報ヲ以テスルヲ例トス但電信局ナキ地ニ在テハ最近ノ郵便ヲ以テスルモノトス
- 第二條 艦船内國ノ港灣ニ發著スルトキハ其艦船ヨリ海軍省及所管長官(司令官麾下ノ艦船ニ在テハ該司令官ニモ)ニ報告スヘシ
- 第三條 艦船外國ノ港灣ニ發著スルトキハ其艦船ヨリ海軍省ニ報告シ海軍省ハ之ヲ其所管長官ニ通知ス(司令官麾下ノ艦船ニ在テハ艦隊司令官ヨリ司令官ニ通達ス)但司令官若クハ司令官モ亦外國ニ在ルトキハ海軍省ニ報告スルト同時ニ其艦船ヨリ直ニ該官ニ報告スヘシ
- 郵便ヲ以テ本條ノ報告ヲ爲ス場合ニハ第一條ノ例ニ依ル
- 第四條 外國航海ノ艦船始メテ本邦ヲ發シ若クハ始メテ本邦ニ歸著スルトキハ第二條ニ依ルノ外尙ホ乗組下士卒ノ籍ヲ管スル海兵團ニモ通知スヘシ但鎮守府司令官麾下ノ艦船ナルトキハ其鎮守府所屬ノ海兵團ニハ艦船ヨリノ通知ヲ要セス鎮守府ヨリ通達スルモノトス
- 第五條 艦船乗組ノ下士卒入院シアルニ當リ該艦船内國ノ港灣ニ發著スルトキハ其發著ヲ該病院

ニ通知スヘシ

第六條 艦船二隻以上同時ニ發著シ或ハ所管長官司令官若クハ先任艦長ノ所在地ニ發著スルトキハ同所管所屬中ノ先任將校ヨリ海軍省又ハ所管長官若クハ司令官ニ報告ス但海兵團若クハ病院ニ對スル通知ハ各艦船ヨリ之ヲ爲ス

第七條 海軍省又ハ所管長官若クハ司令官ニ對スル出發報告ニハ其航向地名ヲ記スヘシ又發著報告ノ電信文ハ左ノ例ニ依リ發信艦船名ヲ電文ノ末尾ニ記スヘシ所在先任將校ヨリ他艦ノ發著ヲ報告スルトキト雖モ亦單ニ發著艦船ノ名ヲ以テ發信スルモノトス但發著間際ニ於テ發信シ能ハサル事情アルトキ若クハ電信局ナキ地ヨリ發信スルトキハ必要ニ應シ發著時刻及發著地名等ヲ記スルヲ要ス

(例)

- 出艦ノトキ
佐世保ニ向ケ行ク高千穂(英文 Leave for Colombo Takachio)
又ハ
明日午前四時莫ニ向ケ行ク高千穂(英文 Leave for Malta four AM tomorrow Takachio)
或ハ
封令出艦高千穂(英文 Leave, sealed Takachio)
著港ノトキ
著高千穂(英文 Arrived Takachio)
又ハ
昨午後十一時著高千穂(英文 Arrived eleven PM yesterday Takachio)
著港後直ニ出艦スヘキ豫定ノトキ
著午後三時橫濱莫ニ向ケ行ク高千穂(英文 Arrived, leave for Port said three PM Takachio)

第八條 艦團隊等附屬ノ艦船發著報告ハ司令官麾下ノ艦船ト同一ノ例ニ依ル

第九條 水雷艇ハ左ノ區域外ニ出港スルトキハ本例ニ依リ報告通知スヘシ

横須賀 劍崎下洲崎トノ結合線以外

吳 宮島瀬戸 那沙美瀬戸 大野瀬戸 早瀬戸 隠戸ノ瀬戸

佐世保 軍港外

竹敷 大口灣外

第十條 本例ニ依リ艦船發著報告ヲ海軍省ニ於テ受ケタルトキハ直ニ海軍軍令部ニ通知ス

第十一條 戰時若クハ事變中ニ於ケル艦船發著報告ニ臨時ノ命令ヲ以テ規定スルコトアルヘシ

○海軍省達第五十號

主計長交代ノトキハ後任者著任ノ日ヨリ三日以内ニ於テ事務引繼ヲ完結スヘシ

但後任者速ニ著任セサル場合ニ於テハ可成代理者ヲ設ケ其ノ事務ヲ引繼カシメ速ニ赴任セシムヘシ

明治三十三年三月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五十一號

明治三十三年達第四百三號ヲ廢ス

明治三十三年三月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十三年三月二十二日 海軍省達第四百三號ハ艦隊主計長交替ノトキ事務引繼ノ件ナリ

○海軍省達第五十二號

雜役船隻還納及賣却手續左ノ通改正ス

明治三十三年三月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

雜役船隻還納及賣却手續

第一條 艦團部校附屬ノ雜役船隻ヲ還納セントスルトキハ其ノ理由ヲ記シ本籍鎮守府司令長官

ノ軍艦ニ在テハ艦隊司令長官ヲ經由シ承認ヲ受ケ附屬物ト共ニ之ヲ軍港部長ニ引渡スヘシ

第二條 軍港部長還納船隻ヲ領收シタルトキハ直ニ還納元艦團部校名船種船名若クハ番號並ニ還

納ノ理由ヲ記シ附屬物目錄ヲ添ヘ軍務局長ニ報告スヘシ

軍港部長ハ還納船隻ヲ保管シ適宜帳簿ヲ備ヘ保管船隻ノ受授ヲ明記スヘシ

第三條 鎮守府司令長官軍港部保管ノ船隻ヲ再ヒ他ノ艦團部校ニ附屬セシメ又ハ一時使用セシメ

タルトキハ其ノ理由ヲ記シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四條 艦團部校附屬又ハ軍港部保管ノ雜役船隻ヲ賣却セントスルトキハ鎮守府司令長官造船廠

長ヲシテ検査セシメ修理ヲ加フルノ價值ナク且使用ノ見込ナキモノハ造船廠ニ於テ賣却セシメ

其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ其ノ船隻排水量百噸以上又ハ小蒸氣船ナルトキハ海軍大臣ノ認可

ヲ受クヘシ但附屬物ノ内後來使用ノ見込アルモノハ艦船取外物品トシ保管スヘシ

第五條 造船廠ニ於テ賣却シタルトキハ鎮守府經理部ニ移シ收入ノ手續ヲ爲シ其ノ賣却代價及豫

定價格ハ一艘毎ニ明記シ造船廠ヨリ軍務局ニ報告スヘシ

第六條 艦團及要港部ニ於ケル還納船隻ノ備品ハ各其ノ主管庫ニ還納シ其ノ他ニ在テハ軍港部ニ

保管轉換ヲ爲スヘシ

○海軍省達第五十三號

雇員備人規則第一條表中器械手ノ欄「病院」ヲ削除シ第三條表中砲包器械手又砲包手ヲ削除シ更ニ

左ノ通追加ス

明治三十二年三月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

職名ノ次ニ

研 磨 手 海 軍 病 院

倉庫丁ノ欄艦營需品庫ノ下ニ療品庫

定夫ノ次ニ

洗 濯 夫 海 軍 病 院

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省達第五十四號

停年計算規則第六條第六但書左ノ通改正ス

明治三十二年三月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

但外國ニ於テ製造ノ新艦又ハ水雷艇ニシテ明治三十年七月一日以後受領ノモノハ高等武官ニ在テハ其ノ日ヨリ下士以下ニ在テハ回航ノ爲本邦出發ノ日ヨリ算ス

〔參照〕

海軍省達第八號停年計算規則(明治二十九年二月十九日抄録)

第六條 左ニ掲クル日數ハ海上勤務ニ算入ス

六 特ニ豫備艦非役艦新艦又ハ水雷艇ノ回航ヲ命セラレタルトキハ發令ノ日ヨリ回航ヲ終リ著港當日マテノ日數俱外國ニ於テ製造ノ新艦又ハ水雷艇ニシテ明治三十年七月一日以後受領ノモノハ其ノ日ヨリ算ス

○海軍省達第五十五號

外國駐在海軍武官手當金支給細則左ノ通定ム

明治三十二年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

外國駐在海軍武官手當金支給細則

第一條 明治三十二年勅令第七十二號ノ手當金ハ職務ノ性質ニ應シ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 手當金ハ駐在ヲ命セラレタルトキハ等級ヲ定ム其ノ令達ナキ者ニハ二等手當金ヲ支給ス

第三條 手當金ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 新ニ駐在ヲ命セラレ若ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ任所到達ノ翌日ヨリ

二 外國在留中ノ者勤務出張若ハ修學等ヲ罷メ其ノ地駐在ヲ命セラレタルトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ

三 外國駐在中ノ者駐在ヲ免セラレ歸朝若ハ任所ヲ去ルトキハ任所出發ノ前日マテ

四 外國駐在中ノ者駐在ヲ免シ其ノ地勤務出張若ハ修學等ヲ命セラレタルトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日マテ

五 駐在中死亡シタルトキハ其ノ當日マテ

第四條 外國駐在中ノ者駐在ヲ免セラレ歸朝若ハ任所ヲ去ルトキ其ノ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヨリ二十日ヲ過キ尙出發セサルトキハ其ノ翌日ヨリ手當金ヲ支給セス但特ニ滞在ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 手當金ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其ノ月支給スヘキ金額ニ日數ヲ乘シ月ノ現日數ヲ以テ之ヲ除シ厘位ニ止ム

第六條 本細則ハ外國駐在海軍武官手當金規則施行ノ日ヨリ施行ス
(別表)

國名	英	露	米	佛	獨	澳	伊	清	歐
等級	一等	二等	一等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
年額	四千圓	三千五百圓	三千五百圓	三千五百圓	三千二百圓	二千四百圓	二千二百圓		

○海軍省達第五十六號

職工人夫給與規則第二條ヲ左ノ通改正ス
本達ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十二年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 職工人夫ニシテ就業時間中午前退業シタルトキハ日給ヲ給セス午後退業シタルトキハ日給ノ半額ヲ給ス但麵包器械工及麵包夫ニシテ夜業就役中四時間以上ニ及ヒ退業シタルトキハ日給ノ半額ヲ給シ四時間未満ニシテ退業シタルトキハ日給ヲ給セス
職工人夫就業中公務負傷ノ爲メ退業スルトキハ前項ノ區分ニ依ラス日給ヲ給ス

(參照)

海軍省達第六十三號職工人夫給與規則(明治二十五年八月十五日)抄録
第二條 職工人夫ハ就業シタル日ト雖モ午前ニ退業シタルトキハ日給ヲ給セス午後ニ退業シタルトキハ日給ノ中額ヲ給ス但公務負傷ノ爲メ退業スルトキハ前項ニ在ラス
○海軍省達第五十七號
鎮守府經理部衣糧庫ニ於テ使役スル麵包器械工並麵包夫就業時間別表ノ通定ム

本達ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十二年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

(別表)

業別	就業定時間	起業時間	停業時間
日業	十時	午前六時三十分	午後四時三十分
夜業	八時	午後四時	午後十二時

公暇日モ本表ニ依ル
本表定時間外ニ増服業ヲ爲サシムル場合ニ在テハ鎮守府司令長官限リ之ヲ施行スルコトヲ得
鎮守府司令長官ニ於テ定時間外ニ時間以上ノ増服業ヲ爲サシムルトキハ其ノ都度就業ノ時間及日數ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但當時ニ時間ヲ超過スル増服業ヲ要スルトキハ豫メ之ヲ報告シ置クコトヲ得

○海軍省達第五十八號

雇員備人給與規則別表備人給料最上限表中「麵包器械手」及「麵包手」ヲ削除シ「日給一圓三十錢」ノ下ニ「日給一圓二十錢」ノ欄ヲ設ケ「研磨手」ヲ加ヘ「日給六十錢」ヲ下ニ「日給五十錢」ノ欄ヲ設ケ「洗濯夫」ヲ加フ

本達ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十二年三月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五十九號

守備備人被服規則第一條及服制表中定夫ノ次へ洗濯夫ヲ追加ス

海軍省達第六十號

普通物品會計規程中左ノ追加ス

明治三十二年三月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

一第十三條一項ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

甲科目(造船材料資金ニ屬セサル)ニ屬スル工業用ノ材料物品(造船用材料)ヲ一時乙科目ノ工業ニ使用ノ爲メ貸出サントスルトキハ第十三號書式甲科目物品出納原簿ノ貸出欄及第十四號書式乙科目物品出納原簿ノ受ノ部ニ借入ノ欄ヲ設ケテ之ニ記載シ而シテ乙科目ニ於テ其物品ヲ購入シタルトキハ拂ノ部ニ返戻ノ欄ヲ設ケテ之ニ記載スルト同時ニ生産ノ爲メノ欄ニ其數量ヲ記載シ以テ甲科目ノ出納原簿へ戻入スルモノトス

前項ノ貸出及戻入ノトキハ物品會計官吏ニ於テ適宜ノ用紙ニ其品名數量理由等ヲ記載シ命令官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ物品出納原簿ノ證據トシ工場ヨリ出ス所ノ第二號物品受領票ハ乙科目出納原簿ヨリ生産ノ爲メ拂出ストキノ證據トシ其代價ヲ記載スヘシ

甲科目ニ屬スル物品ニ剩餘ヲ生シ將來使用ノ目的ナキモノニシテ海軍大臣ノ認許ヲ得之ヲ乙科目ノ工業ニ移用セントスルトキハ甲乙トモ物品出納原簿ノ保管轉換欄ニ記載スルモノトス但物品會計官吏ノ同一人ナル場合ニ於テハ轉記ノ欄ヲ設ケテ記載スヘシ

一第十一號様式殘ノ部數量ノ下ヲ「貸出」在庫ノ二欄ニ改ム

(第十三號第十四號書式略ス)

海軍省達第六十一號

海軍兵學校規則左ノ通改ム

明治三十二年三月三十日

海軍大臣山本權兵衛

海軍兵學校規則

第一條 校長ハ海軍兵學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 校長ハ海軍兵學校條例第二十二條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ

第三條 校長ハ大試験ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ毎學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 校長ハ夏期冬期休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ檢査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ經テ豫定ノ人員ヲ採用シ之ニ入校ヲ命ス

校長ハ入校ニ際シ更ニ體格ノ檢査ヲ行ヒ不合格ノ者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ入校ノ命ヲ取消シ次點者ヲ採用ス但シ已ムヲ得サル事情ニ因リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

第八條 校長ハ入校及其ノ他ノ試験問題ヲ定ム

第九條 學年ハ三學年ニ分チ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

第十條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテ夏夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マ

テヲ冬季休業トス但シ教授上リ都合ニ依リ前記休業日數ヲ短縮スルコトヲ得

第十一條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ且學術優等ノ者若ハ品行特ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第十八條ニ規定スル學術優等章若ハ品行善良章ヲ與フ

第十二條 學術優等章ヲ有スル者ニシテ大試験ニ落第スルカ又ハ品行善良章ヲ有スル者ニシテ本校生徒懲戒則若ハ海軍懲罰令ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十四條 大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考査シ卒業ノ目途アル者ニハ一學年ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

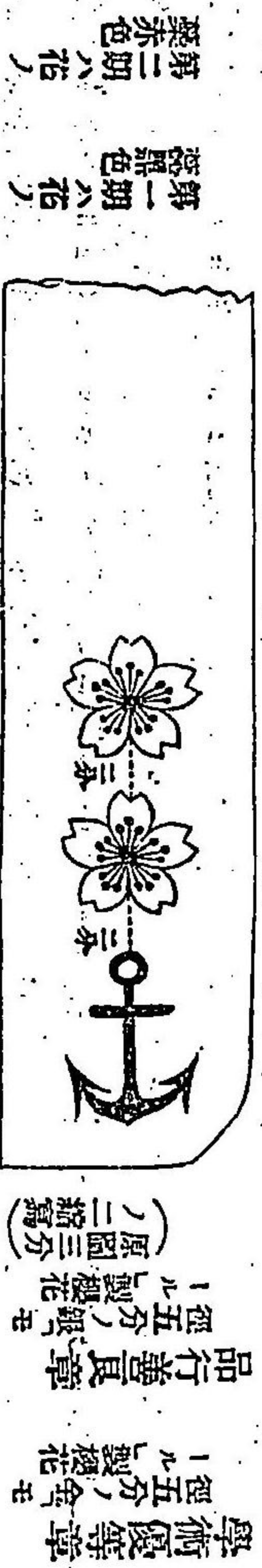
前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十五條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖傷疾ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第十六條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験ニ際シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十七條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬ス

第十八條 本則第十一條ニ掲グル徽章ハ軍服ニノミ附著スル者ニシテ其ノ制式ハ左圖ノ如シ但シ學術優等章ハ金モール品行善良章ハ銀モールヲ以テ左右襟ニ附著セシムルモノトス



第十九條 兵學校勤務ノ下士卒ハ校内若ハ附屬艦船内ニ起臥セシムルモノトス

○海軍省達第六十二號

海軍機關學校規則左ノ通改ス

明治三十二年三月二十日

海軍大臣山本權兵衛

海軍機關學校規則

第二條 校長ハ海軍機關學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第三條 校長ハ大試験及卒業試験ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 校長ハ夏期冬季休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ検査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ經テ豫定ノ人員ヲ採用シ之ニ入校ヲ命ス

校長ハ入校ニ際シ更ニ體格ノ検査ヲ行ヒ不合格ノ者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ入校ノ命ヲ取消シ次點者ヲ採用ス但シ已ムヲ得サル事情ニ因リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

第八條 校長ハ入校及其ノ他ノ試験問題ヲ定ム

第九條 學年ハ三學年ニ分チ第一及第二學年ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル第三學年ハ二月十日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテテ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテテ冬季休業トス但シ教授上ノ都合ニ依リ前記休業日數ヲ短縮スルコトヲ得

第十一條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ且學術優等ノ者若ハ品行特ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第十八條ニ規定スル學術優等章若ハ品行善良章ヲ與フ

第十二條 學術優等章ヲ有スル者ニシテ大試験ニ落第スルカ又ハ品行善良章ヲ有スル者ニシテ本校生徒懲戒則若ハ海軍懲罰令ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十四條 大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考査シ卒業ノ目途アル者ニハ一學年ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フコトヲ得
傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験若ハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

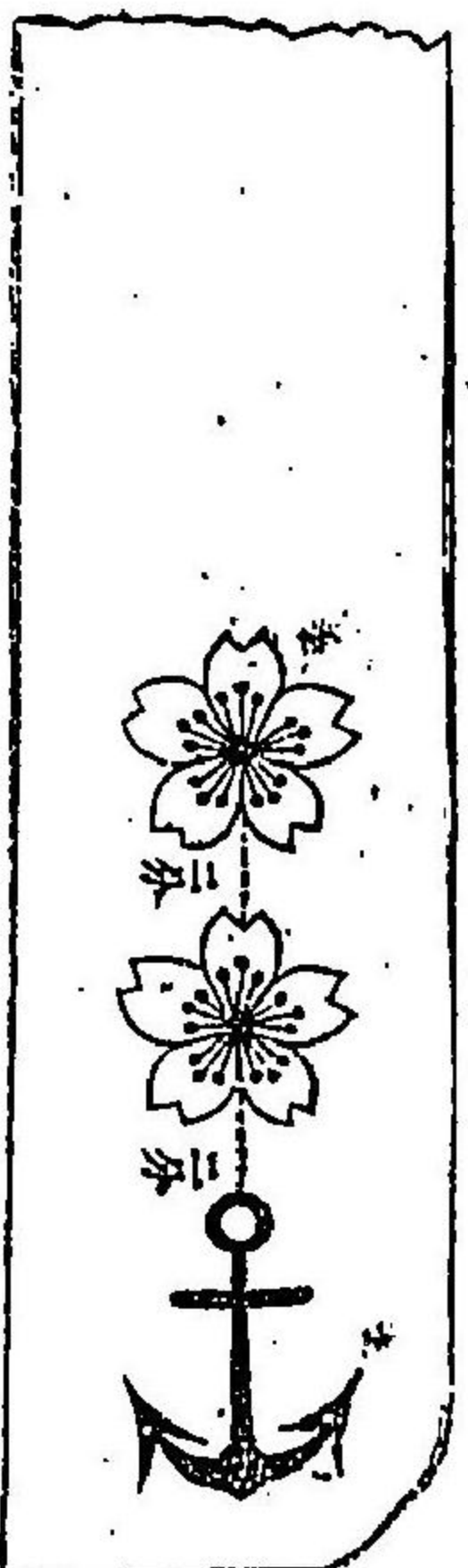
第十五條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖モ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第十六條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験若ハ卒業試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十七條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬ス

第十八條 本則第十一條ニ掲グル徽章ハ軍服ニノミ附著スル者ニシテ其ノ制式左圖ノ如シ但シ學術優等章ハ金モール品行善良章ハ銀モールヲ以テ左右襟ニ附著セシムルモノトス

學術優等章
品行善良章



學術優等章
品行善良章

第十九條 機關學校勤務ノ下士卒ハ校内若ハ附屬船艇内ニ起臥セシムルモノトス

○海軍省達第六十三號

海軍砲術練習所規則左ノ通改ム

明治三十二年三月三十日

海軍大臣山本權兵衛

海軍砲術練習所規則

第一條 所長ハ海軍砲術練習所條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可

可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 海軍砲術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 所長ハ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ砲術教授ノ成績及進歩並ニ砲術練習生ノ技能品行ヲ
考查シ之ヲ砲術進歩録ニ記註スヘシ

第四條 所長ハ大試験成績表ニ意見ヲ附シ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進
達スヘシ

第五條 所長ハ毎年ノ終ニ於テ教育報告ヲ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進
達スヘシ

第六條 海軍佐官ニシテ砲術練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ進達スルモ
ノトス

海軍上等兵曹ニ砲術練習ヲ爲サシムルハ海軍大臣之ヲ命スルノ外練習ヲ志願セントスル者ハ順
序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ進達スルモノトス

第七條 砲術復習ヲ志願セントスルモノハ掌砲證狀若ハ砲術教員適任證書有效滿期一箇年以前ニ
於テ所轄長ニ出願シ所轄長ハ海軍砲術練習所條例第十九條ニ依リ適當ト認メタルトキハ本則第
二十二條ニ掲グル所見表ヲ添ヘ所長ニ通知スヘシ

第八條 砲術練習生ノ人員ハ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス但シ鎮守府毎ニ所要ノ人員
ヲ得ル能ハサルトキハ各鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得

砲術練習生ノ採用期限ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム
砲術復習者ノ人員ハ第二項ノ練習生ヲ合シ本則第二十條ノ人員ニ滿ルマテ採用スルコトヲ得

本則第七條ノ手續ヲ了シタル者航海等ノ爲メ砲術練習生ニ採用スルコト能ハサリシトキハ其ノ
事止ミタル後採用スルコトヲ得

第九條 砲術練習生採用ノ達アリタルトキハ各所轄長ハ海軍砲術練習所條例第十七條第五ラニ適
合スル者ノ中ヨリ選抜シ所見表ヲ添ヘ其ノ官職姓名ヲ所長ニ通知スベシ

第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試験問題ヲ祕封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試験ヲ行ヒ其
ノ答解書ヲ所長ニ送附スヘシ但シ試験ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試験問題ノ封筒
ニ記入スルモノトス

試験ハ作文算術ノ二科トシ作文ハ通俗文算術ハ分數ヲ程度トス

第十一條 所長ハ砲術練習生ニ採用スヘキ者ヲ選抜シ之ヲ各鎮守府毎ニ區別シ入學期日ヲ定メ所
管長官ニ具申スヘシ

横須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ之ヲ各其ノ司令長官ニ送附ス
ヘシ
各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ砲術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシム
ヘシ

所長ハ入所シタル砲術練習生ノ人員ヲ所管長官ニ報告シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十二條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ掌砲證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上ノ勤務ニ服シ且海軍
砲術練習所條例第十八條ニ適合スル者ニアラサレハ選抜スルコトヲ得ス

第十三條 艦砲射撃ノ成績ハ其ノ得點數ニ應シ之ヲ三等ニ分ツ

第十四條 海軍砲術練習所條例第十八條ノ練習生卒業シタルトキハ試験及艦砲射撃ノ成績ニ從ヒ

砲術教員適任證書及一等掌砲證狀若ハ一等掌砲證狀ヲ授與シ同條例第十九條ノ練習生卒業シタルトキハ試験ノ成績ニ從ヒ相當ノ證書證狀ヲ授與ス

第十五條 本所教員ノ職ヲ奉スル者ニシテ砲術教員適任證書有效滿期ニ際シ尙ホ教員タルニ適合スト認メタルトキハ教授ノ都合ヲ以テ若干日間緊要ト認ムル科目ヲ履修セシメ試験ニ及第セル者ハ砲術教員適任證書及一等掌砲證狀ヲ授與スルコトヲ得

第十六條 艦砲射撃ニ於テ其ノ成績不良ナル者ニハ再發射ヲ爲サシムルコトヲ得但シ掌砲兵ト爲スヘキ砲術練習生ニシテ再發射ヲ爲シ及第セル者ニハ二等掌砲證狀ヲ授與ス

第十七條 砲術練習生左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム

- 一 艦砲射撃ニ落第シタル者
- 二 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者
- 三 砲術教員又ハ掌砲兵タルニ適セサル者

第十八條 砲術練習生卒業ノ上ハ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十九條 砲術練習所職員除クハ所内ニ在勤スルモノトス

砲術ノ教授ヲ受クル准士官以上ハ通學トシ練習生及商船學校學生ハ所内ニ起臥セシム

第二十條 砲術練習生在所人員ハ四百名以内トス

第二十一條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス

但シ教務ノ都合ニ依リ此ノ時期ヲ多少變換スルコトヲ得

第二十二條 所見表ノ書式ハ左ノ如シ

砲術練習生所見表

掌砲兵若ハ砲術教員ト爲スヘキ者カ又ハ再掌砲證狀若ハ砲術教員適任證書ヲ得シトスル砲術練習生ナルカヲ明記スヘシ

身體及視力	所管官職姓名及年齢
善行章及行狀	海上勤務
證狀若ハ證書等 級及有效期間	罰
服役年數 服役滿期ノ日及卒業後ノ服役年數ヲ記シ本人ヲシテ捺印セシム	
品行及勤務	
性質及獎勵	
何々	
何々	
長	
所	
見	分隊長 官姓名印
右所見ノ件々ハ本願共ノ擔保ノ責ニ任ス	所轄長 官姓名印
右砲術練習生ニ適當スル者ト認ム	
年、月、日	

○海軍省達第六十四號
海軍水雷術練習所規則左ノ通改ム

明治三十二年三月三十日

海軍大臣 山本權兵衛

海軍水雷術練習所規則

- 第一條 所長ハ海軍水雷術練習所條例及本則ニ依リ職務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 海軍水雷術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス
- 第三條 所長ハ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ水雷術教授ノ成績及進歩並練習生ノ技能品行ヲ考查シ之ヲ水雷術進歩録ニ記註スヘシ
- 第四條 所長ハ大試驗成績表ニ意見ヲ附シ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第五條 所長ハ毎年ノ終ニ於テ教育報告ヲ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第六條 海軍佐官ニシテ水雷術練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ進達スルモノトス
- 海軍機關士、上等兵曹及上等機關兵曹ニ水雷術練習ヲ爲サシムルハ海軍大臣之ヲ命スルノ外練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ進達スルモノトス
- 第七條 水雷術復習ヲ志願セントスル者ハ掌水雷證狀若ハ水雷術教員適任證書有效滿期一箇年以前ニ於テ所轄長ニ出願シ所轄長ハ海軍水雷術練習所條例第二十條ニ依リ適當ト認メタルトキハ本則第二十條ニ掲ケル所見表ヲ添ヘ所長ニ通知スヘシ
- 第八條 水雷術練習生ノ人員ハ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス但シ鎮守府毎ニ所要ノ人員ヲ得ル能ハサルトキハ各鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得

水雷術練習生ノ採用期限ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム

水雷術復習者ノ人員ハ第一項ノ練習生ヲ合シテ本則第十八條ノ人員ニ滿ルマテ採用スルコトヲ得

本則第七條ノ手續ヲ了シタル者航海等ノ爲水雷術練習生ニ採用スルコト能ハサルトキハ其ノ事止ミタル後採用スルコトヲ得

第九條 水雷術練習生採用ノ達アリタルトキハ各所轄長ハ海軍水雷術練習所條例第十八條第五ノニ適合スル者ノ中ヨリ撰拔シ所見表ヲ添ヘ其ノ官職姓名ヲ所長ニ通知スヘシ

第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試驗問題ヲ祕封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送附スニシ但シ試驗ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ノ封筒ニ記スルモノトス

試驗ハ作文、算術ノ二科トシ作文ハ通俗文、算術ハ分數ヲ程度トス

第十一條 所長ハ水雷術練習生ニ採用スヘキ者ヲ撰拔シ之ヲ各鎮守府毎ニ區別シ入學期ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ

横須賀鎮守府司令長官前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ之ヲ各其ノ司令長官ニ送附スヘシ

各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ水雷術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシムヘシ

第十二條 水雷術教員ト爲スヘキ者ハ掌水雷證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上ノ勤務ニ服シ且

- 海軍水雷術練習所條例第十九條ニ適合スル者ニアラサレハ選抜スルコトヲ得ス
- 第十三條 海軍水雷術練習所條例第十九條ノ練習生卒業シタルトキハ試験ノ成績ニ從ヒ水雷術教員適任證書及一等掌水雷證狀若ハ一等掌水雷證狀ヲ授與シ同條例第二十條ノ練習生卒業シタルトキハ試験ノ成績ニ從ヒ相當ノ證書證狀ヲ授與ス
- 第十四條 本所教員ノ職ヲ奉スル者ニシテ水雷術教員適任證書有效滿期ニ際シ尙ホ教員タルニ適合スト認メタルトキハ教授ノ都合ヲ以テ若干日間緊要ト認ムル科目ヲ履修セシメ試験ニ及第セル者ハ水雷術教員適任證書及一等掌水雷證狀ヲ授與スルコトヲ得
- 第十五條 水雷術練習生左ニ掲グル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム
- 一 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者
 - 二 水雷術教員又ハ掌水雷兵若ハ水雷工タルニ適セサル者
- 第十六條 水雷術練習生卒業ノ上ハ各共ノ本籍海兵團ニ復歸セシム
- 第十七條 水雷術練習所職員書記ヲ除クハ所内ニ在勤スルモノトス
- 水雷術ノ教授ヲ受クル准士官以上ハ通學トシ練習生ハ所内ニ起臥セシム
- 第十八條 水雷術練習生在所人員ハ二百名以内トス
- 第十九條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏期休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス但シ職務ノ都合ニ依リ此ノ時期ヲ多少變換スルコトヲ得
- 第二十條 所見表ノ書式ハ左ノ如シ

水雷術練習生所見表

掌水雷兵、水雷工若ハ水雷術教員ト爲スヘキ者カ又ハ再掌水雷術練習生トシテ入所スル者ハ本所見表ニ記載スルコトヲ得

身 體 及 視 力	所管官職姓名及年齢
行 事 及 行 狀	海 上 勤 務
證 狀 若 ハ 證 書 等 級 及 有 效 期 限	賞 罰
服 役 年 數 <small>服役滿期ノ日及卒業後ノ服役年數ヲ記シ本人ヲシテ捺印セシム</small>	
分 隊	
性 質 及 舉 動	
何 ヲ	
何 ヲ	
見 所	分隊長 官 姓 名 印
見 所	所轄長 官 姓 名 印
年 月 日	
右水雷術練習生ニ適當スル者ト認ム	

○海軍省達第六十五號
海軍機關術練習所規則左ノ通改ム
明治三十三年三月三十日
海軍機關術練習所規則

海軍大臣 山本權兵衛

第一條 所長ハ海軍機關術練習所條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 海軍機關術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 所長ハ學期ノ終リニ於テ教官ヲ會同シ授業ノ成績及進歩並練習生ノ技能品行ヲ考查シ之ヲ機關術、船匠術、鍛冶術進歩録ニ記註スヘシ

第四條 所長ハ大試験成績表ニ意見ヲ附シ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 所長ハ毎年ノ終リニ於テ教育報告ヲ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 所長ハ機關術教員適任證書ヲ有スルモノニ復習ノ必要ヲ認メ之ヲ入所セシメントスルトキハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 海軍上等機關兵曹及船匠師ニ練習ヲ爲サシムルニハ海軍大臣之ヲ命スルノ外練習ヲ志願セントスル者ハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ出願スヘシ

第八條 練習生ノ人員ハ各兵種ノ須要ニ應ジ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月海軍大臣之ヲ告達ス但鎮守府毎ニ所要ノ人員ヲ得ル能ハサルトキハ各鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得

練習生ノ採用期限ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム

練習生ニ採用セラレタル者航海等ノ爲メ入所スル能ハサルトキハ其ノ事止ミタル後採用スルコトヲ得

第九條 練習生採用ノ達アリタルトキハ各所轄長ハ海軍機關術練習所條例第十七條第五項ニ適合スル志願者ノ中ヨリ選抜シ並同條例第十八條第十九條ニ適合スル志願者ヲ取纏メ所見表別表ヲ添ヘ其ノ官職氏名ヲ所長ニ通知スヘシ

第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ機關術、船匠術若クハ鍛冶術ヲ練習セシムル者ニ於テハ試験問題ヲ密封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試験ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送附スヘシ但試験ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試験問題ノ封筒ニ記スモノトス

第十一條 掌機工、掌船工、船匠工若クハ兵器工ト爲スヘキ者ニ於テハ海軍機關術練習所條例第十八條及機關術教員ト爲スヘキ者ニ於テハ同條例第十九條ニ適合スル志願者中ヨリ選抜ス但選抜人員多數ナルトキハ卒業當時ノ成績ヲ比較シ其ノ順序ニヨリ採用ス

第十二條 所長ハ練習生ニ採用スヘキ者ヲ鎮守府毎ニ區別シ入學期ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ横須賀鎮守府司令長官前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ各其ノ司令長官ニ通知スヘシ

各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ各兵種ニ應ジ機關術、船匠術若クハ鍛冶術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシムヘシ

第十三條 練習生左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム

一 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ自途ナキ者

二 練習生ニ適セザル者

第十四條 練習生卒業ノ上ハ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十五條 機關術練習所下士以下ノ職員ハ所内ニ在勤スルモノトス

練習所ニ於テ教授ヲ受クル海軍上等機關兵曹及船匠師ハ通學トシ練習生ハ所内ニ起臥セシム
 第十六條 練習生ノ在所人員ハ二百名以内トス
 第十七條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日
 マテヲ冬季休業トス但職務ノ都合ニ依リ此ノ時期ヲ多少變換スルコトヲ得

機關術(船匠術 鍛冶術)練習生所見表

機關術(船匠術、鍛冶術)練習生所見表
 カ或ハ掌機工、掌機工、船匠工、兵機工若クハ機
 關術教員トナスヘキ者ナルカ或ハ又教員ノ復
 習ナルカヲ明記スヘシ

身 體 及 視 力	所 管 官 職 姓 名 及 年 齡
普 行 卒 及 行 狀	海 上 勤 務
證 書 證 狀 等 級	賞 罰
服 役 年 數 服 役 滿 期 ノ 日 及 卒 業 後 ノ 服 役 年 數 數 ヲ 記 シ 本 人 ヲ シ テ 捺 印 セ シ ム	
品 行 及 勤 務	
性 質 及 舉 動	
職 務 上 ノ 技 術	
工 藝 ニ 關 ス ル 優 劣 並 其 上 達 ノ 見 込	
何 ヲ	
何 ヲ	
見 所 長 隊 分	
右 所 見 ノ 件 ヲ 本 職 其 ノ 擔 保 ノ 責 ニ 任 ス	

明治 年 月 日

分隊長 官 姓 名 印

右機關術(船匠術 鍛冶術)練習生ニ適當スル者ト認ム

明治 年 月 日

所轄長 官 姓 名 印

○海軍省達第六十六號
 海軍大學校規則左ノ通り改ム

明治三十二年三月三十一日

海軍大臣 山本權兵衛

海軍大學校規則

- 第一條 校長ハ海軍大學校條例及本則ニ依リ職務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 校長ハ學年ノ終ニ於テ學生ノ試驗成績ヲ考查シ學業考課表ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第三條 校長ハ學年ノ終ニ於テ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教科ノ改良ニ就テ考查シ致頭ノ意見書ヲ添ヘ學事報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第四條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントズルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 學生ノ召募及試驗規格ハ海軍大臣之ヲ告達ス
- 第六條 將校科甲種學生選拔採用ノ告達アリタルトキハ將校考課表調製官ハ部下將校中海軍大學校條例第十五條ニ該當スヘシト認メタルモノアルトキハ將校科甲種學生候補者トシテ學生選拔表ヲ添ヘ之ヲ所管長官ニ推薦シ所管長官モ亦其ノ推薦ヲ適當ナリト認メタルトキハ學生候補名簿ヲ調製シ甲種學生選拔表ヲ添ヘ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第七條 將校科乙種學生採用ノ告達アリタルトキ各其ノ學生タランコトヲ志願スル者ハ海軍大學

校條例第十六條ニ據リ砲術、水雷術若ハ航海術ノ各專科ヲ定メ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ

第八條 機關科長期及短期學生採用ノ告達アリタルトキ所轄長ハ學生志願者中海軍大學校條例第十七條第一ニ該當スヘシト認メタル者アルトキハ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ出サシメ所轄長

第九條 選科學生ヲランコトヲ志願スルモノハ海軍大學校條例第十八條ニ據リ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ海軍大臣ハ志願者ノ學識性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ審査セシム

第十條 校長ハ海軍大臣ヨリ試驗ヲ行フヘキ學生候補者人名ノ通牒ヲ受テタルトキハ試驗問題ヲ密封シ各所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送附ス校長ハ之ヲ調査シ成績表ヲ海軍大臣ニ進達スベシ但シ試驗ハ各地同日ニ行フベキモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ノ封筒ニ記スルモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ其ノ期日ニ於テ試驗ヲ行フ能ハサル時ハ所轄長ハ試驗問題漏洩ノ虞ナキ限りハ其ノ期日ニ係ラス試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ事情ヲ海軍大學校長ニ通告スヘシ

第十一條 將校科甲種學生ニ在テハ海軍大臣ハ其ノ學生候補名簿及試驗成績其ノ他銓衡ノ資料ト爲スヘキ考課書類ヲ海軍大學校學生銓衡委員ニ附シテ審査セシム

第十二條 學生銓衡委員ハ審査ノ上最終試驗ヲ受クヘキ者ヲ決定シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ海軍大臣ハ銓衡委員ヲシテ最終試驗ヲ行ヒ審査ノ上決定候補名簿ヲ關製進達セシム但シ最終試驗

ハ口頭ニ依ルヲ例トスト雖場合ニ依リ口頭試驗ヲ行ヒ難キ者ニ限り筆記試驗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 海軍大學校ノ學年ハ每年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第十四條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス

第十五條 海軍大學校學生ノ修學期ヲ左ノ如ク種別ス
一 將校科甲種學生 二箇年
二 將校科乙種學生 一箇年

三 選科學生 凡一箇年
四 機關科長期學生 二箇年
五 機關科短期學生 一箇年

右ノ如ク定ムト雖時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルヘシ

第十六條 砲術若ハ水雷術專科ヲ修ムル乙種學生卒業試驗ニ及第スルトキハ其ノ成績表ヲ砲術若ハ水雷術練習所ニ移スモノトス

第十七條 選科學生ハ學期ノ終ニ於テ自己ノ研究セル學術ニ就キ著作ヲ爲シ之ヲ校長ニ提出スヘシ
校長ハ教官ニ著作審査委員ヲ命シ之ヲ審査セシメ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十八條 學生ハ將校三十名機關官十五名以內トス

第十九條 學生ハ通學スルモノトス

第二十條 將校科甲種學生選拔表及候補名簿書式ハ左ノ如シ

海軍大學校學生選拔表

所管職官姓名	現官級任	職役	年	海軍出身	實役停年	罰	所	所長	所	見	年月日	所轄長官姓名印
一												
二												
三												

海軍大學校學生候補名簿

候補順序	官	職	姓	名	年月日	所管長官姓名印
一						
二						
三						
四						

右海軍大學校學生候補ニ適當ナル者ト認ム

○海軍省達第六十七號

明治三十年達第百十號ヲ廢ス

明治三十二年三月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

明治三十年九月七日海軍省達第百十號ハ海軍大學校教程ナリ

○海軍省達第六十八號

明治三十年達第百十二號ヲ廢ス

明治三十二年三月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

明治三十年九月七日海軍省達第百十二號ハ海軍機關學校教程ナリ

○陸達第三十二號
 衛戍病院條例第八條第二項ニ據リ臺灣及海外駐節部隊ヨリ廣島衛戍病院へ航送スル患者ノ取扱方
 左ノ通定ム

明治三十二年四月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 臺灣衛戍病院入院患者ニシテ内地へ轉送ヲ必要ト認メタル者アルトキハ當該病院長ハ所管旅團長ノ認可ヲ受ケ廣島衛戍病院へ航送スルモノトス但旅團長所轄外ノ患者ニ在テハ其所屬長ニ協議ノ上航送スヘシ
- 二 患者航送ノ場合ニハ病床日誌又ハ病況書ヲ添ユヘシ
- 三 航送ノ患者者ヲ云フ以下同シハ臺灣ノ港灣出發ノ日ヲ以テ臺灣ニ於ケル所屬部隊ノ名籍ヲ脱シ准士官以上憲兵下士上等兵隊外下士並文官雇員傭人ヲ除ク但内地ヨリ派遣セシメタル看病人雇工ハ本文ニ依ル 同時ニ原師團ノ所屬ニ移ルモノトス
- 三 廣島衛戍病院ニ於テ航送ノ患者ヲ收容シタルトキハ患者ノ官等氏名病症臺灣出發ノ日時及病院へ收容ノ日ヲ記シ原師團へ通報シ同時ニ陸軍省へ報告スヘシ
- 前項ノ通報ヲ受ケタル師團ニ在テハ該患者ノ名籍ヲ所管部隊ニ移シ其ノ旨臺灣ノ舊所屬部隊へ通報スヘシ但編制上定員外トナルトキハ陸軍大臣ノ區處ヲ請フヘシ
- 四 航送ノ患者中下士兵卒ニシテ現役、常備後備役若クハ永久服役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ病院長ハ診斷證書ヲ作り所管軍醫部長ノ審査ヲ經テ之ヲ所屬部隊 憲兵下士上等兵ニ移牒シ其ノ處分ヲ請求スヘシ
- 憲兵司令官ハ前項ノ請求ニ依リ陸軍服役條例第六十八條若クハ第一百條ノ取扱ヲ爲シ其ノ結果ヲ本人所屬隊長ニ告達スヘシ

准士官以上及文官ニシテ在職ニ堪ヘスト認ムル者又ハ臺灣ノ勤務ニ堪ヘサルモ内地ノ勤務ニ堪フヘキ見込アル者若クハ發病後六箇月ニ至リ尙ホ快復ノ兆ナキ者ハ其ノ都度狀ヲ具シ第五師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ申報スヘシ

五 航送ノ患者中士官以上並營外居住ノ准士官以下及文官ニ限リ病症ニ依リテハ本人又ハ親族ノ願ニ依リ第五師團長ノ認可ヲ經テ轉地若クハ自宅療養ヲ爲サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ治療ニ係ル諸費、糧食、旅費等總テ官給セス

六 航送ノ患者入院中ノ俸給若クハ給料、宅料ハ所屬部隊、歸郷旅費ハ第五師團監督部ニ於テ之ヲ給シ其ノ他ノ諸費ハ該病院ヨリ支給ス但歸隊若クハ歸郷ノ際要スル被服ハ所屬部隊ヨリ支給スルモノトス

七 航送ノ患者中准士官以上特務曹長及軍屬ニシテ其ノ傷疾疾病公務ニ基因セサル者ハ入院中ノ糧食並衛戍病院條例第七條ノ定額ニ據リ治療ニ關スル諸費ヲ自辨セシム

營外居住ノ下士以下前項ノ場合ニ於テハ糧食ノミ自辨セシム

八 航送ノ患者中雇員備人ニシテ廣島衛戍病院收容ノ日ヨリ起算シ二箇月以内ニ痊愈シタル者ハ所屬部隊ニ復歸セシメ其ノ二箇月ニ至リテ痊愈セサル者ハ解雇(備)ス但情願又ハ病況ニ依リ二箇月以内ニ解雇(備)スルコトヲ得又解雇(備)者ニシテ各採用地臺灣ニ至ラシムル者ノ旅費ハ該病院ニ於テ支給ス

九 前項ニ據リ解雇(備)スヘキ者アルトキハ病院長ハ其ノ人名、所屬隊號及病名ヲ記シ第五師團長ニ上申シ師團長ニ於テ解雇(備)スヘシ但其ノ人名月日ハ師團司令部ヨリ本人ノ所屬部隊及原採用官廳ニ通報シ同時ニ陸軍省ヘ報告スヘシ

十 海外駐節部隊ノ軍人軍屬ニシテ傷疾疾病ニ依リ内地ヘ航送ヲ要スル者ハ前各項ニ準シ取扱フヘシ但臨時電信部附雇員備人ニシテ遞信省在職在役者ヨリ採用シタル者第八項ニ當リ解雇(備)スヘキ者アルトキハ其ノ都度病況ヲ具シ陸軍大臣ノ區處ヲ受クルモノトス

○陸軍第三十四號

明治三十一年陸軍第二百二十號陸軍里程表中別紙ノ通改正シ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス(別紙略ス)

明治三十二年四月六日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第三十五號

明治二十九年陸軍第六十五號ヲ廢シ更ニ步兵隊兵員徵集區指定表ヲ別紙ノ通定ム

明治三十二年四月八日 陸軍大臣子爵桂 太郎

步兵隊兵員徵集區指定表

師團		旅團		隊		衛戍地		聯隊區名	
第一	第一	第一	第一	第一	第一	東	東	麻布	橫濱
	第二	第二	第二	第二	第二	高	高	高崎	長野
第二	第一	第一	第一	第一	第一	佐	佐	佐倉	水戸
	第二	第二	第二	第二	第二	東	東	本郷	宇都宮
第三	第一	第一	第一	第一	第一	仙	仙	仙臺	宇都宮
	第二	第二	第二	第二	第二	仙	仙	仙臺	宇都宮
第十	第一	第一	第一	第一	第一	新	新	新田	發
	第二	第二	第二	第二	第二	發	發	發	發
第十五	第一	第一	第一	第一	第一	村	村	村	發
	第二	第二	第二	第二	第二	發	發	發	發

第 一 十 第	第 十 第	第 九 第	第 八 第	第 六 第	第 五 第	第 四 第	第 三 第
第 十 二	第 二 十 二	第 十 八	第 十 六	第 十 三	第 十 一	第 九	第 七
第 十 四	第 四 十 二	第 三 十 九	第 三 十 七	第 四 十 三	第 四 十 一	第 三 十 八	第 三 十 六
聯 隊	聯 隊	聯 隊	聯 隊	聯 隊	聯 隊	聯 隊	聯 隊
小	高 松	丸 龜	丸 龜	鹿 兒	鹿 兒	伏 見	大 阪
倉 知	山 德	龜 丸	丸 龜	木 鹿	口 濱	島 尾	津 大
倉 知	山 德	龜 丸	丸 龜	木 鹿	口 濱	島 尾	津 大
倉 知	山 德	龜 丸	丸 龜	木 鹿	口 濱	島 尾	津 大

二十 第二十四 第四十七 聯隊 小 倉 米 福 賀 岡 分

一 第六、第十二師團ノ各步兵聯隊ノ兵員ハ當分本表ノ外沖繩警備隊區ヨリモ徵集ス

二 近衛歩兵ハ各師團ニ第七師團諸隊ノ兵員ハ當分第一、第二、第七、第八師團ニ配賦スルヲ以テ本表ヨリ之ヲ除ク

〔參照〕

明治二十九年四月十日 陸達第六十五號ハ步兵聯隊現役兵徵集聯隊區區分表ナリ

○陸達第三十六號

三十年式步兵銃空包制式別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

明治三十二年四月十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第三十七號

明治十八年達乙第百五十四號陸海軍喇叭譜同喇叭譜目次同喇叭譜所用區分表中別紙ノ通追加ス (別紙略ス)

明治三十二年四月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第三十八號

陸軍武官考科表規則別冊ノ通改メラル

明治三十二年四月十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

陸軍武官考科表規則

第一條 陸軍武官考科表ハ各兵科各部上長官士官准士官下士ノ一身上ニ係ル諸般ノ事項ヲ詳悉シ

考科ノ用ニ供スルモノトス

第二條 考科表ハ別紙甲號表ニ於ケル調製官乙號維形ニ依リ調製シ爾後ハ所要ニ應シ隨時補修訂正ヲ爲スヘシ而シテ其所見ノ部ニ記載スヘキ事項ノ要旨左ノ如シ

一 性質志操氣概體格

二 出身前ノ經歷及出身時ノ景況

三 勤務

四 學術及特有ノ技能

五 義務心及品行

六 家政家計

七 交際ノ景況

八 既往現時ノ變易及將來ノ見込

第三條 各團隊及官衙ニ奉職スル各兵科及各部上長官士官ノ考科表ハ所屬長官各部ニ在テハヨリ左ノ區別ニ據リ最初其副本ヲ進達スヘシ

各兵科ハ

陸軍大臣

監督部軍吏部ハ

經理局長

衛生部ハ

醫務局長

獸醫部ハ

軍務局長

第四條 各兵科ノ中參謀官ノ考科表ハ前條ノ外所屬長官ヨリ最初其正本ヲ參謀總長ニ移シ其副本ヲ留メ置クヘシ參謀總長ハ更ニ參謀職務上ニ係ル考科ヲ記入シ且ツ其記入ノ事項ハ之ヲ陸軍大

臣ニ移附スルモノトス

第五條 各兵科ノ中騎砲工輜重兵科將校ノ考科表ハ第三條ノ外所屬長官ヨリ最初其副本ヲ各兵監ニ移スヘシ各兵監ハ更ニ特科兵專門ニ係ル考科ヲ記入シ且ツ其記入ノ事項ハ教育總監ヲ經テ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第六條 進級取扱規則ノ各拔擢圖例ニ掲クル拔擢官ト別表調製官ト同一ナラサル考科表ハ調製官ヨリ拔擢官ニ最初其副本ヲ移スヘシ

第七條 監督部衛生部獸醫部ノ上長官士官軍吏部士官ニシテ考科表調製官ト所屬ヲ異ニスルモノニ在テハ調製官ハ最初其副本ヲ本人直屬部隊長ニ移スヘシ

第八條 第三條乃至第七條ノ考科表ニシテ爾後補修訂正表中各區畫ニ關ヲナセシモノハ毎年十二月三十一日ヲ以テ取總メ廻クモ翌年一月三十一日第七條相五ノ通報迄ニ申報スヘシ

第九條 考科表ハ調製官及之ヲ領收スル當該官ニ於テ收藏シ置キ本人轉職ノ際ハ調製官又ハ領收官ヨリ新所管調製官若クハ領收官ニ送附スヘシ

第十條 上長官士官ニシテ豫備役後備役ニ入ル者及休職停職トナリタル者ノ考科表ハ其際調製官ヨリ本籍所管ノ師團長ニ准士官ニシテ休職停職及豫備後備役ニ下士ニシテ豫備後備役ニ轉入スルモノノ考科表ハ本籍所管ノ聯隊區司令官對馬ニ在テハ同管備隊區司令官ニ送附シ當該各官

- 一 性質、志操、氣概、體格 例ハハ性質ニハ朴直誠實厚積等ヲ高尙機警等ヲ記シ氣概ニハ不屈不撓等ヲハ屈撓等ヲ明ニシ體格ニハ強壯健捷等ヲハ柔弱等ヲ記スヘシ
- 二 出身前ノ經歷及出身時ノ景況 例ハハ出身前ノ經歷ニハ何中修メ或ハ卒業何官何事業ニ從事シタル事等ヲ記シ出身時ノ景況ニハ陸軍教導團ノ生徒トナリ若クハ徵兵トシテ何隊ニ入り更ニ士官候補生ヲ希望セシ等ヲ記スヘシ
- 三 勤務 勉否、熟否、狀況、其結果成績ノ長否ヲ記スヘシ
- 四 學術及特有ノ技能 例ハハ學術ニハ首トシテ本科ノ事ヲ事實的卒業シ若クハ戸山學校ノ學生トナリ何人何番ノ成績若クハ優等ノ卒業ヲ爲セシ等ヲ記シ特有ノ技能ニハ何國學ニ長シ如何ナル應答ニモ支障ナキ等即チ事實的ニ記入シ其毎年實施シタル將校演習旅行等ノ成績講評ハ盡ク記載シ又何々ノ技ニ長スルヲ以テ特ニ何職ニ適當スル等ヲ併記スヘシ
- 五 義務心及品行 義務心ニハ何年何月如何ナル事ニ遭遇シ若クハ如耐ヘ或ハ中途ニテ放却セシ等事實ヲ明記シ品行ニハ概ネ之ニ準シ記スヘシ
- 六 家政、家計 家親睦和氣洋々或ハ親ニ孝、兄ニ悌、子弟ニ慈若クハ家計ニハ餘財、動産、不動産ノ有無又ハ清貧洗フカ如クナレトモ軍需ノ要品ハ常ニ具備ス等ノ事實ヲ明記スヘシ
- 七 交際ノ景況 例ハハ同僚ノ交際頗ル親密或ハ人ニ由テ冷淡ノ別ヲアリ或ハ博ク交ルノ風アリ又ハ博ク交ラサルモ交レハ必ス厚シトノ事實ヲ記スヘシ
- 八 既往現時ノ變易及將來ノ見込 既往將校會議ニ於テ何人中ノ安シ進取ノ氣力ナク學術却テ退却ノ傾キアリ或ハ從來爾來特ニ酒色ヲ加ニ交ルノ風アリシモ中隊長ノ教育ニ由テ現時其跡ヲ絶チ強事ヲ取等實際的ニ記上スヘシ

備考

一 調製官ハ所見ヲ記載シ又補修正ヲナシタル毎ニ其終ニ於テ年月日署名捺印(自印)スヘシ
但上官ノ所見ヲ記載スルトキ又ハ附本ヲ調製スルトキ亦同シ

○陸軍第三十九號

明治三十一年陸軍第二十四號經理學校學生入學試驗格例中軍吏學生入學試驗格例陸軍會計經理ノ前ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十二年四月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

一 各本科操典、教範、野外要務令

但軍吏部下士ハ各出身兵科ノ操典、教範

○海軍省達第六十九號

明治三十年十月達第百二十五號兵備品出納命令官會計官吏表中治療品ノ下病院長ノ次ニ「臨時海軍建築部支部長」ヲ療品庫主管ノ次ニ「臨時海軍建築部支部員後任主計官」ヲ追加ス

明治三十二年四月四日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十號

職工用被服物品貸與規程中左ノ通追加ス

明治三十二年四月五日

海軍大臣山本權兵衛

第二條ニ左ノ一項ヲ追加ス

麵包器械工、麵包夫ノ被服物品ハ表糧庫主管之ヲ貸與スヘシ
製式表中「事業服上衣」「事業服務」ノ各下欄ニ「下」ニ就レモ但麵包器械工、麵包夫ニ貸與ノモノハ白

明治三十二年四月 達 陸軍省陸軍第三十九號 海軍省第六十九號 第七十號

綿布製ノ二十字ヲ同「前掛」ノ次ニ「前掛乙」ノ一欄及其下ニ「綿布製」ノ一欄ヲ加ヘ同備考ニ「麵包器械工、麵包夫用事業服及前掛ハ兵備品中不用ニ歸シタルモノ、アル限り之ヲ充用スルコトヲ得」ノ一項ヲ加フ

(製式圖中追加アリ略ス)

○海軍省達第七十一號

造船工務規程附屬第三號甲表式別紙ノ通改ム (別紙略ス)

明治三十二年四月五日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十二號

通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通加除改正ス

明治三十二年四月六日

海軍大臣山本權兵衛

鎮守府ノ部品名欄「製麵包器具機械物品」ノ下ニ「製麵包職工被服物品」ノ九字ヲ加ヘ監獄ノ部品名欄「被服糧食」ノ四字ヲ删除ス

○海軍省達第七十三號

團部校附屬雜役船舟ノ内通船ノ名稱ヲ廢シ總テ傳馬船ト稱スヘシ

明治三十二年四月十日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十四號

艦船公試規則ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十二年四月十日

海軍大臣山本權兵衛

第二十五條 鎮守府司令長官若ハ艦隊司令長官ハ第二條ニ掲グル各項ノ公試ヲ終リタルトキ公試

委員ヲシテ直ニ其ノ成績ノ要點ヲ報告セシメ之ヲ海軍大臣ニ電報スヘシ而シテ其ノ成績報告ハ各公試終了ノ日ヨリ一週間以内ニ海軍大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第七十五號

艦船造修試驗檢査規則中左ノ通改正ス

明治三十二年四月十一日

海軍大臣山本權兵衛

第十二條 新造艦艇竣工シ公試ヲ施行スルトキハ鎮守府司令長官其ノ日限ヲ定メ艦船公試規則第二條ニ掲グル各項ノ公試開始ノ期日ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但該報告ハ期日一週間前ニ到達スルヲ要ス

第三十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

四 艦船備附船舟ノ引換ニシテ船種若ハ寸法ヲ變更セサルモノハ直ニ工事ニ著手セシメ其ノ旨海軍大臣ニ報告スヘシ

第七十五條 端舟及艦船備附通船ヲ新造スルトキハ第九號表ニ團部校備附ノ傳馬船ヲ新造スルトキハ第九號表ノ二ニ掲グル規定寸法ニ依ルヘシ

第七十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七十七條ノ二 各海軍造船廠ニ於テハ第十一號様式ノ艦船入出渠記録ヲ備ヘ艦船入出渠ノ都度之ニ登記シ保存スヘシ若シ入渠艦船ニ異狀ヲ生シタルトキハ其ノ記録ノ寫ヲ添ヘ異狀ノ詳細ヲ軍務局ニ報告スヘシ

第九號表ノ二及第十一號様式別紙ノ通定ム (別紙略ス)

〔參照〕

海軍省達第百二號艦船造修試驗検査規則(明治三十一年七月二日)抄録
第十二條 鎮守府司令官新造艦艇竣工シタルトキハ艦船公試規則ニ依リ公試スヘキ日限ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ
第七十五條 砲舟及艦船備附通船ヲ新造スルトキハ第九號表ニ掲クル規程寸法等ニ依ル(シ)

○海軍省達第七十六號

各廳ニ於テ海軍艦船ノ外左ニ掲クルモノニシテ關稅定率法第五條ニ據リ無稅通關ヲ爲サントスルトキハ各廳長ハ別紙書式ノ輸入申告書ヲ作り製造者又ハ運送請負者ニ交付シ無稅通關ノ手續ヲ爲サシムヘシ但海軍艦船ニシテ其船體機關ヲ取放シ荷作ヲ爲シタルモノハ輸入申告書ヲ要セス
一 海軍艦船ニ特定シタル汽機汽罐ニシテ該艦船ノ一部ト成ルヘキモノ
二 兵器彈藥及爆發物並兵器ノ半作品(材料ヲ)ニシテ之ヲ製作スルトキハ一ノ兵器ト成ルヘキモノ
(別紙略ス)

明治三十二年四月十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十七號

明治三十年達第百十三號ヲ廢ス

明治三十二年四月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年^{九月七日}海軍省達第百十三號ハ海軍砲術練習所教程ナリ

○海軍省達第七十八號

明治三十年達第百十四號ヲ廢ス

明治三十二年四月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年^{九月七日}海軍省達第百十四號ハ海軍水雷術練習所教程ナリ

○海軍省達第七十九號

明治三十年達第百十五號ヲ廢ス

明治三十二年四月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年^{九月七日}海軍省達第百十五號ハ海軍機關術練習所教程ナリ

○海軍省達第八十號

明治三十一年達第七十八號ヲ廢ス

明治三十二年四月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十一年^{五月七日}海軍省達第七十八號ハ機關士短教程ナリ

○海軍省達第八十一號

守衛備人被服規則第一條及服制表中定夫ノ次ニ電機工夫ヲ追加ス

明治三十二年四月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○陸軍第四十號

軍馬補充部六原支部出張所ヲ左ノ通設置ス

明治三十二年五月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

一 軍馬補充部六原支部出張所ヲ巖手縣下閉伊郡門馬村字田代ニ置キ軍馬補充部六原支部田代出張所ト稱ス

二 軍馬補充部六原支部出張所ヲ巖手縣氣仙郡世田米村字種山ニ置キ軍馬補充部六原支部種山出張所ト稱ス

○陸軍第四十一號

七珊米山砲外部屬品標幟緋革條別紙圖面ノ通修正ス (別紙略ス)

但シ既ニ製作シタルモノハ其儘使用シ新製ノ分ヨリ改正スヘシ

明治三十二年五月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第四十二號

明治三十一年陸軍第二十四號經理學校學生入學試験格例中軍吏學生入學試験格例第一項但書「軍吏部下士」ノ上ニ「憲兵科及」ノ四字ヲ加フ

明治三十二年五月十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第四十三號

明治三十一年陸軍第七十一號陸軍藥局方中左ノ通改正追加ス (改正追加略ス)

明治三十二年五月十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第四十四號

明治二十年陸軍第二百二十三號ヲ廢止ス

明治三十二年五月

陸軍第四十號 陸軍第四十一號 陸軍第四十二號 陸軍第四十三號 陸軍第四十四號

明治三十二年五月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(參照)

陸軍省百二十三號(明治二十年十一月十四日)

自今軍部下士以下出陣進陣ノ際ニ既リ有籍内ニ三角巾三箇ヲ最寄シ且ツ中隊ノ上ニ英式副木十本ヲ埋充スヘシ

○陸軍第四十五號

屯田兵配備表別表ノ通改正セラル

明治三十二年五月二十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別表)

(内ハ朱書)

自明治三十九年屯田兵配備表

兵種隊號	配置地名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
第一大隊	石狩國雨	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊
第二大隊	石狩國空	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第三大隊	石狩國上	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第四大隊	石狩國常	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊
兵種隊號	配置地名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
第一大隊	石狩國雨	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊
第二大隊	石狩國空	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第三大隊	石狩國上	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第四大隊	石狩國常	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊
兵種隊號	配置地名	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年
第一大隊	石狩國雨	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊	現役五中隊
第二大隊	石狩國空	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第三大隊	石狩國上	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊	現役二中隊
第四大隊	石狩國常	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊	現役三中隊

考一 朱書ハ其年新設ノモノヲ示ス
二 第三大隊本部ハ明治三十二年度ハ石狩國上川郡永山村ニ置キ同三十三年度ニ至リ本表ノ位置ニ移ルモノトス

○陸軍第四十六號

金澤陸軍兵器支廠及舞鶴陸軍兵器支廠ヲ明治三十二年六月ヨリ當該位置ニ開廳シ金澤陸軍兵器支廠派出所ヲ廢ス

明治三十二年五月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第八十二號

明治十八年十一月丙第六十六號陸海軍喇叭譜同目次同區分表中ニ左ノ通追加ス (追加略ス)

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十三號

需品經理規程第四十條中「在役艦」トアルヲ「艦船」ト改ム

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十四號

海軍志願兵身體檢査格例第二條中ニ左ノ通改ム

海軍大臣山本權兵衛

明治三十二年五月八日

三 軍樂生志願ノ者滿十六年以上ニ在テハ身幹五尺體重十二貫胸圍二尺五寸胸廓擴張一寸八分
活量二千八百立方仙迷百七十一滿十七年以上ニ在テハ身幹五尺一寸體重十二貫五百目胸圍
二尺五寸五分胸廓擴張二寸活量二千九百立方仙迷百七十七滿十八年以上ニ在テハ身幹五尺
二寸體重十三貫胸圍二尺六寸胸廓擴張二寸活量三千立方仙迷百八十三ニ達セサル者

(參照)

- 海軍省第八十五號海軍志願兵身體檢査格例(明治二十二年六月七日)抄録
- 第二條 海軍兵役ニ適セザル疾病形状等ハ大約左ノ如シ
 - 一 軍樂生志願ノ者滿十五年以上ニ在テハ身軀五尺體重十二貫目胸圍二尺五寸胸廓擴張二寸八分活量二千七百立方仙總
 - 二 軍樂生志願ノ者滿十五年以上ニ在テハ身軀四尺八寸胸圍十貫五百目胸圍二尺三寸胸廓擴張一寸五分活量二千四百立方仙總
 - 三 軍樂生志願ノ者滿十五年以上ニ在テハ身軀四尺八寸胸圍十貫五百目胸圍二尺三寸胸廓擴張一寸五分活量二千四百立方仙總

○海軍省第八十五號

海軍省警務規程左ノ通定

明治三十二年五月十日

海軍大臣山本權兵衛

海軍省警務規程

- 第一條 警査ハ所屬軍法會議上席主理ノ監督ニ屬ス
- 第二條 警査ハ上官ノ命令ヲ遵奉シ勸勉誠實ニ職務ニ從事ス可シ
- 第三條 被告人證人其他關係人ヲ法廷ニ出入セシムルトキハ最モ嚴肅ニ取扱フ可シ
- 第四條 法廷内ニ於テハ判士長又ハ主理ノ命令又ハ許可アルニテハ被告證人其他關係人ニ對シ發言スルヲ得ス但シ喧噪ニ涉リ又ハ姿勢ヲ亂セルモノニ對シテハ穩ニ之ヲ制止スルコトヲ得
- 第五條 召喚狀又ハ呼出狀ノ達送ヲ受ク可キ者ニ其住居又ハ事務所ニ於テ出會セサルトキハ成年以上ノ家族、雇人又ハ商業使用人ニ達送ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 召喚狀又ハ呼出狀ノ達送ヲ受クヘキ者ニ對シテ其受取ヲ拒マサルニ於テハ出會シタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ艦船團隊校所屬ノモノニ對シテ達送請求ノ添書アルモノハ此限ニアラス

第七條 正當ノ理由ナクシテ達送ノ受取ヲ拒ムトキハ交付スヘキ書類ヲ達送スヘキ場所ニ差置ク可シ

第八條 令狀ハ海軍治罪法第六十一條刑事訴訟法第七十八條第三項ニ準據シテ執行ス可シ
令狀執行ニ當リ市町村長若クハ其代理タル吏員又ハ隣佑ノ立會ヲ得スシテ家宅ヲ搜索スル場合ト雖モ成ルヘク戸主、若シ戸主不在ナルトキハ成年以上ノ家族、留守居又ハ監守者ノ立會ヲ求メテ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

第九條 令狀ヲ執行シ又ハ犯罪ノ搜索ニ從事スルニ當リ憲兵警察官ニ助力ヲ求ムル場合ニハ令狀又ハ命令書ヲ示ス可シ

第十條 準士官以上ノ軍人若クハ高等文官タル軍屬以外ノ被告人又ハ囚人ヲ護送スル途中ハ捕繩及手錠ヲ施ス可シ但特命アルトキハ此限ニアラス

第十一條 準士官以上ノ軍人若クハ高等文官タル軍屬ノ被告人又ハ囚人ヲ護送スル場合ニハ戒具ヲ用ヒサルモノトス但逃走又ハ暴行ノ虞アルトキハ之ヲ施スコトヲ得

第十二條 護送途中ハ何人ト雖モ直接ニ被護送者ト談話シ又ハ物品ヲ授與セシムヘカラス

第十三條 護送中被告人自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキ又ハ被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フモノアルトキハ必要ノ有無及其他ノ關係ヲ取調ヘ之ヲ許否スヘシ

第十四條 共犯人ヲ取扱フトキハ相隔離セシメ嚴密ニ談話通聲スルコトヲ得サラシムヘシ

第十五條 被告人ヲ留置所又ハ監倉ニ入ル、トキハ嚴密ニ身體被服ヲ點檢シ用紙手拭ノ外ハ携帶セシムヘカラス

留置又ハ入監中ハ晝夜共看守スヘシ

第十六條 被告人ヲ留置所又ハ監倉ニ入レタルトキハ何人ヲ問ハス被告人ト談話セシメサルコトニ注意スヘシ

第十七條 留置所若クハ監倉内ニアル被告人ニ面接通信又ハ差入物ヲ爲サシコトヲ請フモノアルトキハ主理ノ指揮ヲ受ク可シ

第十八條 犯罪ノ捜査ヲ命セラレタルトキハ直チニ之ニ著手シ秘密ヲ旨トシ敏活ニ之ヲ爲スヲ要ス

捜査ヲ命セラレタルトキト雖モ命令以外ノ人若クハ物ニ付搜索スルヲ得ス且ツ人權ヲ侵害スルノ行爲アルヘカラス

捜査ノ結果ハ速ニ主任主理ニ復命ス可シ

第十九條 捜査ヲ爲スニ當リ犯罪ノ事實ヲ知ルニ足ルヘシト思料シタル書類其他ノ物件アルトキハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得此場合ニ於テハ其品目ヲ記載シ署名捺印シタル假領證書ヲ交付ス可シ

第二十條 新聞、風説其他見聞シタル事實ニヨリ海軍軍人軍屬ノ犯罪又ハ一般人民ノ軍事ニ關スル犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ主理ニ報告ス可シ

第二十一條 軍法會議ノ門衛、巡視及受付ヲ爲シ夜間ハ宿直シテ廳ノ内外ヲ警戒ス可シ

第二十二條 受付ハ豫テ簿冊ヲ備ヘ置キ接受シタル文書及事項ヲ之ニ記入シ文書等ハ録事ニ差出シ帳簿ニ認印ヲ受ク可シ

口頭ヲ以テ告訴告發又ハ犯罪ノ自首等アリタルトキハ直チニ録事ニ申告スヘシ

第二十三條 宿直中接受シタル文書及事項ハ之ヲ日誌ニ記載シ翌日録事ニ申告スヘシ但シ文書又ハ事項ニシテ至急ヲ要スルモノナルトキハ直ニ主理又ハ録事ニ申告ス可シ

第二十四條 宿直中現行犯アル旨ノ通報ヲ受ケタルトキハ通報人ノ宿所、氏名、犯罪ノ性質、場所、日時等ヲ直チニ主理又ハ録事ニ申告ス可シ

第二十五條 天災其他時變ニ際シ上官ノ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ臨機ノ處置ヲ爲シ留置人ノ安全、書類ノ保安ヲ圖ル可シ

第二十六條 主理ト共ニ檢證、家宅搜索等ニ出張シタルトキハ其場所ノ周圍ヲ警戒シ出入者ニ注目ス可シ

第二十七條 帶劍ハ職務ノ執行ニ際シ護身ノ用ニ供スルモノニシテ左ノ場合ニアラサレハ抜劍スルヲ得ス

一 兇器ヲ以テ暴行ヲ受クルニ當リ他ニ防禦ノ術ナキトキ

二 犯罪人又ハ被告人ヲ逮捕スル場合ニ於テ兇器ヲ持シテ抗拒スルニ當リ他ニ逮捕ノ術ナキトキ

第二十八條 抜劍シタルトキハ速カニ其情況ヲ主理ニ申告ス可シ

第二十九條 劍、劍帶、捕繩、呼子、笛、角燈等ハ毎ニ之ヲ手入シ又手錠其他留置人ニ關スル一切ノ備品ハ常ニ整頓シ置ク可シ

第三十條 物品格納所ニ納メアル物品ハ常ニ整理シ置キ異常アルトキハ直ニ之ヲ録事ニ報告ス可シ

第三十一條 職務上秘密ヲ要スル事項ハ一切他人ニ漏洩ス可カラス

第三十二條 警査ハ各官等ニ應シ海軍敬禮式ニ準據シ敬禮ヲ行フ可シ
第三十三條 軍法會議上席主理ハ本規程ニ定ムルモノ、外所屬警査ノ服務ニ關シ細則ヲ設クルコトヲ得

○海軍省達第八十六號
海軍警査及海軍監獄看守採用規則左ノ通相定ム

海軍大臣山本權兵衛

明治三十二年五月十一日

海軍警査及海軍監獄看守採用規則

第一條 海軍警査及海軍監獄看守ハ海軍警査及海軍監獄看守採用試験ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用ス

第二條 鎮守府司令長官(東京ニ在テハ海軍省司法部長)ハ必要ニ際シ海軍警査及海軍監獄看守ノ採用試験ヲ行フ

第三條 鎮守府司令長官(東京ニ在テハ海軍省司法部長)ハ部下ノ高等官及判任官ヨリ臨時ニ試験委員長及試験委員ヲ編制ス

第四條 海軍警査及海軍監獄看守志願者ハ品行方正年齢二十一年以上四十年未満ニシテ徵兵現役ニ關係ナク且ツ左ノ諸項ニ該當セサルモノタルヘシ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ未タ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 採用試験ハ體格試験及學術試験ノ二トス

體格試験ニ合格シタルモノニ非サレバ學術試験ヲ行ハス

第六條 學術試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 刑法海軍刑法海軍治罪法海軍監獄則及海軍監獄則施行細則ノ大要

二 普通往復文

三 算術加減乘除

第七條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

試験委員長ハ試験終了ノ上試験合格者ノ氏名及其ノ成績ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 現役滿期ノ海軍下士ハ試験ヲ須井ス海軍警査又ハ海軍監獄看守ニ採用スルコトヲ得

第九條 海軍警査ハ海軍監獄看守ニ海軍監獄看守ハ海軍警査ニ別ニ試験ヲ須井ス採用スルコトヲ得

附則

第十條 本則ハ明治三十二年五月十五日ヨリ施行ス

明治二十六年達第五十九號海軍監獄看守任用規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 本則施行ノ當時現ニ軍法會議守備ノ職ニ在ルモノハ此際ニ限り試験ヲ須井ス海軍警査ニ採用スルコトヲ得

○海軍省達第八十七號

艦圓部需用品定額表中左ノ通追加ス (追加略ス)

但數量表ハ軍務局ヨリ送付セシム

明治三十二年五月十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第八十八號

明治二十四年達第百八十四號貸與品表中へ左ノ一廉ヲ加フ
明治三十二年五月十二日

海軍大臣山本權兵衛

品名	所要記事
油 濯 桶	大中小三箇ヲ以テ一組トス
	練習兵乗艦ノ時

○海軍省達第八十九號

兵器中襲撃用斧ヲ自今防火用斧トシ艦營需品ニ屬セシム
但現在品ハ此際保管轉換スヘシ

明治三十二年五月十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十號

雇員備入規則第三條左表中食庫丁ノ欄療品庫ノ下ニ測器庫ヲ追加ス
明治三十二年五月十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十一號

海軍主計官練習所規則左ノ通定ム
明治三十二年五月十五日

海軍大臣山本權兵衛

海軍主計官練習所規則

- 第一條 學生及練習生ハ本所ニ入所セシメ其入所中ハ本所ノ管轄トス
- 第二條 學生及練習生ニ關スル紀律ハ特ニ設クルモノ、外專ラ軍艦ノ例ニ準ス
- 第三條 學生ノ練習期ハ一箇年トシ練習生ノ練習期ハ八箇月トス

第四條 學生ノ教程ハ海軍會計經理、海軍編制、國際法、行政法及外國語學トシ練習生ノ教程ハ海軍會計經理ノ大要、簿記、算術、作文、法律學大意、經濟學大意及英語學トス

第五條 試驗ハ學期ノ終ニ於テ行フヲ大試驗トシ一學科教授ノ終ニ於テ行フヲ小試驗トス

小試驗ノ平均點數ハ之ヲ大試驗ノ平均點數ニ算入ス

第六條 試驗ノ及第點數ハ各科全點百分ノ四十以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シテ總點數百分ノ五十以上トス

第七條 大試驗ニ落第シタル者及疾病ニ罹リ大試驗ヲ受クル能ハサル者ニハ更ニ二箇月以內ノ復習ヲ爲サシメ再試驗ヲ行フ

第八條 前條ノ再試驗ニ落第シタル者傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者及品行不良ニシテ訓戒ヲ加ルモ改悛ノ狀ナキ者ハ學生ニ在テハ所長之ヲ海軍大臣ニ具申シ練習生ニ在テハ所長之ニ退所ヲ命シ本管鎮守府海兵團ニ復歸セシメ其ノ旨當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第九條 練習ヲ命スヘキ筆記廚宰ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ
一 年齡三十五年未滿ノ者
二 試驗ニ合格シタル者

第十條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ毎年鎮守府毎ニ海軍大臣之ヲ定ム

第十一條 練習生採用ノ達アリタルトキハ各所屬長ハ部下筆記廚宰中第九條第一ニ適合スル志願者ヲ調査シ其官姓名ヲ所長ニ通牒スヘシ

第十二條 所長ハ前條ノ通牒ヲ得タルトキハ試驗問題ヲ祕封シ各所屬長ニ送付スヘシ
各所屬長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送付スヘシ

總テ試験ハ各地同日時ニ行フモノニシテ其日時ハ試験問題ノ封筒ニ記スモノトス

第十三條 練習生志願者ノ試験科目ハ左ノ如シ

- 一 和漢學 漢文句讀訓點(國史略ノ類)
- 二 作文 記事文公用文
- 三 算術 四則
- 四 給與法 俸給令、手當金規則、糧食條例、被服條例

第十四條 所長ハ各鎮守府ニ合格者ヲ區別シ成績ノ順序ヲ以テ官姓名ヲ列記シ入所期日ヲ定メ鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

第十五條 鎮守府司令長官前條ノ通牒ヲ得タルトキハ合格者ニ就キ所要ノ人員ヲ撰拔シ各所屬長ニ通達シ各長ヲシテ指定期日ニ入所ヲ命セシムヘシ

第十六條 學生卒業ノトキハ所長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ニ據リ少主計候補生ノ勤務報告ヲ作り之ニ大試験成績表ヲ添ヘ海軍大臣ニ提出シ練習生卒業ノトキハ本管鎮守府海兵團ニ復歸セシメ共ノ成績表ハ之ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

附則

第十七條 此ノ規則ハ明治三十二年勅令第九十三號海軍主計官練習所條例施行ノ日ヨリ施行ス

第十八條 明治三十二年勅令第九十三號海軍主計官練習所條例第一條主計官上等筆記職務練習ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 海軍少主計候補生實務練習規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス但シ明治三十一年八月以前採用ノ少主計候補生ニ限リ海軍少主計候補生實務練習規則ニ依ル共ノ艦内ニ於ケル練習期限ハ之ヲ三箇月ニ短縮スルコトヲ得

○海軍省第九十二號 海軍軍醫學校規則左ノ通定ム

明治三十二年五月十六日

海軍大臣山本權兵衛

海軍軍醫學校規則

第一條 校長ハ海軍軍醫學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ學生及講習生ノ試験成績ヲ考查シ之ニ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ職員ヲ集メ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教育ノ改良ニ就テ審議シ學事報告ヲ作り之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 校長ハ學生中修學上不適當ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ上申スヘシ

第六條 校長ハ卒業試験及其ノ他ノ試験ニ際シ各教官ヨリ試験問題ヲ徴シ之ヲ撰定スヘシ

第七條 校長ハ被服糧食等ノ衛生試験ニ關スル事項ヲ調査シ其ノ成績ヲ海軍大臣ニ上申スヘシ

第八條 學年ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ルモノトス

第九條 學生ハ十五名以内トス

第十條 學用器具ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

○海軍省達第九十三號

海軍少軍醫候補生實務練習規則中左ノ通改正追加ス

明治三十二年五月十六日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 海軍軍醫學校長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ノ勤務報告ニ卒業試験ノ成績表ヲ添ヘ

海軍大臣ニ進達スヘ

第三條中左ノ一項ヲ加フ

卒業試験ニ際シ傷痍疾病ノ爲メ受験シ得サル者アルトキハ更ニ試験ヲ行フコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第二十二號海軍少軍醫候補生實務練習規則(明治三十一年三月五日)抄録

第二條 海軍軍醫學校長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ニ依リ卒業試験ニ及第シタル者ノ勤務報告ヲ作り海軍大臣ニ進達スヘ

○海軍省達第九十四號

鎮守府會計監督規程中左ノ如ク改正ス

明治三十二年五月十八日

海軍大臣山本權兵衛

第二十一條 經理部長ハ毎年六月三十日ヲ期トシ別紙書式ニ據リ各部官廳若クハ主任官吏毎ニ區分シタル行務成績表ヲ作り又同日現ニ其ノ監督ニ屬スル一般主計官ニ就キ取扱事務ノ整否性行

等ノ所見報告ヲ作り八月三十一日迄ニ海軍大臣ニ出スヘ

經理部長ハ其ノ監督ニ屬スル主計官ニシテ他經理部長ノ監督ニ屬シタルトキハ其ノ際前項ノ所見報告ヲ作り當該經理部長ニ移スヘ

第十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ會議ヲ開クヲ不便トスル場合ニ於テハ便宜問題ヲ發シ答按ヲ出サシムルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第九十五號鎮守府會計監督規程(明治三十年十月十四日)抄録

第十八條 經理部長ハ會計行務實施上ニ關シ必要ト認ムルトキハ其ノ監督ニ屬スル主計官ヲ招集シ會議ヲ開クコトヲ得但

其ノ招集ニ付テハ當該所轄長ニ照會ヲ要ス

第二十一條 經理部長ハ毎年八月三十一日迄ニ別紙書式ニ據リ各部官廳若クハ主任官吏毎ニ區分シタル行務成績表ヲ作り

又其ノ監督ニ屬スル一般主計官ニ就キ取扱事務ノ整否性行等ノ所見報告ヲ作り海軍大臣ニ出スヘ

○海軍省達第九十五號

海軍機關學校規則第四條中「每學年」ヲ「每會計年度」ニ改ム

明治三十二年五月十八日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第六十二號海軍機關學校規則(明治三十二年三月三十日)抄録

第四條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘ

○海軍省達第九十六號

通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通追加ス

明治三十二年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛

練習所ノ部會計官吏ノ欄主計長ノ次ニ「×監事」ヲ加フ

○海軍省達第九十七號

明治三十年十月達第三百二十六號別表所屬區分第一欄割註水路部ノ次ニ下瀨火藥製造所ノ七字ヲ加

へ同表中海軍軍醫學校ニ係ル區畫ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加ス
明治三十三年五月十九日

海軍大臣山本權兵衛
經理局 長

〔參照〕

明治三十年五月海軍省達第百二十六號別表ハ海軍省所管收入及經費ニ係ル所屬區分及委任任命官、收入調定官、收入監督官、收入官吏、收入下検査官ノ件ナリ

○海軍省達第九十八號
海軍生徒學生手當金支給細則中左ノ通り改正ス
本令ハ明治三十二年勅令第二百十五號施行ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年五月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 學生及造兵生徒ニ給スル手當金ハ學生及生徒ヲ命シタル日ヨリ各其ノ本官ニ任用ノ前日マテ之ヲ支給ス

第三條 中學生ノ下ニ造兵生徒ノ四字ヲ加フ
第六條 中分註學生ノ下ニ及造兵生徒ノ五字ヲ加フ

第八條 學生及造兵生徒被服費ノ給與區分ハ八月一日ヨリ三月三十一日マテテ前期トシ四月一日ヨリ七月三十一日マテテ後期トシ八月一日マテテ後期トス

前期ニ於テ學生ニハ二十圓ヲ支給シ後期ニ於テ學生ニハ十二圓造兵生徒ニハ十圓ヲ支給ス

第九條 中學生ノ下ニ及造兵生徒ノ五字ヲ加フ

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第十條ヲ第十一條ニ改ム

第十條 月領手當金日割計算ノ法ハ其ノ支給スヘキ日數ヲ月領ニ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ厘位ニ止メ支給額ヲ定ム

〔參照〕

海軍省達第百五十三號海軍生徒學生手當金支給細則(明治三十年十一月八日)抄錄

第二條 學生ニ給スル手當金ハ學生ヲ命シタル日ヨリ各其ノ本官ニ任用ノ前日マテ之ヲ支給ス
第三條 將校生徒機關生徒及學生死亡シタルトキ若ハ生徒學生ヲ免シタルトキハ其ノ當日マテ手當金ヲ支給ス
第六條 手當金ハ毎月末日ニ付所屬ノ機關ニ於テ之ヲ支給ス但當日休暇ニ當ルトキハ順次繰上テ手當金ヲ受タル者ニシテ本官ニ任シ或ハ候補生ヲ命シ若ハ生徒學生ヲ免シ又ハ死亡シタルトキハ前項ノ支給額日ニ拘ラス其ノ際之ヲ支給ス

第八條 學生被服費ノ給與區分ハ八月一日ヨリ三月三十一日マテテ前期トシ四月一日ヨリ七月三十一日マテテ後期トシ前期ニハ二十四圓ヲ後期ニハ十二圓ヲ支給ス
第九條 學生ノ被服費ハ毎年四月八月ノ末日ニ付日休暇ニ當ルトキハ順次繰上テ經理局ニ於テ之ヲ支給ス但本條ノ支給額日ヲ過キ學生ヲ命シタルトキハ其ノ際之ヲ支給ス

○海軍省達第九十九號

航泊日誌摘要報告及水雷艇日誌摘要報告ノ機關最近公試成績欄内ニ最近高速力試驗又ハ其ノ他實驗成績アルモノハ之ヲ記入シ米符ヲ附シテ公試成績ト區別シ且欄外餘白ヘ米符ハ何成績タルコトヲ記載ス

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百號

水路圖誌水路測器供給規則中測器供給表備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

(十四)本表ニ掲クル定數ニシテ其全部ノ供給ヲ要セサル場所ニ在テハ必要ノ分ノミヲ供給スル
コトヲ得

○海軍省達第百一號

海軍主計官練習所ニ屬スル醫務衛生ニ關スル事項ハ東京海軍造兵廠軍醫長ヲシテ之ヲ掌ラシム

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二號

雇員備人規則第三條表中電機工夫ノ欄「鎮守府」ヲ「本省、鎮守府、下瀬火藥製造所」ト改ム

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百三號

歳入歳出取扱規程中左ノ如ク改ム

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

第二十二條 委任仕拂命令官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ受取人ノ領收證書ヲ徵シ又集
合仕拂命令若ハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令及集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル
トキハ金庫ノ領收證書ヲ徵シ會計規則第五十二條第三項ノ計算書ニ添付スヘシ

第三十六條第一項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但對照表末項ニ本月分送金額及本月分送金額到達額ヲ掲記シアルモノハ其送金額ヲ調査シ到達額
ハ添付シアル受取人ノ領收證書ニ對照シ之カ證明ヲナシタル上金庫ニ返付スヘシ

本令ハ明治三十二年度所屬ノ分ヨリ施行ス
但本年四月分ニシテ第三十六條第一項但書ノ手續ヲ經サルモノハ五月分ニ併算取扱フモノトス

〔參照〕

海軍省達第百一號歳入歳出取扱規程(明治三十年九月二十七日)抄録

第三十三條 委任仕拂命令官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ其ノ領收證書ヲ徵シ該領收證書ハ會計規則第五十二條
第三項ノ計算書ニ添付スヘシ

委任仕拂命令官集合仕拂命令又ハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令及集合仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタルトキハ
其ノ領收證書ヲ徵シ該領收證書ハ追テ金庫ヨリ受取人ノ領收證書ヲ送付シタルトキ共ニ會計規則第五十二條第三項ノ計
算書ニ添付スヘシ

第三十六條第一項

委任仕拂命令官ハ金庫出納事務規程ニ據リ金庫ヨリ毎月歳出金月計對照表歳出仕拂未済繰越金支出月計對照表ニ對照書
類ヲ添へ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ對照シ相違アルトキハ速ニ其ノ事由ヲ附シテ之ヲ返付シ相違ナキトキハ同事務規程
第十八號書式ニ據リ記入署名捺印シ對照書類ト共ニ三日以内ニ之ヲ金庫ニ返付スヘシ

○海軍省達第百四號

橫須賀鎮守府所管

第一號水雷艇

第二號水雷艇

第三號水雷艇

第四號水雷艇

海軍大臣山本權兵衛

右帝國水雷艇ヨリ除名セラレ

明治三十二年五月三十一日

○海軍省達第百五號

艦隊需用品定額表中左ノ通改正ス (改正略ス)

但數量表ハ軍務局ヨリ送付セシム

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

○會計検査院達第一號

明治二十六年會計検査院達第二號支出證明規程左ノ通改正ス

明治三十二年五月十一日

會計検査院長男爵山田信道

支出證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ仕拂命令官又ハ作業事務長作業支部局長學校長圖書館長若クハ其支部長ノ調製スヘキ支出計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ
一 科目更正若クハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ組入ルヘキモノアルトキハ其金額事由

三 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

第三條 最終支出計算書ニハ豫算各目増減事由明細書及年度末日現在人員部局別官等俸給明細書ヲ添付スヘシ

作業事務長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 受拂勘定表但物品會計官吏毎ニ區分シタル各種物品價格受拂仕譯書ヲ要ス

二 年度末日計算表

三 固定資本價格増減明細書並其評價書類及鐵道修理費調書

四 材料素品機械運轉用品生産品又ハ造船材料鐵道用品ニシテ年度末日於テ其價格ヲ改定シタルモノアルトキハ每件其事由及市價又ハ生産費調書

五 支出未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

六 代價收入済ニシテ物品未済ニ係ルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

學校長又ハ圖書館長ノ最終支出計算書ニハ第一項明細書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 維持資金及特別資金明細書

二 支出未済支出残額又ハ仕拂未済ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ每件其金額事由明細書

三 歳入残餘ニシテ維持資金若クハ特別資金ニ組入レタルモノアルトキハ其金額調書

第四條 最終支出計算書提出ノ際概算渡現金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ及誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ

其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終支出計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證據書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第五條 支出ノ證據トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書及請求書其他支出ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雑ニ涉ルモノハ明細書若クハ説明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ

集合仕拂命令集合仕拂請求書及金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スヘキ裏書アル仕拂命令仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ在リテハ金庫ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號ヲ付記スヘシ

第六條 證據書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其

事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第七條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

文官ノ新任者再任者轉任者ニ係ル俸給又ハ退官賜金ノ證憑書ニハ其履歷書新任者ニ對シテハ其任官資格ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ

恩賞諸祿ノ繼續支給ニ係ルモノハ其年額及受領者ノ舊官名ヲ示シ又遺族ノ受領ニ係ルモノハ其權利ノ起因ヲ證憑書ニ付記スヘシ

俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ

第八條 旅費ノ領收證憑書若クハ精算證憑書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ但領收證憑書又ハ精算證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第九條 競争契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類
- 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ
- 三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ

四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前同ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第十條 隨意契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ依ラサリシ理由ヲ詳記シタル説明書ヲ添付スヘシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限ニ達セシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ付記シ第九條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ

第十一條 五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十二條 五百圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑書ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十三條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初支出ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初支出ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終支出ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分

ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

第十四條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セスシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十五條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財產簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十六條 諸拂戻ノ證憑書ニハ其支出ヲ要スル事實ノ生シタル年月日及支出ノ請求ヲ爲シタル年月日ヲ付記スヘシ

第十七條 誤拂過渡其他ノ返納ニ由リ歳入ニ納付シタルモノハ歳入ノ徵收ヲ監督スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

第十八條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但金庫ノ領收證書ニシテ各目ニ區分シ難キモノハ其關係書類ト共ニ各項ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添付スヘシ

概算渡ニ對スル精算證書ハ其概算渡ヲ爲シタル月ヲ以テ區分スヘシ

證憑書ノ編纂ニ關シ特ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

附則

第十九條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

作業及鐵道會計支出證明規程官立學校及圖書館會計支出證明規程鎮守府造船材料資金會計支出證明規程官設鐵道用品資金會計支出證明規程葉煙草專賣資金會計支出證明規程及明治二十七年會計檢査院達第二十五號明治三十一年會計檢査院達第四號ハ明治三十一年度限り廢止ス

(別記)

明治何年度	
何年何月	
歲出經常部	
何々(款) 何々(款)	
歲出臨時部	
何々(款) 何々(款)	
支出計算書	
證憑書 何冊	
何々	
名 廳	

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ

一 計算書ノ用紙ハ製沙引厚實美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綴代ヲ存スヘシ

一 計算書ハ改換塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ橫畫シ主任官吏ニ捺印スヘシ

過年度支出 内 譯		科目更正	定額戻入
摘 要	金 額	摘	要
<p>○特別會計ニシテ前年度ヨリ繰越シタル支出未済額(支出殘額)ヲ支出シタルトキハ特ニ前年度支出未済額支出(支出殘額支出)ノ題目ヲ設ケテ其科目金額由ラ記載スヘシ</p> <p>○亦ノ複雑ニ涉ルトキハ科目及合計金額ノミヲ掲載シ別ニ事由明細書ヲ添付スルコトヲ得</p>		<p>科目更正 旅 費 通信運搬費 何月分仕拂命令第何號何某波金若干圓何科目ヲ以テ整理ノ處何々ヨリ本科目ニ更正セリ</p> <p>定額戻入 俸給及諸給 奏任俸給 何月分仕拂命令第何號何某波ノ何月日何箇何官ニ應任モシニ付何日分俸給過渡期間ノ定額へ戻入セリ</p> <p>歳入納付 雜給及雜費 備入料 何月分仕拂命令第何號何某波ノ何々ヨリ以テ拂フナシタニ付何年度歳入トシテ納付セリ別紙雜費額何圓ノ如シ 何月分仕拂命令第何號何某波ノ内同上</p> <p>過年度支出 旅 費 内國旅費 何年度何月分仕拂命令第何號何某波何々ヨリ支給不足ノ分本年度ニ於テ支出ヲ要シタリトナリ</p>	

明治何年何月何年何月支出計算證明候也

職官兵名印

會計検査院長宛

年 月 日

〔参照〕

明治二十七年七月ニ會計検査院達第二十五號ハ仕拂命令官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ公債整理金政府紙幣交換基金額店銀行紙幣交換基金支出計算書程式ノ件同三十一年三月ニ會計検査院達第四號ハ仕拂命令官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ貨幣整理基金支出證明程式ノ件ナリ

○會計検査院達第二號

仕拂證明規程左ノ通定ム

明治三十二年五月十三日

會計検査院長男爵山田信道

仕拂證明規程

第一條 會計規則又ハ各特別會計規則ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ調製スヘキ仕拂計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 科目更正ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡ニシテ其處分ヲ爲スヘキモノ又ハ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

三 過年度ニ屬スル經費ノ仕拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

四 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

五 會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其金額事由

六 他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

七 領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額

八 金庫ニ義務委託ヲ爲シタル金額並拂込月日及其月末殘額

第三條 最終仕拂計算書提出ノ際概算渡ノ精算ニ至ラサルモノ前金拂ニ係ル製造又ハ物件ノ購買ニシテ其事ノ完了ニ至ラサルモノ領收證書ノ到達セサルモノ仕拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノ及

誤拂過渡科目違ノ處分未済ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添付スヘシ

最終仕拂計算書提出ノ後誤拂過渡科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ報告スヘシ

前二項ノ各事項ハ處分完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四條 仕拂ノ證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書其他仕拂ノ所由並計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雑ニ涉ルモノハ明細書若クハ説明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ當該長官ノ命令書若クハ決議書等ヲ添付スヘシ

正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ在リテハ其事由ヲ付記シタル仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケ之ヲ提出スヘシ

領收證書及仕拂書ニハ番號ヲ付スヘシ

第五條 證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キ場合ニ在リテハ當該官吏ノ保證アル謄本ニ其事由ヲ付記シ之ヲ提出スヘシ

外國語ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ付スヘシ

第六條 俸給其他一定ノ給與ニシテ其給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ證憑書ニ付記スヘシ

文官ノ新任者再任者轉任者ニ係ル俸給又ハ退官賜金ノ證憑書ニハ其履歷書新任者ニ對シテハ其任官資格ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ

俸給其他ノ支給ニシテ其規定ノ期限ニ依ラサルモノアルトキハ其事由ヲ證憑書ニ付記シ轉任退官死亡等ニ由リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ之ヲ報告スヘシ

第七條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ但領收證書又ハ精算證書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ又ハ病氣滯在在其他ノ事故ニ由リ特ニ日數ヲ要シタルモノ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルモノアルトキハ當該上官ノ認許書ヲ提出スヘシ

第八條 競争契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル決議書類

二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但其公告方法ヲ付記スヘシ

三 豫定價格調書但其算出ノ基ク所ヲ示スヘシ

四 一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書
 競争ノ落札者請負又ハ購買借入ノ契約ヲ結ハスシテ更ニ競争ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ尙前同ノ競争ニ關スル前項ノ書類ヲ其證憑書ニ添付スヘシ

第九條 隨意契約ニ依リタル五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル證憑書ニハ其決議書類及競争契約ニ依ラサリシ理由ヲ詳記シタル説明書ヲ添付スヘシ

工事又ハ物件ノ購買借入ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ豫定價格ノ制限ニ達セスシテ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其事由ヲ付記シ第八條ニ規定シタル書類ヲ提出スヘシ

第十條 五百圓以上ノ工事及物件ノ購買借入ニ關スル契約ニシテ其締結後變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノハ決議書及其關係書類ヲ證憑書ニ添付スヘシ

第十一條 五百圓以上ノ工事ニ關スル證憑書ニハ會計規則第六十七條第一項ニ依リ監督官吏若クハ技術者ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シテ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ヒタルモノハ其證憑書ニ會計規則第六十七條第二項ニ依リ検査官吏ノ作リタル調書ヲ添付スヘシ

第十二條 總價格千圓以上ノ直營事業ニ關スル最初仕拂ノ證憑書ニハ其設計書仕譯書設計圖面及其附屬書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニシテ特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年度最初仕拂ノ證憑書ニ之ヲ添付スヘシ

事業竣功シタルトキハ竣功明細書ヲ調製シテ其最終仕拂ノ證憑書ニ添付シ若シ設計ヲ變更シタルトキハ其變更設計書類ヲ添付スヘシ但繼續事業ニ係ルトキハ當該年度内ニ於ケル既濟ノ部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スヘシ

竣功明細書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 工事ニ其工費豫算ヨリ代價ヲ支辨セスシテ物品又ハ勞力ヲ使用シタルトキハ其種類及見積價格ヲ記載シタル明細書ヲ證憑書ニ添付スヘシ但證憑書ニ付記シテ明細書ヲ省クコトヲ得

第十四條 物件ノ購買又ハ賠償ニ關スル證憑書ニハ其名稱種類品位數量及單價ヲ明示シ該物件所要ノ目的ヲ付記スヘシ

前項ノ證憑書ニハ官有財産簿又ハ物品出納簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ付記スヘシ

第十五條 前渡金ヲ外國貨幣ニテ受入レタルモノ若クハ外國貨幣ニ交換シタルモノハ其爲替相場ヲ證明スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第十六條 返納金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ金庫ノ領收證書課拂過渡其他ノ返納金ヲ受取人ヨリ歳入ニ納付セシメタルモノハ歳入ノ徵收ヲ監督スル官吏若クハ當該金庫ノ保證書ヲ提出スヘシ

官吏遺族扶助法納金ヲ收入官吏ニ拂込ミタルモノハ當該收入官吏ノ領收證書ヲ提出スヘシ

第十七條 證憑書ハ豫算各目ニ區分編纂シテ其金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算渡ニ係ルモノ及領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其金額ヲ付記スヘシ但分任出納官吏ノ取扱ニ係ル證憑書ハ之ヲ區分編纂シ其金額及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

未到達ニ係ル領收證書ノ到達シタルモノハ仕拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

證憑書類ノ編纂ニ關シ時ニ區分ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ指定ス

第十八條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ仕拂計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

第十九條 下検査書ハ仕拂計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 仕拂計算書ト現金出納簿トノ符合及殘額現存ノ保證

一 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由
 第二十條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ
 附 則
 第二十一條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス
 現金前渡金仕拂證明規程及明治二十七年會計検査院達第七號ハ明治三十一年度限り廢止ス
 (別記)

計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
 計算書ハ用紙ハ簿沙引厚紙ニ折テ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ綫代ヲ存スヘシ
 計算書ハ改換捺印スヘシ
 計算書ハ若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任官
 之ニ捺印スヘシ

明治何年度
 何年何月(自何月日至何月日)
 歳出經常部
 何々(款) 何々(款)
 歳出臨時部
 何々(款) 何々(款)
 仕拂計算書

證憑書 何册
 何々

廳 名

前月迄仕拂額			本月仕拂額			本月同取額			計			残 額			備 考		
圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘		圓	錢
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

○交替ノトキハ前任官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
 ○定額ニ戻入シ又ハ歳入ニ納付スルタメ現金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ本月
 返納額ノ區ニ掲記シ領收額ヨリ控除スヘシ
 ○仕拂證明ノ後誤拂過渡其他ノ返戻金ヲ受取人ヨリ領收シタルトキハ本月同
 取額ノ區ニ掲記シ仕拂額ヨリ控除スヘシ
 ○身元保證金ニ異動アリタルトキハ其事由ヲ付記スヘシ

何々概算渡内譯

概算渡額	精 算 額			未精算額	備 考
	仕 拂 額	回 收 額	計		
100,000	0		0	100,000	○概算渡ヲ受ケタル者ヨリ精算殘金ヲ歳入ニ納付セシメタルモノアルトキハ 其金額ヲ仕拂額ニ算入シ之ヲ備考ニ記載スヘシ
50,000	40,000	10,000	50,000	0	
50,000	0	50,000	50,000	0	
50,000	50,000	0	50,000	0	
50,000	30,000	10,000	40,000	10,000	
300,000	120,000	70,000	190,000	110,000	
	(後月分ノ例)				
100,000	50,000	20,000	70,000	30,000	
10,000	0	0	0	10,000	
90,000	20,000	10,000	30,000	60,000	
200,000	70,000	30,000	100,000	100,000	

前月迄領收額	本月領收額	本月返納額	計	摘 要
0	0	0	0	經 常 部 何々(款) 何々(項) 何々(目) 何々 計
0	0	0	0	何々 何々 何々 計
0	0	0	0	臨時部 (經常部ニ同シ) 身元保蔵金 主任出納官吏何某200.00 分任出納官吏何某100.00

摘要	
三十二年四月分	計
五月分	
六月分	
七月分	
八月分	計
三十二年四月分	
八月分	
九分	

明治何年度何月(自何月日至何月日)仕拂證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

〔参照〕

會計検査院第七號(明治二十七年二月十六日) 作業及鐵道會計規則 守府造船材料資金會計規則 官立學校及圖書館會計規則 二據り現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ仕拂計算書ハ現金前渡仕拂證明規程ノ例ニ據ル

○會計検査院達第三號

政府ヨリ現金前渡ヲ受ケタル銀行仕拂證明規程左ノ通定ム

會計検査院長男爵山田信道

明治三十二年五月三十一日

政府ヨリ現金前渡ヲ受ケタル銀行仕拂證明規程

第一條 明治二十三年勅令第二十號及同年勅令第六十八號ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル銀行ノ調製

スヘキ仕拂計算書ハ別記書式ニ據ルヘシ

第二條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 元受高中科目ノ更正ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

二 誤拂過渡ノ戻入ニ由リ仕拂額ヲ減シタルモノ若クハ返納金ヲ金庫ニ納付シタルモノアルトキハ其金額事由

三 大藏大臣ヨリ辨償ヲ命セラレタルモノ若クハ辨償ヲ爲シタルモノアルトキハ其金額事由

四 整理公債條例第十四條ニ依リ時効期間ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由

五 外國貨幣ヲ以テ仕拂ヒタルモノハ其爲替相場

六 仕拂ヲ要セザリシ端金ハ其金額

七 紙幣交換ノ後偽造若クハ變造タルコトヲ發見シタルトキハ其種類枚數及金額

第三條 仕拂ノ證據トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 內國債元利金ノ仕拂ハ主任官吏ノ保證アル證券及利賦札還納表

二 國債證券ノ買入銷却ヲ爲シタルモノハ大藏大臣ノ令達謄本及正當受取人ノ領收證書

- 三 外國債元利金ノ仕拂ハ仕拂地領事ノ保證アル銷却表
 - 四 整理公債條例第二十條第二十五條及大藏省證券條例第十二條ニ依リ元利金ヲ仕拂ヒタルモノハ其事由ヲ記載シタル正當受取人ノ領收證書
 - 五 預金保管金及供託金利息ノ仕拂ハ正當受取人ノ領收證書
 - 六 紙幣交換ノ仕拂ハ主任官吏ノ保證アル還納表
 - 七 返納金ハ金庫ノ領收證書
 - 第四條 證憑書ハ各科目ニ區分編纂シ其金額仕拂期及紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ
 - 第五條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ仕拂計算書及證憑書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ
 - 第六條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 仕拂計算書ト出納帳簿トノ符合及殘額現存ノ保證
 - 二 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由
 - 第七條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ
- 附 則
- 第八條 本規程ハ明治三十二年度ヨリ施行ス
- 國債元利金仕拂證明規程及政府紙幣交換基金領店銀行紙幣交換基金仕拂證明規程ハ明治三十一年度限り廢止ス

(別記)

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ

二 計算書ノ用紙ハ肆沙引厚質美濃紙ニ折ア用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ線代ヲ存スヘシ

三 計算書ハ改竄塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任者之ニ捺印スヘシ

明治何年度
明治何年何月
國 債
仕 拂 計 算 書

證憑書 何册
何 ヲ 何册

銀 行 名

考

○政府紙幣交換基金領店銀行紙幣交換基金及營業滿期國立銀行紙幣交換基金仕拂計算書ハ此書式ニ準シ製スヘシ

○返納金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ本月分返納額ノ區ニ掲記シ領收額ヨリ控除スヘシ

○誤拂過渡ノ返戻金ヲ受取人ヨリ領收シタルトキハ本月同收額ノ區ニ掲記シ仕拂額ヨリ控除スヘシ

○外國債ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ハ前月迄仕拂額及本月分仕拂額ノ區ヲ「英米貨」及「通貨」ノ二區ニ分ツヘシ

計	摘要	前月迄仕拂額			本月仕拂額			本月即収額			計	残額
		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘		
	國債											
	整理公債											
	元 金											
	何年何月當籤											
	何年何月買入銷却											
	利 子											
	何年何月渡											
	何年何月渡											
	計											
	五分利付金証公債											
	元 金											
	何年何月當籤											
	利 子											
	何年何月渡											
	計											
	預金利息											
	預金利息											
	合計											

仕拂未済額	備 考	前月迄収額			本月領収額			本月返納額			
		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘	
0	○本表ハ毎年度最終國債仕拂計算書ニ添付スヘシ ○仕拂確定額ノ區ニハ既往年度ニ於ケル仕拂未済額及本年度中仕拂フヘキ額ヲ 掲記スヘシ ○差額ノ區ニハ額面ニ對スル買入銷却ノ差減及仕拂ヲ要セザリシ端金ヲ掲記ス ヘシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

明治何年度何年何月仕拂證明候也

何銀行總裁(頭取)氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

摘要	時枚完成期	仕拂確定額		仕拂済額		差 額	
		圓	銭	圓	銭	圓	銭
整理公債							
元 金							
何年何月當籤	何年何月	0	0	0	0	0	0
何年何月償還	何年何月	0	0	0	0	0	0
何年何月買入銷却	何年何月	0	0	0	0	0	0
利 子							
何年何月渡	何年何月	0	0	0	0	0	0
何年何月渡	何年何月	0	0	0	0	0	0
何年何月渡	何年何月	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0
五分利付金課公債							
元 金							
何年何月當籤	何年何月	0	0	0	0	0	0
利 子							
何年何月渡	何年何月	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0
預 金 利 子							
預 金 利 子							
計		0	0	0	0	0	0

○宮内省達甲第一號
宮内省官制中左ノ通改正ス

明治三十二年六月六日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

一第五十條中「三表ヲ」丁四表ニ改メ乙表ヲ丙表、丙表ヲ丁表トシ更ニ左ノ乙表ヲ追加ス

乙		宮内省技術官俸給表					
俸給	官等	第一級俸	第二級俸	第三級俸	第四級俸	第五級俸	第六級俸
三	等	二千八百圓	二千六百圓	二千四百圓	二千二百圓	二千圓	一千八百圓
四	等	二千四百圓	二千二百圓	二千圓	一千八百圓	一千六百圓	一千四百圓
五	等	二千圓	一千八百圓	一千六百圓	一千四百圓	一千二百圓	一千圓
六	等	一千六百圓	一千四百圓	一千二百圓	一千圓	八百圓	七百圓
七	等	一千二百圓	一千圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓
八	等	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓

一技師及委任侍醫ノ俸給ハ本表ニ依ル但シ事務ノ繁簡ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ
一同條丙表中屬醫員藥劑師ノ欄内ニ馬醫ヲ追加シ技手、馬醫ノ欄内馬醫ヲ削除シ技手俸給左ノ通改正ス

一	二	三	四	五	六
上級	七十五圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓
中級	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓
					十五圓

下級 六十圓 五十圓 四十圓 三十圓 二十圓 十二圓

一 技手ノ俸給ハ事務ノ繁簡ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ
一同條丁表中主殿寮内舍人四等ノ俸給ヲ左ノ通改正ス

上級	三十五圓
下級	三十圓

一 第五十三條中六分ノ一ヲ三分ノ一ニ改ム

〔參照〕

宮内省達第十號宮内省官制(明治三十二年七月二十三日)抄録
第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三表ノ定ムル所ニ依ル
第五十三條 判任官最上俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナルモノハ特別ヲ以テ月俸六分ノ一マテヲ増給スルコトアルヘシ

○宮内省達甲第二號

學習院官制第四條左ノ通改正ス

明治三十二年六月六日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

第四條 長、幹事、勅任教授、學生監、學生監副官、醫官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、奏任教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ書記、學生監部員、醫官助手ノ俸給ハ同條屬俸給、助教ノ俸給ハ技手俸給ニ依ル

〔參照〕

宮内省達甲第五號學習院官制(明治三十一年八月十日)抄録
第四條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ判任官俸給ハ同條屬官俸給表ニ依ル

○宮内省達甲第三號

華族女學校官制第八條左ノ通改正ス

明治三十二年六月六日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

第八條 長、學監、幹事ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、教授ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ書記ノ俸給ハ同條屬俸給、助教ノ俸給ハ技手俸給ニ依ル

〔參照〕

宮内省第二號華族女學校官制(明治十九年二月十日)抄録
第八條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸、第四級俸、第五級俸、第六級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官ハ各其等位ニ依リ第一級俸、第二級俸、第三級俸、第四級俸ノ内ヲ賜ヒ判任官等俸給ハ同條屬官官等俸給ニ依ル

○宮内省達甲第四號

東宮御所御造營局官制第十條左ノ通改正ス

明治三十二年六月六日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

第十條 長、事務官、技監ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表、技師ノ俸給ハ技術官俸給表ニ依リ屬、技手ノ俸給ハ同條屬及技手俸給ニ依ル但シ技師、技手ノ俸給ハ事務ノ繁簡ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ

〔參照〕

宮内省達甲第六號東宮御所御造營局官制(明治三十一年八月十七日)抄録
第十條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ判任官俸給ハ同條屬及技手俸給表ニ依ル

○陸達第四十七號

臺灣守備隊及同陸軍諸官衙交代武官拔擢ニ關スル件左ノ通定メラル

明治三十二年六月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

臺灣守備隊定規交代員及之ト同時期ニ交代スル臺灣陸軍各官衙ノ將校同相當官以下拔擢取扱方ノ儀ハ陸軍武官進級取扱規則拔擢圖例ノ時期ニ係ラス其派遣員ニ在テハ内地各所屬部隊ニ於テ歸還員ニ在テハ臺灣ノ各所屬部隊ニ於テ一般拔擢者ト同様拔擢ノ取扱ヲナスヘシ

但下士ニ在テハ裁決後陸軍武官進級取扱規則第十條第二項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

○陸達第四十八號

陸軍士官及准士官下士一等給給與内則左ノ通改ム

明治三十二年六月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍士官及准士官下士一等給給與内則

- 第一條 一等給ハ左ノ各項ノ一ニ當該スルモノニ之ヲ給ス但士官ニ在テハ任官後二箇年准士官下士ニ在テハ任官後一箇年以上ノモノニシテ勤務勳品行方正ニアラサレハ其撰ニ當ラス
- 一 各兵科大中尉ハ各官毎ニ各兵科ヲ通シテ在職現員ノ上三分一トス
- 二 監督補一ニ等軍醫一ニ等藥劑官一ニ等獸醫一ニ等軍吏及一ニ等軍樂長砲工兵上等監護ハ各部各兵科毎ニ各官在職現員ノ上三分一トス但特別俸ヲ給スルモノハ在職現員中之ヲ算入セス
- 三 各兵科特務曹長ハ各隊毎ニ現員ノ上三分一トス但屯田兵隊ニ在テハ各隊ヲ通シテ現員ノ上三分一トス

四 隊附各兵科及軍樂部下士ハ各部隊毎ニ各官現員ノ上三分一トス但隊附砲兵監護ニ在テハ師團臺灣ニ在テハ全島ヲ通シ每ニ現員ノ上三分一トス

五 隊外砲工兵監護ハ所管毎ニ各官現員ノ上三分一トス

六 衛生部下士ハ隊附隊外ヲ通シ各師管毎ニ各官現員ノ上三分一トス但近衛師團ニ在テハ師團軍醫部及各隊ヲ通シ臺灣ニ在テハ全島ヲ通シ衛生材料廠ニ在テハ本支廠ヲ通シ臨時電信部附ノモノニ在テハ同部附全員ヲ通スルモノトス

七 軍吏部下士ハ各監督部事務管轄區域毎ニ各官現員ノ上三分一トス但經理學校、被服廠及中央糧秣廠ニ在テハ之ヲ通シテ現員ノ上三分一トス

八 隊外各兵科下士砲工兵監護ヲ除キハ各官衙校團築城部及軍馬補充部ハ本支部ヲ通シ兵器廠及補給廠ハ本支廠ヲ通ス每ニ現員ノ上三分一トス

第二條 左ノ各項ノ一ニ當該スル者ハ第一條各項ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

- 一 特務曹長及隊附各兵科下士ニシテ定員二人ニ限ルモノニ在テハ上一人ニ又同一人ニ限ルモノニ在テハ之ニ一等給ヲ支給スルコトヲ得
 - 二 各兵科曹長ニシテ下副官又ハ教官補ノ職ニ在ル者ニハ一等給ヲ支給スルコトヲ得
 - 三 各兵科下士ニシテ隊附ヨリ隊外勤務ニ轉職スル者既ニ一等給ヲ支給シアレハ上三分一ノ規定ニ據ラサルコトヲ得
- 第三條 一等給ヲ給シタルモノハ左ノ各項ノ一ニ當該スルニアラサレハ其支給ヲ止ムルコトナシ
- 一 憲兵下士ニ轉シタルモノ
 - 二 砲工兵監護トナリタルモノ

三 砲臺監守トナリタルモノ

第四條 一等給下賜ノ手續ハ左ノ各項ニ據ル

一 各兵科大中尉、一二等軍樂長、砲工兵上等監護ニ在テハ所管長官ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣之ヲ命ス

二 監督補及一二等軍吏ニ在テハ經理局長、一二等軍醫及同藥劑官ニ在テハ醫務局長、一二等獸醫ニ在テハ軍務局長ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣之ヲ命ス

三 各兵科特務曹長及砲兵監護ニ在テハ該隊長ヨリ所管長官ニ稟申シ該長官之ヲ命スヘシ

四 各兵科隊附下士砲兵監護ハ該隊長ニ命ス又ハ校團長之ヲ命シ其隊外ノ者ニ在テハ該官衙校團長之ヲ命スヘシ但所管長官ニ直屬スル者ハ該長官直ニ之ヲ命スルモノトス

五 衛生部下士ニ在テハ當該軍醫部長之ヲ命スヘシ但衛生材料廠ニ在テハ同本廠長之ヲ命シ臨時電信部ニ在テハ同部提理ヨリ醫務局第二課長ニ移牒シ同課長之ヲ命スルモノトス

六 軍吏部下士ニ在テハ當該監督部長之ヲ命スヘシ但經理學校、被服廠及中央糧秣廠ニ在テハ該校長又ハ經理局第二課長ヨリ同局長ノ認可ヲ得テ之ヲ命スヘシ

七 軍樂部下士ニ在テハ該隊長又ハ該校長ヨリ師團長若クハ戶山學校長ニ稟申シ該長官之ヲ命スヘシ

第五條 一等給ノ人員ヲ調査スルトキ端數ヲ生スルトキハ二等給ニ屬スルモノトス

第六條 本内則ニ於テ隊附ト云フハ聯(大)(中)隊附及憲兵隊附並生徒隊若クハ教導隊附ノ者ニシテ其他ヲ隊外トス

附則

第七條 本則施行ノ際一等給ヲ支給シアル者ハ其列次第一條各項ノ規定外ニアルモ特ニ二等給ヲ給ス

第八條 本則施行ノ際一等藥劑官、一等獸醫、一等軍吏ニシテ丙俸又砲工兵上等監護ニシテ戊俸ヲ支給シアル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス一等給ヲ給スルモノトス

○陸軍第四十九號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十二年六月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本則第五條ノ手當ハ第十一表ニ依ル

同條第二項中「半箇月分」ヲ「半額」ニ改ム

同條第三項中「半箇月分」ノ手當金ヲ「半額」ニ改ム

第二十四條 削除

第二十五條 削除

第二十六條 削除

第二十七條 削除

第二十八條 削除

第二十條第一項中「手當」トシテ其給料一箇月分ヲ「第十一表」ノ手當ニ改メ但書ヲ削ル

第二十四條 削除

第二十五條中「第十四條」ヲ「第十七條」ニ「第十五條」ヲ「第十八條」ニ改メ「本細則第二十四條」ノ八字ヲ

削ル
第十表ノ次ニ左ノ一表ヲ加フ

第十一表 旅行手當

兵	同二	同	同曹	准	同少	同中	同大	同少	同中	同大	同少	同中	同大	六	階	將	高等	官親任	金	額
	相等	相等	相等	士	相	相	相	相	相	相	相	相	相			將	高等	官親任	五	百
	當軍	當軍	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當			將	高等	官親任	十	三
	官曹	官曹	官長	官	官尉	官尉	官尉	官佐	官佐	官佐	官佐	官將	官將			將	高等	官親任	十	五
	同	同判	同判	試	同	同	同	同	同	同	同	同	同			將	高等	官親任	十	七
	五級以下	四三級	二一級	補	八等以下	七等	六等	五等	四等	三等	二等	一等	一等			將	高等	官親任	十	五
	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓			將	高等	官親任	十	五

中將ニシテ親補職ニ在ル者ハ大將ノ額ニ曹長ニシテ在職中准士官タル者ハ准士官ノ額ニ依ル限員ニシテ給料一箇月六十圓以上ハ曹長四十五圓以上ハ一等軍曹十五圓以上ハ二等軍曹十五圓未滿及傭人ハ兵卒ノ額ニ依ル

○陸軍第五十號

陸軍給與令細則左ノ通改正ス

明治三十二年六月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍給與令細則

第一章 總則

第一條 陸軍軍隊ノ糧食、被服、馬匹、消耗品及陣營具ニ係ル給與ハ本令ノ定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス

委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各其ノ費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スヘシ

委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞、遺失等ノ補償金ハ各其ノ經理費ニ充ツヘシ

第二條 本令ニ於テ毎月下旬ニ給與スヘキモノハ左ノ日割ニ依ル

毎月二十四日 陸軍省副官、同各局課長及近衛師團監督部長ノ仕拂命令ニ係ルモノ

毎月二十五日 各師團近衛師團監督部長及臺灣陸軍監督部長ノ仕拂命令ニ係ルモノ

第三條 本令ニ於テ毎月ニ給與スヘキモノハ毎月十日、二十日及末日トス

第四條 前二條ノ支給日休日ニ當リタルトキハ順次繰上ケ支給シ免官、免役、死亡其ノ他事故アルトキハ其ノ際ニ支給ス但シ營内居住者ニシテ賜與休暇中他行スル者ハ毎旬適宜ニ給スルコトヲ得

仕拂命令ハ其ノ支給定日前五日以内ニ於テ之ヲ發シ又隔地送金ニ係ルモノハ支給定日ニ到著ス

ヘキ日積ヲ以テ發スヘシ

仕拂命令ヲ發シ若ハ支給後轉職等アルトキハ甲乙各廳支出科目ノ款項ヲ異ニセサルモノニ限リ
甲廳ハ其ノ儘支給シ乙廳ハ翌月ヨリ支給ス其ノ増減アルトキハ乙廳ニテ追給若ハ差繼支給スル
コトヲ得但シ年度ヲ異ニスルトキハ差繼支給ノ限ニアラス

第五條 轉職及休職、停職等ニ當リ俸給其ノ他ノ諸給與ニシテ支給ノ應ヲ異ニスルモノハ甲廳ヨ
リ乙廳ヘ其ノ職官氏名及支給濟ノ月日等ヲ通報スヘシ

第二章 俸給

第六條 本令第六條職務俸ノ區分左ノ如シ

- 一 在職將官、同相當官、參謀官、陸軍省副官、同課長、同課員、參謀本部副官、元帥副官、教育總監部佐
官、東京防禦總督部副官、要塞司令官、都督部副官、陸軍幕僚副官、陸軍補給廠長、臺灣總督副官、
師團副官、監督部長、軍醫部長、獸醫部長、砲工兵會議議長、同審查官、憲兵司令部及憲兵隊佐官、
陸地測量部佐官、砲兵工廠佐官、軍馬補充部本支部長、兵器本廠佐官、要塞所在地兵器支廠長、
築城部佐官、諸學校校長、教導團長、各兵聯隊長、獨立隊ニ在テ警備隊司令官、諸學校及教導團生
徒隊附佐官、諸學校教官、東宮武官、並尉官、同相當官、丁額ヲ給スハ甲額ニ依ル
 - 二 甲額及丙額ヲ給スル者ノ外在職佐官ハ乙額ニ依ル
 - 三 聯隊區司令官、警備隊區司令官ハ丙額ニ依ル
 - 四 在職一、二等軍樂長、砲工兵上等監護ハ丁額ニ依ル
- 第七條 俸給ト稱スルトキハ准士官以上俸給下士兵卒給料諸生徒手當金其ノ他總テノ加給俸職務
増俸
ヲ除クヲ包含シ准士官以上俸給ト稱スルトキハ職務俸特別俸上級ノ職務心得勸加給俸ヲ包含シ下

士兵卒ノ給料ト稱スルトキハ諸加俸ヲ包含ス

第八條 准士官以上ノ俸給ハ年額ヲ十二分シ月額ヲ以テ給ス但シ中將同相當官ノ俸給ハ附表ノ月
額ニ依ル

第九條 下士兵卒ノ給料及諸生徒ノ手當金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス

- 一 營內居住ノ者ハ月額ヲ三分シ旬額ヲ以テ給ス
- 二 營外居住ノ者ハ月額ヲ以テ給ス

職務増俸ハ其ノ給料ヲ給スル日ニ於テ給ス

第十條 新任其ノ他増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ給ス但シ下士以下ニアリテ辭令書ヲ發セサ
ルモノハ其ノ命ヲ受ケタル當日ヨリ給ス

營外居住ノ者營內居住ニ轉スルトキハ入營前日迄外宿加俸ヲ給シ又營內居住ノ者營外居住ニ轉
スルトキハ退營當日ヨリ外宿加俸ヲ給ス但シ轉職ノ爲メ旅費ヲ支給スル者ニ在テハ其ノ日數間
之ヲ給セズ

第十一條 豫備役後備役退役免官免役者俸給ハ發令當日下士兵卒ニ在テ辭令書ヲ發セサ
ルモノハ其ノ命ヲ受ケタル前日マテ給
ス但シ恩給ヲ受クル者若ハ下士ニシテ即日陸軍部内ノ文武官ニ任セラレタル者ハ其ノ恩給若ハ
新任ノ俸給起算ノ前日限り止ム

第十二條 豫備役後備役並補充兵役ニ在ル者召集中ノ俸給ハ到著ノ後部隊編入當日ヨリ解散前日
マテ給ス但シ下士以下傷痍疾病ノ爲入院中解散ノ者ニシテ歸郷セシメ難キ場合ニ在テハ退營セ
シムヘキ日ヨリ退院前日迄召集中ニ準シ給料ヲ給ス

第十三條 死亡者ノ俸給ハ其ノ當日マテ給ス

第十四條 下士兵卒ヨリ諸生徒ヲ命セラレタルモ後日本官若ハ現役ヲ免除セラレヘキ者ハ其ノ免除ノ發令當日（辭令書ヲ發セサルモノハ）マテハ前給料ヲ給ス
第十五條 新ニ兵卒トナリ營内居住ノ者ハ入營當日營外居住ノ者ハ兵卒ヲ命セラレタル日ヨリ給料ヲ給ス

第十六條 下士上等兵禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ懲罰令其ノ他ニ依リ官職ヲ失ヒ若ハ免セラレ兵卒トナリタル者ハ其ノ當日ヨリ兵卒ノ給料ヲ給ス但シ兵卒中一二等アルモノハ一等ニ依ル
第十七條 營内居住ノ兵卒豫備役後備役ニ入り又ハ免役若ハ歸休ヲ命セラレ歸郷セシムルトキハ退營前日マテ給料ヲ給ス

營内居住ノ下士兵卒傷痍疾病ノ爲入院中前項ノ場合ニ在テ歸郷セシメ難キ者ハ退營セシムヘキ日ヨリ退院前日迄召集中ニ準シ給料ヲ給ス
第十八條 年功加俸ハ滿七箇年又ハ滿十箇年在營加俸ハ滿二箇年ノ翌日ヨリ給シ營外居住ノ職ニ轉シタルトキハ退營前日マテ給シ死亡スルトキハ其ノ當日マテ給ス
第十九條 職務増俸ハ其ノ職務ニ就キタル日ヨリ給シ免セラレタルトキハ其ノ命ヲ受ケタル前日マテ給ス

請願休暇謹慎及拘禁留置中ハ職務増俸ヲ給セス
傷痍疾病其ノ他事故ニヨリ缺勤中代理ヲ命セラレタルトキハ其ノ當日ヨリ職務増俸ヲ代理者ニ給ス缺員ニ當リ代理ヲ置クトキ亦同シ
第二十條 軍樂次長以下樂手補以上技術加俸ヲ受ケタル者ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ起因シ技術退歩セシ者ニハ技術加俸ノ等級ヲ降シ若ハ之ヲ止ムルコトヲ得

第二十一條 陸軍部内武官兼職ノ者俸給ハ事務ノ應ニ於テ給ス但シ兼職ノ俸給本職ノ俸給ヨリ多キトキハ其ノ差額ハ兼職ノ應ニ於テ給ス
第二十二條 轉職者等ノ俸給ハ發令當日（下士兵卒ニ在テ辭令書ヲ發セサマテ甲廳ニテ給ス但シ營外居住ノ者營内居住ニ轉スルトキハ入營前日）旅費ヲ支給スルマテ甲廳ニテ給ス
第二十三條 俸給ノ支給ハ其ノ在勤ノ地ニ於テ本人ニ支給スルヲ例トス派遣出張等ノ者ニ在テハ其ノ旅行先キニ送付ヲ請求スルコトヲ得但シ派遣出張ノ者留守宅ニ支給ヲ請ハントスルトキハ豫メ受取人ヲ定メ當該廳ニ願出ツヘシ
遠隔ノ地ニ在ル休職停職者ノ俸給ハ毎月之ヲ遞送スヘシ

第二十四條 准士官以上及營外居住ノ下士以下請願休暇（轉地療養ヲ除ク）日數三十日間ハ俸給ヲ減セスト雖其ノ後ハ日割ヲ以テ半額ヲ減ス請願休暇ヲ以テ歸省中轉地療養ヲ許サレタル者亦同シ
營内居住ノ下士以下請願休暇中ハ俸給ヲ給セス
第二十五條 請願休暇ヲ以テ歸省又ハ他行中公務ヲ命スルトキ執務日數間ハ俸給全額ヲ給ス但シ准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在テハ公務中ヲ除キ前後ノ日數ヲ通算シ三十日ノ後ハ前條第二項ニ依ル

第二十六條 公務旅行中請願休暇ヲ許サレタルトキハ公務旅行順路行程ノ日數ヨリ超過ノ日數ハ前條ニ準ス
第二十七條 准士官以上及營外居住ノ下士以下傷痍疾病ニ依リ引籠（轉地療養トモ）日數百八十日ヲ超過スルトキハ其ノ日ヨリ日割ヲ以テ職務俸ノ三分ノ二（下士以下ハ額ノ半額）ヲ減ス但シ一等症ノ者ハ此限ニア

ラヌ

營内居住ノ下士以下傷痍疾病ニ依リ病院病室ニ入り又ハ轉地療養スルトキ一等症ハ俸給金額ヲ給シ其ノ他ハ半額ヲ減ス但シ休養室ニ入ル者ニ在テハ病症ノ等差ヲ問ハス總テ金額ヲ給ス

第二十八條 准士官以上及營外居住ノ下士以下拘禁留置中ハ俸給半額ヲ減ス但シ休職停職ノ者ハ此限ニアラス

營内居住ノ下士以下拘禁中ハ俸給ヲ給セス但シ收禁留置中ハ半額ヲ減給ス

被告事件ノ爲軍法會議ニ護送途中ハ留置ニ準シ減給ス

前各項ノ者無罪若ハ免訴ニ歸スルトキハ其ノ不給額ヲ追給ス未決中死亡ノ者亦同シ

罰金科料ニ處セラレタル者限内完納スルコト能ハスシテ禁錮拘留ニ換ヘラレタルモノハ減給スルコトナシ

第二十九條 遭ニ職役屯營本隊ヲ離レ又ハ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者ハ其ノ間俸給ヲ給セス

第三十條 第二十八條ノ第二項 第二十九條ハ判任以上ノ軍屬ニ準用ス

第三十一條 判任以上ノ軍屬廢官退官又ハ死亡シ其ノ月ノ俸給金額ヲ給スヘキ者ニシテ前條ニ當ルトキ俸給ヲ減却スルハ其ノ當日マテトス但シ拘禁留置中ノ者無罪若ハ免訴トナリ又ハ死亡スルトキハ不給額ヲ追給ス

第三十二條 病罰其ノ他ノ事故ニ依リ同時ニ減給スル場合ノ生シタルトキハ其ノ減額多キ方ニ就キ減給ス

第三十三條 俸給日割計算ノ法ハ左ノ例ニ依ル職務増俸モ又同シ
一 准士官以上ハ其ノ年額ヲ十二分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ四

拾五入厘位ニ止メ支給額ヲ得但シ一箇月内俸給ヲ異ニスル爲日割計算ヲ爲ス場合ニ在テモ各俸給毎ニ本文ノ例ニ依ル

二 營内居住ノ下士以下ハ月額ヲ三分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シテ十分シ四拾五入厘位ニ止メ支給額ヲ得但シ増俸減俸ノトキハ前後各月額ノ三分ノ一額ヲ對照シ其ノ差額ニ總テ後チニ支給スヘキ日數ヲ乘シテ十分シ四拾五入厘位ニ止メ之ヲ前官等ノ三分一額ニ加ヘ減俸ノ減額ヲ支給額ヲ得又甲廳ヨリ乙廳ニ轉スルトキハ乙廳ニ於テ毎箇ノ全支給額ヨリ甲廳ニテ支拂セシ額ヲ控除シ支給額ヲ得

三 營外居住下士以下ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シテ之ヲ十分シ四拾五入厘位ニ止メ支給額ヲ得其ノ増俸減俸及甲廳ヨリ乙廳ニ轉スルトキハ前項但書ニ準シ月額ニ依テ支給額ヲ得

第三十四條 病罰其ノ他ノ事故ニ依リ俸給ノ内幾分ヲ減スル計算ノ法ハ左ノ例ニ依ル但シ一箇月營内居住ヲ通シテ減給スル場合ニ在テハ月額者ハ旬額ニ分數ヲ乘除シ月額者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

一 准士官以上ハ年額ヲ十二分シ尙其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ毛以下之ニ減スヘキ分數ヲ乘

除シ毛以下又之ニ減スヘキ日數ヲ乘シ月額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

二 下士以下ハ其ノ月額者ハ旬額ヲ十分シ八十分ス毛以下之ニ減スヘキ分數ヲ乘除シ毛以下

又之ニ減スヘキ日數ヲ乘シ月額者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

三 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

四 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

五 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

六 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

七 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

八 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

九 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十一 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十二 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十三 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十四 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十五 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十六 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十七 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十八 營外居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

十九 營内居住者ハ旬額ヨリ控除シテ支給額ヲ得

附表

中	將	俸	給	一四五七八	ノ	八箇月	一六九	ノ	四箇月
---	---	---	---	-------	---	-----	-----	---	-----

第一	表	月	額
百六十六圓	六十六錢	七厘	
百六十六圓	六十六錢	六厘	
第二	表	月	額
百六十六圓	六十六錢	七厘	
百六十六圓	六十六錢	六厘	
合計	三百三十三圓	三十三錢	四厘
三百三十三圓	三十三錢	二厘	

第三章 宅料

第三十五條 宅料ハ新任就職及昇級者ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ給シ武官ヨリ文官ニ轉任シ文官ノ俸給ヲ受クル者休職停職豫備役後備役退役免官免役トナリタル者ハ發令當日死亡ノ者ハ其ノ當日マテ之ヲ給ス

第三十六條 赴任旅行ノ者ハ發程翌日ヨリ任地著前日マテ宅料ヲ給セス又派遣若ハ出張地等ヨリ直ニ赴任スル者ハ移轉料支給ノ場合ニ於テ宅料ヲ控除支給スヘシ其ノ控除スヘキ日數ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ル旅行計算日數ヨリ二日ヲ減シタルモノトス

第三十七條 擅ニ職役屯營本隊ヲ離レ又ハ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者及禁錮中ハ宅料ヲ給セス
第三十八條 官舎兵營共以ニ居住スル者他ニ轉スルトキハ其ノ當日ヨリ宅料ヲ給シ他ヨリ官舎ニ轉スルトキハ其ノ前日マテ宅料ヲ給ス

官舎ニ居住スヘキ者自己ノ便宜ヲ以テ請願ノ上他ニ居住スル者ニハ宅料ヲ給セス
第三十九條 轉職者等ノ宅料ハ發令當日マテ甲廳ニ於テ給ス但シ營外居住ノ者營内居住ニ轉スルトキハ入營前日旅費ヲ支給スル者ハ出發前日マテ甲廳ニ於テ給ス

第四十條 前各條端日數計算ノ法ハ其ノ支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メ支給額ヲ得

第四章 糧食

第四十一條 糧食ハ現食數ニ應シ本令第九表及第十一表ノ定額ヲ各部各隊ニ交付シテ賄ハシム但シ經理ヲ委任セラレサル部隊ニ在テハ定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ

第四十二條 左ノ事項ニ對スル不食數ハ之ヲ實食數ニ算入スヘシ

- 一 賜與休暇中歸省外宿若ハ終日外出スル者
- 二 豫備役ニ入りタル一年志願兵ニシテ勤務演習召集中外泊スル者
- 三 從卒ニシテ將校ノ家宅ニ宿泊スル者
- 四 警備隊下士兵卒ニシテ外泊スル者
- 五 炊爨ノ準備ヲ終リタル者

第四十三條 本令第二十一條ノ増賄料ヲ受クヘキ者ニシテ在校又ハ入院中ハ賄料ノ定額ト共ニ之ヲ學校及病院ニ交付シテ賄ハシメ在隊中ハ之ヲ本人ニ給スヘシ

第四十四條 軍隊旅行、演習旅行、陣營移轉其ノ他轉地療養中旅費ヲ給スル場合ニ在テハ定額糧食ハ之ヲ旅費額ニ差繼クヘシ

第四十五條 精米ハ左ノ事項ニ依リ定量又ハ減量ニ對スル代金ヲ交付ス

- 一 麵麩其ノ他ノ食品ヲ代用シタルトキ
- 二 雜穀類ヲ混用シタルトキ
- 三 患者ノ病症ニ因リ減量シタルトキ

第四十六條 第四十二條第一乃至第四ニ該當スル者ニ對スル精米ハ代金ヲ以テ賄料ノ定額ト共ニ本人ニ給スヘシ但シ營内居住ノ下士以下ニシテ官衙ニ通勤スル者ニハ時宜ニ依リ本文ニ準スル

コトヲ得

第四十七條 本令第二十三條ノ食料ハ左ノ區別ニ依ルヘシ
 一 入學中外泊ノ者ニ在テハ其ノ外泊中ノ現日數ニ應シ毎月末日休日ニ當ルトキハ順次繰上ケトスニ於テ之ヲ給シ退學等ノ爲其ノ給與ヲ止ムル場合ニ在テハ其ノ際ニ給ス
 二 病院ニ詰切ノ者ニ在テハ其ノ詰切中ノ現日數ニ應シテ之ヲ給ス但シ旅費日當ヲ受クル者ニハ之ヲ給セス

第四十八條 本令第二十四條ノ夜食料ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一 夜間作業又ハ夜中行軍各四時間以上ニ及ブトキ並演習中露營ヲ爲ストキハ其ノ人員ニ應シ定額ヲ各部各隊ニ交付シテ賄ハシム但シ經理ヲ委任セラレサル部隊ニ在テハ定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ

二 夜中巡邏及不眠番ヲ爲シタルトキハ之ヲ本人ニ給ス看守長及看守ニシテ夜勤ノ者亦同シ

第四十九條 本令第二十五條第四項ノ補助賄料ハ附表ニ依ル

第五十條 第四十四條乃至第四十六條ノ精米相場ハ當該監督部長之ヲ指定スヘシ
 前項指定相場ハ其ノ月一日ニ於ケル給養精米單價ノ平均相場トス但シ各備成地各別ニ算定スヘシ

第五十一條 糧食自辨ノ者ニシテ公務ノ爲傷疾、疾病ニ依リ入院ノ者及入院中服役滿期後若ハ召集解散後引續キ治療ヲ要スル者ノ糧食ハ該病院ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ
 本令第二十五條第一項中准士官以上及營外居住下士以下軍馬ノ糧食同第二項ノ場合ニ於テ糧食ノ定額多キ方ニ依ルトキ營内居住下士以下ニ係ル賄料ノ差額ハ演習費ヨリ支辨スヘシ

食ノ定額多キ方ニ依ルトキ營内居住下士以下ニ係ル賄料ノ差額ハ演習費ヨリ支辨スヘシ
 本令第二十六條ノ糧食營内居住ノ現役下士以下並召集中ノ糧食後備後及食料ハ囚徒費ヨリ支辨スヘシ

附表 補助賄料

一人一日ノ額	給與區別
一	甲 額 常食給與ノ場合ニ在テ罐詰肉ノミ給スルトキ
二	乙 額 常食給與ノ場合ニ在テ罐詰肉ニ梅干若ハ食鹽ヲ添ヘ給スルトキ
三	丙 額 携帶糧秣給發若ハ縱列給發ニ擬スルトキ

第五章 被服

第五十二條 本令第二十九條ノ服裝手當及馬裝手當ハ一回限り之ヲ給ス
 第五十三條 本令第三十二條ノ給與ハ左ノ如シ

- 一 被服代金ハ營外居住トナリタル月ヨリ之ヲ給シ再ヒ營内居住トナリタルトキ又ハ免官、免役等ノ者ヨリ其ノ月迄給ス
- 二 被服料ハ現人員ニ對スル月額額目數ニヨリ該隊ニ交付シ當該兵科ノ下士、兵卒ニ準シ現品ヲ以テ所要ノ被服ヲ支給スヘシ
- 三 被服保續料ハ現人員ノ在營日數入營當日ヨリ退營前日マテニ對スル定額ヲ該隊ニ交付シ所要ノ被服ヲ支給セシム

第五十四條 營内居住ノ下士以下轉隊ノトキ被服ノ取扱ハ左ノ例ニ依ル

- 一 營内居住ノ者互ニ相轉スルトキハ最新ノ時服時服トハ帽及季節ニ應スル衣袴略衣袴ヲ除ク
襪ト下外靴靴脚絆拍車下襟襪布靴下手袋ヲ
謂フ以テ著裝轉出セシム
- 二 諸生徒卒業任官若ハ事故ノ爲軍隊ニ編入ノ者ハ本令第十四表ノ被服相當ノ袖ヲ携持セシム
附ス
- 三 營外居住ニ轉シ被服代金ヲ以テ一切ノ被服ヲ調辨セシムヘキ者ニハ最新被服一揃夏冬及正
用共
- 四 其ノ轉入セシ者被服ノ製式ヲ異ニスルトキハ改修或ハ換給シ尙一揃ニ不足ノ品種ハ現品ヲ以テ支給ス
- 五 軍樂部樂生ニシテ營外居住トナリタルトキハ所持ノ被服悉皆ヲ携持セシメ而シテ現品給與ノモノハ其ノ保存期限ヲ追ヒ支給ス
- 第五十五條 營外居住ノ下士ニシテ營内居住トナリタル者ハ所持被服悉皆ヲ携持セシメ製式ノ異ナルモノハ新所管ニ於テ之ヲ改修或ハ換給ス
- 第五十六條 營外居住ノ下士ニシテ戸山學校教官補ノ職ニ就キタル者ノ被服ハ該校ニ於テ初度現品ヲ給シ不用ノ被服ハ返納セシメ被服代金ハ其ノ翌月ヨリ支給ス
- 第五十七條 豫備役、後備役下士ニシテ聯隊區司令部附トナリタル者ニハ初度現品ヲ以テ被服一揃夏冬及正
用共ヲ給シ被服代金ハ其ノ翌月ヨリ支給ス
- 第五十八條 特務曹長休職、停職トナリ若ハ現役ヲ離レタル者ニハ第一種帽、前立、第二種帽、日覆、正衣袴、肩章、軍衣袴、夏衣袴及靴各一著ヲ付與ス
- 第五十九條 砲兵(徒步)隊要塞砲兵射擊學校附砲兵科曹長、軍曹ニシテ營外居住ノ官衙ニ轉シタル者ノ被服代金ハ砲兵科(要塞)ノ額ニ依ル

- 第六十條 營内居住ノ下士以下入學或ハ分遣中ノ被服給與ハ原部隊ノ經理ニ屬ス其ノ被服ハ現品ヲ送付シ若ハ調製ヲ委託スルトコトヲ得
- 士官學校分遣中修業上必要ノ品種ハ本令第十七表ノ定額中ヨリ支辨ス
- 第六十一條 下士以下不注意若ハ故意ニ依リ給與ノ被服ヲ損壞遺失投棄シタル者ハ左ノ例ニ準シ之ヲ補償セシム
 - 一 損壞ノ被服ハ修理費若ハ新調費ノ全部
 - 二 遺失投棄ノ被服ハ相當代價相當代價ハ同期給與ノ軍隊手牒ハ新古ヲ問ハス新調代價
被服ヲ以テ評價セシム
- 第六十二條 遺失投棄ノ被服補償ノ後發見シタルトキハ現品給與ノ者ニ在テハ之ヲ賣却シ其代金ヲ代金給與ノ者ニ在テハ其ノ現品ヲ本人ニ付與ス但シ其遞送ニ係ル費用ハ自辨トス
- 第六十三條 損壞遺失投棄ニ係ル被服ノ補辨及償金等ハ左ノ例ニ依リ處理スヘシ
 - 一 軍隊ニ在テ遺失投棄ニ係ル被服ハ貯藏品ヲ以テ補給シ損壞品ハ之ヲ修理シ其ノ費用ハ被服積立金ヨリ支辨シ而シテ補償金ハ被服積立金トナスヘシ
 - 二 官衙ニ在テ現品給與ニ係ル被服ヲ遺失投棄シタルトキハ之ヲ補給シ損壞シタルトキハ之ヲ修理シ其ノ新調及修理ノ費用ハ被服費ヨリ支辨シ而シテ補償金ハ歲入トナスヘシ但シ被服代金給與ノ者ニ在テハ總テ自辨セシム
- 第六十四條 下士以下所持ノ被服品中水火盜難等ニ罹リタルモノハ其ノ狀況ヲ具申セシメ所屬長官ニ於テ事由確實ト認定シタルトキハ勸務ニ支障ナキヲ限度トシ之ヲ補給スルコトヲ得但シ新調ヲ要スルトキハ官衙ニ在テハ被服費ヨリ軍隊ニ在テハ委任經理金ノ内ヨリ支辨スヘシ
- 第六十五條 下士以下出獄復歸ノ際被服ヲ所持セサルトキハ原所管ヨリ相當ノ被服ヲ送付セシム

ハ但シ代金給與ノ者ニ在テハ自辨トス

第六十六條 見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏又ハ下士ヨリ士官若ハ准士官
居住者ニ任スル者又ハ下士以下免官、免役、退學、死亡等ノ者ハ所持ノ被服悉皆第六十七條若ハ第
六十八條ノ被服ヲ
除クテ還納セシム

被服代金給與ノモノ前項ノ場合ニ在テハ最新品ノ第一種帽前立、第二種帽、日覆、正衣袴、肩章、軍
衣袴、外套各一箇ヲ還納セシム其ノ他ハ徽章ヲ除去シテ付與ス但シ憲兵及軍樂部下士兵卒ニ在
テ現品給與ノ品種ハ悉皆第六十八條ノ被服ヲ除クテ還納セシム

第六十七條 營内居住ノ下士兵卒現役ヲ離レ若ハ歸休ヲ命セラレ又ハ諸生徒退學等ニ依リ歸郷ス
ル者ニハ帽前項ノ被服及季節ニ應ズル衣袖章ヲ袴、襪、袴下、靴各一著ヲ付與ス

第六十八條 下士以下死亡ノトキハ其ノ還納スヘキ被服品中帽、衣袴及靴各一著ヲ以テ殯殮ノ用
ニ供セシム豫備役、後備役下士兵卒並補充兵召集中死亡ノトキ亦同シ

第六十九條 本令第三十六條ノ被服手入品料ハ被服手入具ノ保綴及手入用消耗品ノ費途ニ充ツル
モノニシテ其ノ定額ハ端日數ノ者ニ在テモ月額ヲ給ス

第七十條 被服修理ニ要スル費用ハ軍隊ニ在テハ委任經理金ノ内ヨリ官衙ニ在テハ被服費ヨリ
支辨スヘシ

第七十一條 營内居住ノ下士以下入學或ハ分遣又ハ會計事務修習上等兵他隊ニ派遣中ノ被服手入
品料ハ派遣ノ月ヨリ復歸ノ前月迄毎月其ノ定額ヲ學校等ニ送付スヘシ

第七十二條 宿番用及休養室用被服初度備附ノ後ハ軍隊ニ在テハ委任經理ノ内ヲ以テ適宜之ヲ保
續シ諸學校等ニ在テハ實際ノ損敗ニ依リ之ヲ換給ス

第六章 馬匹

第七十三條 本令第二十九條ノ馬糞及糞畜料ハ牽入當日ヨリ手放前日マテ給ス但シ乘馬本分ノ職
ヲ離レタル者及死亡ノ者ニハ辭令拜受又ハ死亡ノ前日マテ之ヲ給ス

第七十四條 乘馬本分ノ職ニ在ル者甲馬ヨリ乙馬ニ轉職スルトキ馬糞若ハ馬糞代金及糞畜料ハ辭
令拜受ノ前日マテ甲馬ニ於テ給ス但シ前渡ノ馬糞ニ殘餘アルトキハ之ヲ還納セシム

第七十五條 糞畜料支給ノ場合ニ於ケル端日數計算法ハ其ノ支給スヘキ日數ニ月額ヲ乘シ其ノ月
ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止ムヘシ

馬糞代金ヲ受クル者ニ對シ現品ヲ支給セシトキハ第七十六條ノ端日數計算法ニ依リ現日數ニ對
スル代金監督部長ノ指定相場ヲ控除スヘシ若シ其ノ代金支給後ナルトキハ翌月分ニ於テ差額キ
支給スヘシ但シ年度ヲ異ニスルトキハ此限ニ非ス

第七十六條 本令第四十條ノ馬糞ハ現日數ニ應シ本令第二十一表ノ定額ヲ各部各隊ニ交付シテ飼
養セシム其ノ端日數計算法ハ朝飼ニ在テハ麥二升秣五百匁糞百匁トシ夕飼ニ在テハ麥二升秣一
匁糞七百匁トス但シ本令第二十一表備考ノ増減ハ糞廐ノ夜數ニ應シ之ヲ給ス

前項ノ馬糞ハ時宜ニ依リ代用品ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ定量ニ對スル代金ヲ交付
ス

第七十七條 本令第四十一條ノ飼養費ハ現日數、馬匹預託料及放牧、食鹽費ハ現日數ニ應シ定額ヲ
標準トシ之ヲ飼養シ其ノ實費ヲ仕拂スヘシ

第七十八條 馬匹ノ裝飾ハ毎月四蹄一回剔毛ハ毎年一回ト定メ現馬數ニ依ル本令第二十
二表ノ定額ヲ各部各隊ニ交付シテ支辨セシム但シ經理ヲ委任セラレサル部隊ニ在テハ定額ヲ標
準トシ實費ヲ仕拂フヘシ

第七十九條 本令第四十三條ノ馬匹手當ハ初テ乘馬本分ノ職ニ就キタルトキ一回限り共ノ應ニ於
テ給ス但シ馬匹購買前ニ於テ乘馬本分ノ職ヲ離レタルトキハ之ヲ返納セシム

第八十條 本令第四十四條ノ馬匹購買料ハ委員管理ノ定馬數ニ應シ一回限り之ヲ交付シ馬匹購
買ニ係ル一切ノ費用ニ充テシム故ニ新ニ馬匹ノ定數増加ノトキハ其ノ増加馬數ニ對シ更ニ一回
限り之ヲ交付ス

第八十一條 本令第四十四條ノ馬匹保續料ハ毎年四月ニ交付スルヲ以テ馬匹保續積立金ニ組入レ
交換馬匹ニ係ル一切ノ費用ニ充ツヘシ馬匹ノ定數増加ノトキハ月割ヲ以テ之ヲ交付ス其ノ日數
十五日ニ充サルトキハ之ヲ交付セス

第八十二條 乘馬本分ノ職ニアル士官ニシテ自馬ヲ乘用スル者ニハ該馬匹保續費トシテ毎月金一
圓八十錢ヲ馬匹保續積立金ヨリ支給スヘシ其ノ牽入又ハ手放ノ月ニ於ケル支給法ハ之ヲ十五日
前後ニ區分シ其ノ牽入十五日日前其ノ手放十六日後ニ在ルトキハ之ヲ給シ之ニ反スルトキハ給セ
ス

自馬ヲ乘用スル者ニシテ十五日前ニ轉職スルトキハ前項金額ヲ乙應ニ於テ給シ十六日後ニ在ル
トキハ甲應ニ於テ給スヘシ

第八十三條 本令第四十五條ノ返還馬匹一箇年以上ニ及フヘキ者ハ馬糧及繫畜料ヲ交付セス
第八十四條 本令第四十六條ノ馬藥費ハ馬數ノ十分ノ一トキハ切上ニ對スル定額ヲ標準トシ實

費ヲ仕拂フヘシ

第八十五條 本令第四十七條第一項ノ増飼及増繫畜料ハ旅行地在及演習中ノ現日數ニ應シ之ヲ給
ス但シ旅費規則ニ依リ馬匹旅費ヲ受クル者ニハ之ヲ給セス

同條第二項ノ増飼ハ實際ノ勞働ニ依リ飼養ノ現日數ニ應シ之ヲ各部各隊ニ交付ス

前項ノ増飼ハ時宜ニ依リ代用品ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ定量ニ對スル代金ヲ各部
各隊ニ交付ス但シ經理ヲ委任セラレサル部隊ニ在テハ代金ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ

第八十六條 馬糧及増飼ノ定量ニ對スル代金交付ノトキ其ノ代金算出ノ相場ハ當該監督部長之ヲ
指定スヘシ但シ陸軍本省ニ在テハ近衛師團監督部長ノ指定相場ニ依ルヘシ

前項指定相場ハ其ノ月一日ニ於ケル各部各隊ノ馬匹ニ給スル馬糧單價ノ平均相場トス但シ各衛
戍地其ノ他各部所在地毎ニ算定スヘシ

第八十七條 演習中病馬ヲ生シタルトキ其ノ治療費及演習中増飼並増繫畜料ハ演習費ヨリ支辨ス
ヘシ

第八十八條 軍隊旅行演習旅行演習地也陣營移轉其ノ他病馬ヲ他ニ依託シ治療セシムル間ニ於
ケル馬糧ハ第七十六條ニ依リ各部各隊ノ馬匹費ニ組入ルヘシ

第七章 消耗品

第八十九條 本令第四十九條ノ消耗品料ハ一箇月ニ滿タサルトキハ週日ノ度數ニ依リ週日ニ滿タ
サルトキハ一週日ノ額ニ依ル

第九十條 本令第五十條ノ消耗品料ハ一箇月ニ滿タサル端日數ト雖月額ニ依ル但シ海外等ニ一
時派遣ニ係ルトキ一箇月ニ滿タサル端日數ハ日割ヲ以テ交付ス

第九十一條 將校、下士兵卒及士官候補生等定員外附屬スル者ノ消耗品料ハ該隊定額ノ内ヨリ支辨スベシ但シ第九十條ノ場合ニ在テハ此限ニアラス

第八章 陣營具

第九十二條 本令第五十五條ノ陣營具永續料ハ一箇月ニ滿タサルトキハ週日ノ度數ニ依リ週日ニ滿テサルトキハ一週日ノ額ニ依ル

第九十三條 本令第五十六條ノ陣營具永續料ハ一箇月ニ滿タサル端日數ト雖月額ニ依ル但シ海外等ニ一時派遣ニ係ルトキ一箇月ニ滿タサル端日數ハ日割ヲ以テ交付ス

第九十四條 煖室器ノ設ケナキ營舎ニ在テハ代用火鉢ヲ備付クヘシ

第九十五條 將校、下士兵卒及士官候補生等定員外附屬スル者ノ陣營具ハ豫備品等ヲ以テ應用スベシ但シ第九十三條ノ場合ニ在テハ此限ニアラス

第九章 雜則

第九十六條 本令第五十八條ノ埋葬料ハ經營部ニ於テ之ヲ仕拂フモノトス

第九十七條 埋葬料ハ親族ノ願ニ依リ死體ヲ引渡ストキハ之ヲ親族ニ下付スヘシ但シ棺柩及覆布等ノ諸入費ハ其ノ埋葬料ノ内ヨリ支辨セシム

第九十八條 埋葬料ハ各隊等ニ於テ埋葬諸費ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ親族ニ下付スヘシ其ノ遞送費ハ殘餘金ノ内ヨリ仕拂フモノトス

第九十九條 營内居住ノ下士以下現役ヲ離レ若ハ生徒ヲ免シ又ハ豫備役、後備役下士兵卒並補充兵召集解散ノ際傷病疾病ニ依リ入院中ニシテ歸郷セシメ難キ者死亡スルトキハ本令第二十八條ノ金額ヲ標準トシ實費ヲ病院ニ於テ仕拂フヘシ未治中退院歸郷ノ者途中ニ於テ其ノ症ニ起因シ

死亡セシ者亦同シ但シ死體ノ引受人アルトキハ此限ニアラス
第一百條 營内居住ノ下士以下歸省中死亡ノ者埋葬料ハ其ノ本籍府縣ノ郡市(區)役所ニ送付シテ親族ニ下付セシム

第一百一條 逃亡ノ者死亡ノトキハ埋葬料ヲ給セスト雖捕縛護送中死亡ノ者ニ在テハ本令第二十八條ノ金額ヲ自送トシ其ノ實費ヲ經營部ニ於テ仕拂フヘシ

○陸軍第五十一號

屯田兵給與令細則左ノ通改正ス

明治三十二年六月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

屯田兵給與令細則 第一章 總則

第一條 陸軍軍隊ノ糧食、被服、消耗品、陣營具及馬匹ニ係ル給與ハ其ノ定額ヲ各隊ニ付シ隊長ニ經理ヲ委任ス

委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各其ノ費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スヘシ

委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞、遺失等ノ補償金ハ各其ノ經理費ニ充ツヘシ

第二條 本令ニ於テ毎月下旬ニ給與スヘキモノハ毎月二十五日トス
前項ノ支給日休日ニ當リタルトキハ順次繰上ケ支給シ免官、免役、死亡其ノ他事故アルトキハ其ノ際ニ支給ス

仕拂命令ハ其ノ支給定日前五日以内ニ於テ之ヲ發シ又隔地送金ニ係ルモノハ支給定日ニ到着スル日積ヲ以テ發スヘシ

仕拂命令ヲ發シ若ハ支給後轉職等アルトキハ甲乙各應支出科目ノ款項ヲ異ニセサルモノニ限り
甲廳ハ其ノ儘支給シ乙廳ハ翌月ヨリ支給ス其ノ増減アルトキハ乙廳ニテ追給若ハ差繼支給スル
コトヲ得但シ年度ヲ異ニスルトキハ差繼支給ノ限ニアラス

第二章 俸給

第三條 扶助年限滿期ノ下士兵卒勤務ニ服シタルトキハ日數ハ六時間未滿ニ應シ給料ヲ給ス但シ
守衛勤務、營倉番兵及日直等ハ勤務翌日ニ涉ルモ一日分ノ外給セズ

第四條 左ノ各地所在ノ各隊附ニハ本令第四條ニ依リ隊附特別加俸ヲ給ス
一天鹽國ノ兵村設置 甲額

第五條 本令第七條ノ召集者給料ハ部隊編入當日ヨリ解散前日マテ給シ部隊ニ編入セサル者ハ到

著當日ヨリ解散當日マテ給ス但シ守衛勤務、營倉番兵及日直等ノ勤務翌日ニ涉ルモ一日分ノ外
給セズ

第六條 召集六時間未滿及兵村内ニ於テ演習ノ際天候其ノ他ノ事故ニ依リ演習ヲ施行セサルトキ
其ノ兵村内居住ノ者ニハ給料ヲ給セズ

第七條 死亡者ノ給料ハ其ノ當日マテ給ス

第八條 陸軍給與令細則第九條第十條第一項第十六條第二十二條第二十四條乃至第二十九條及第

三十二條乃至第三十四條ハ本章ニ適用ス但シ營外居住者ニ係ルモノハ外宿加俸ヲ受クル者ニ適
用ス

第三章 宅料

第九條 陸軍給與令細則第三十五條乃至第四十條ハ本章ニ適用ス

第四章 糧食

第十條 本令第十一條及第十三條ノ食料ハ現食數ニ應シ定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ但シ時
宜ニ依リ定額ヲ本人ニ給スルコトヲ得

第十一條 本令第十一條第四ニ該ル者ニシテ一日六時間未滿召集ノ者及兵村内ニ於テ演習ノ際天
候其ノ他ノ事故ノ爲演習ヲ施行スルコト能ハサルトキ其ノ兵村内居住者ニ限り食料ヲ給セズ

第十二條 本令第二表ノ糧食ハ現食數ニ應スル定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ
本令第二表ノ食料ハ左ノ區別ニ依ル

一 夜間作業及夜中行軍各四時間以上ニ及フトキ並演習中露營ノトキハ其ノ人員ニ應スル定額
ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ

二 不寢番ヲ爲ス者ニ在テハ定額ヲ本人ニ支給スヘシ

第五章 被服

第十三條 本令第十四條ノ給與區別ハ左ノ如シ

一 特務曹長初度現品ノ給與ヲ受ケ從前給與品中不用ニ屬スルモノハ還納セシム又被服代金ハ
其ノ月ヨリ給ス但シ任官以前被服代金ノ給與ヲ受ケタル者ニ在テハ翌月ヨリ之ヲ給ス

二 外宿加俸ヲ受クル下士ノ給與ニ關スル規定ハ陸軍給與令細則中被服代金ヲ受クル者ノ條項
ヲ適用ス

三 被服保續料ハ召集日數召集當日ヨリ解散前日マテニ對スル定額ヲ該隊ニ交付シ貯藏品ヲ以テ所要ノ被
服ヲ應用セシム

第十四條 下士上等兵日勤ノ職務ヲ命セラレタル爲加給ノ被服ハ其ノ職務ヲ離レ又ハ死亡シタルトキハ之ヲ還納セシム

第十五條 下士兵卒被服ノ所持定數及其ノ保管ノ方法ハ師團長之ヲ定ムヘシ

第十六條 下士兵卒服役中死亡若ハ事故ニ依リ免役ノトキ其ノ兵役ノ殘期ヲ相續シタル者ノ被服ハ前服役者ノ被服ヲ應用セシム

下士ノ殘期ヲ相續シタル兵卒ノ被服ハ改修或ハ換給ス其ノ員數ハ本令第四表ニ依ル但シ相續者ナキトキハ悉皆還納セシム

第十七條 下士兵卒後備役ニ入ルトキハ其ノ所持ノ被服悉皆還納セシム

第十八條 被服補修料及被服永續料ノ定額ハ一箇月ニ滿テサルモ月額ヲ交付ス

第十九條 陸軍給與令細則第五十八條第六十一條乃至第六十五條第六十八條ハ本章ニ適用ス

第六章 馬匹

第二十條 飼養料ハ牽入當日ヨリ手放前日マテ之ヲ支給ス但シ乘馬本分ノ職ヲ離レタル者及死亡ノ者ニハ其ノ辭令拜受若ハ死亡ノ前日マテ支給ス

第二十一條 自馬飼養手當ハ斥候兵ヲ命セラレタル當日ヨリ現役滿期ノ當日マテ支給ス但シ現役免除ノ者若ハ斥候兵ヲ止メタル者及死亡ノ者ニハ其ノ免除停止及死亡ノ前日マテ支給ス

第二十二條 飼養料及自馬飼養手當ノ日割計算法ハ其ノ支給スベキ日數ニ定額ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止ムヘシ

第二十三條 馬糧ハ現飼數ニ應ズル定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ其ノ端飼數計算法ハ陸軍給與令細則第七十六條ニ同シ

馬糧ハ時宜ニ依リ代用品ヲ給スルコトヲ得
此ノ場合ニ在テハ馬糧ノ定量ニ對スル時價ヲ標準トシ實費ヲ仕拂フヘシ
第二十四條 本令第十九條第五項ノ場合ニ於テ一日六時間未滿召集ノ者又ハ兵村内ニ於テ演習ノ際天候其ノ他事故ノ爲演習ヲ施行スル能ハサルトキ其ノ兵村内居住者ニ限リ馬糧ヲ支給セス
第二十五條 馬匹ノ裝蹄ハ毎月四蹄一回ト定メ現馬數_{定馬數}ニ依リ本令第七表ノ定額ヲ該隊ニ交付ス
第二十六條 本令第二十三條第一項及同第二項ノ馬藥料ハ馬數ノ十分ノ一_{端數ヲ生スルトキハ切上ケ}ニ對スル定額ヲ支給シ又病馬ヲ他ニ依託シタルトキハ其ノ治療費ハ定額馬藥料ヨリ支給スヘシ

第七章 消耗品及陣營具
第二十七條 本令第八表及第十表ノ定額ハ端日數ト雖月額ヲ交付ス
第二十八條 本令第二十五條ノ燧爐焚方期限ハ附表ニ依ルヘシト雖其ノ定額以内ヲ以テ期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第八章 雜則
第二十九條 本令第二十七條ノ勤務手當ハ毎月二十五日_{休日ニ當ルトキハ順次繰上ケ}之ヲ給ス但シ死亡其ノ他ノ事故アルトキハ其ノ際ニ給ス
第三十條 勤務手當ハ月額ヲ以テ給スト雖傷疾疾病禁錮拘留收禁留置等ニ依リ缺勤ノ者ハ日割ヲ以テ其ノ日數問之ヲ給セス但シ日割計算ノ法ハ俸給ニ同シ
第三十一條 本令第二十八條ノ埋葬料ハ其ノ親族ニ下付シ埋葬一切ノ費用ニ充テシム

行軍演習途中若ハ召集中死亡シ親族ニ於テ埋葬スルヲ得サル場合ニ在テハ官ニ於テ埋葬シ定額

ニ殘餘アルトキハ親族ニ之ヲ下付ス
豫備役後備役下士卒召集解散ノ際疾病ノ爲入病院中死亡スル者ハ定額ヲ標準トシ實費ヲ仕拂
フベシ

焚方期限	至	四月三十日	從	五月十一日
	至	五月十五日	從	五月十五日
地方	空	川(石狩)	知	呂
	雨	川(天鹽)	別	

○陸軍第五十二號

陸軍軍人軍屬出張取扱規則左ノ通改正ス

明治三十二年六月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍軍人軍屬出張取扱規則

- 第一條 軍人軍屬内地ニ於テ出張ヲ要スルコトアルトキハ時ニ規定アルモノ、外總テ本規則ニ依リ取扱フモノトス
- 第二條 軍隊ニ服務スル者ノ出張ハ師團長、臺灣守備混成旅團長、警備隊司令官、憲兵司令官、憲兵隊長之ヲ命ス
- 第三條 陸軍省、參謀本部、東京防禦總督部、都督部ニ服務スル者及陸軍大臣並參謀總長ニ直屬ノ官衙ニ服務スル者ノ出張ハ各其ノ長官之ヲ命ス
- 前項外ノ官衙ニ服務スル者ノ出張ハ該官衙所屬ノ長官之ヲ命シ又ハ所屬長官ノ認可ヲ得テ其ノ長官之ヲ命ス

但要塞司令部及築城部支那要塞所在地兵器支廠ニ服務スル者其ノ所轄要塞内ノ出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス

第四條 學校ニ服務スル者ノ出張ハ該學校所屬ノ長官之ヲ命シ又ハ所屬長官ノ認可ヲ得テ校團長之ヲ命ス

但學生及生徒教育ノ爲メ之ヲ引率シ若クハ之ト共ニスル出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス

第五條 第二條及第三條第一項ノ長官ニシテ所轄區域ヲ有スル者其ノ區域外ニ出張ヲ命スルノ要アルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ請フベシ

但師團長其隣接師管内ニ出張ヲ命スルトキハ認可ヲ請フヲ要セス又近衛師團長ハ第一師團長ニ準ス以下同シ

第六條 第二條及第三條第一項長官ノ内東京防禦總督、都督、師團長ハ陸軍大臣其他ノ者ハ各所屬長官ノ認可ヲ請フベシ

但師團長ハ其師管内及隣接師管内ニ限り又東京防禦總督、都督、臺灣守備混成旅團長、警備隊司令官及憲兵隊長ハ其所轄區域内ニ限り三週日以内ノ出張ハ認可ヲ受クルヲ要セス其ノ出發及歸著ヲ陸軍報告例ニ依リ報告スベシ

第七條 臺灣總督ニ隸屬スル軍隊官衙ニ服務スル者ヲ總督ノ管轄區域外ニ出張セシムルヲ要スル時ハ總督之ヲ命シ又ハ總督ノ認可ヲ得テ其長官之ヲ命ス

第八條 事變ニ際シ事急ニシテ本規則ニ依ル能ハサルトキハ便宜決行ノ後報告スルコトヲ得

○陸軍第五十三號
三十年式乘馬具輓具ノ制式別紙圖面ノ通定メ三十二年陸軍第百二十一號附表第三表三十年式乘馬

具ノ細目名稱中輓具ノ區畫ヲ左ノ通改正ス (別紙及改正略ス)

明治三十二年六月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第五十四號

基隆及澎湖島兵器支廠並築城部基隆支部同澎湖島支部ヲ明治三十二年七月一日ヨリ開廳ス

明治三十二年六月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第五十五號

今般勅令第二百四十五號ヲ以テ陸軍監獄看守長及看守服制中改正相成候處右ハ明治三十四年三月盡日マテニ漸ヲ以テ改正スル義ト心得ヘシ

明治三十二年六月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第五十六號

明治二十六年陸達第六百六號陸軍監獄看守長及看守服裝規則中左ノ通改正ス

但未タ改正刀ヲ佩ヒサル者ハ其佩用方從前ノ通ト心得ヘシ

明治三十二年六月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條末項刀緒ノ下(看守長ニ限ル)ヲ削ル

第六條ニ左ノ第二項ヲ加フ

雨覆ハ外套ノ上ニ著用スルモノトス但時宜ニ依リ雨覆ノミヲ著用スルコトヲ得

第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 刀ハ衣ノ下ニ佩用シ外套著用ノトキハ其ノ上ニ佩用ス

〔參照〕

陸達第六百六號陸軍監獄看守長及看守服裝規則(明治二十六年十一月四日)抄錄
第八條 刀ハ衣若クハ外套ノ上ニ刀帶ヲ締テ之ヲ佩用ス

○陸達第五十七號

陸軍砲臺監守採用候條陸軍補充條例第四章第六款ニ依リ人名取調來ル七月二十日迄ニ申出ツヘシ

明治三十二年六月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第五十八號

明治二十九年陸達第六十二號臨時陸軍建築部支部事務官以下定員別表ノ通改正ス

明治三十二年六月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別表)

臨時陸軍建築部支部事務官以下定員表

位置	階級	東		京		弘		前		名		古		屋	
		技	事	記	手	記	手	記	手	記	手	記	手	記	手
尉官若クハ相當官	下士並ニ判任文官														
	計	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

備考	大 事 務		廣 務		島 務		熊 務		本 務		合 計	
	技 官	手 官	技 官	手 官	技 官	手 官	技 官	手 官	技 官	手 官	技 官	手 官
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
計	七九	九三	一〇	一三	一五	一三	一五	一三	一五	一三	一五	一三
備考	七九	九三	一〇	一三	一五	一三	一五	一三	一五	一三	一五	一三

○陸軍第五十九號

明治三十一年度以後ニ係ル軍隊官衙學校其他ニ於ケル委任經理ニ屬セサル物品中左ノ諸品ヲ除クノ外計算ノ検査及責任解除ヲ會計検査院法第十六條ニ依リ會計検査院ヨリ委託セラレタリ依テ更ニ之ヲ各師團監督部及臺灣陸軍監督部 監督部事務管轄區域外ノニ委託ス

明治三十二年六月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 作業物品及臺北砲兵工廠物品
- 二 被服廠及補給廠被服品
- 三 糧餉部、補給廠及軍馬補充部糧秣
- 四 糧秣廠及兵器廠製作物及製作物原料

- 五 衛生材料廠、衛戍病院及補給廠、藥物及治療用器具器械消耗品
- 六 築城部、經營部及補給廠建築及營造用材料
- 七 補給廠陸海運輸及輕便鐵道用器具器械
- 八 第七師團監督部保管豫備米
- 九 東京砲兵工廠保管豫備材料

○陸軍第六十號
今般會計検査院法第十六條ニ依リ當省へ委託セラレタル軍隊官衙學校其他ニ於ケル物品出納計算ノ検査及責任解除ノ件左ノ通り會計検査院ニ於テ定メラレタリ依テ三十一年度以降右ニ據リ執行スヘキ義ト心得ヘン

明治三十二年六月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 委託検査ニ係ル責任解除及検査成績報告順序
- 第一條 検査ノ成績ハ年度經過後一箇年以内ニ之レヲ會計検査院ニ報告スヘシ若シ其期限ニ至リ検査未済ノモノアルトキハ其事由ヲ報告シ検査終了ニ隨ヒ其成績ヲ報告スヘシ
- 第二條 検査成績報告書ニハ物品所屬部局名物品會計官吏官氏名其出納管理期及責任解除ノ年月日ヲ明記スヘシ
- 第三條 物品會計官吏ハ物品出納簿ヲ以テ計算書ニ充テ證明スルコトヲ得
- 第四條 前條ノ證明ニ對シ検査ヲ執行シタルトキハ物品出納簿ノ末尾ニ検査済ノ旨ヲ記入シ捺印スヘシ
- 第五條 検査ノ上其計算ヲ正當ナリトナストキハ物品會計官吏ニ對シ認可狀ヲ交付ス

○陸達第六十一號

今般會計検査院法第十六條ニ據リ當省ヘ委託セラレタル軍隊官衙學校其他ニ於ケル物品出納計算及證明手續左ノ通定ス

明治三十二年六月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

軍隊官衙學校其他ニ於ケル物品出納計算ノ検査及證明手續

- 第一條 會計法第二十六條會計規則第八十八條、第八十九條、第一百條物品會計規則第九條、第十五條ノ第二項、第十六條及第十八條ノ場合ニ於テ本屬大臣又ハ各省大臣トアル事項ハ各隊長又ハ各官廳長、會計検査院トアルハ當該監督部監督部事務管轄區域外ハ之レヲ執行スヘシ
- 第二條 物品會計官吏ハ監督部長ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度執行シタル物品ノ會計決算ヲ爲シ年度經過後二箇月以内ニ證明ノ手續ヲナスヘシ
- 第三條 検査證明ニ供スヘキ書類ハ物品出納簿及證明書トス
- 第四條 物品會計官吏物品出納簿ヲ計算書ニ充テ證明セントスルトキハ簿末尾ニ出納計算ノ確實ヲ保證シ署名捺印スヘシ
- 前項ニ據リ證明セントスルトキハ検査委託以外ノ物品出納ヲ混淆記入スヘカラス
- 第五條 物品會計官吏交代ノトキ若クハ代理官ヲ命セラレタルトキ一箇年ヲ通スル物品出納簿ヲ以テ證明セントスルトキハ各其管理期ヲ明ニシ前條ノ手續ヲナスヘシ
- 第六條 監督部長ハ検査ヲ遂ケ其計算ヲ正當ナリト認ムルトキハ認可狀ヲ交付スヘシ又検査上摘發シタル事項中後證ヲ要スヘキモノハ審理書ヲ發シ事實明瞭ニ歸スルモノハ更正セシメ事態ニ依リ判決書ヲ發スヘキモノト認ムルトキハ更ニ審理書ヲ發スヘシ其審理書ノ應答ハ當該長ヲ經

由スルモノトス

- 第七條 前條審理ノ末事實明瞭ニ歸シタルモノ又ハ正誤セシモノニ對シテハ認可狀ヲ交付シ事實正當ナラスト認定シタルトキハ判決書ヲ發スヘシ其判決書ハ當該長ヲ經由シ交付スルモノトス
- 第八條 監督部長ハ前條ノ判決書ヲ發スルト共ニ所管長官ニ其處分ヲ要求スヘシ
- 第九條 監督部長検査ヲ完了シタルトキハ會計検査院ニ其成績ヲ報告シ又物品會計官吏ニ認可狀若クハ判決書ヲ交付シタルトキハ其原本ヲ以テ大藏大臣ニ申報スヘシ
- 第十條 各隊長若クハ各官廳長ニ於テ會計規則第八十八條ノ事項ヲ執行セントキハ隊長若クハ官廳長ハ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告シ又監督部長ニ通報スヘシ
- 第十一條 前各條ニ掲載セサルモノハ他ニ定ムル所ノ法規ニ準據スヘシ
- 陸達第六十二號

陸軍蹄鐵術教範別冊ノ通定ス (別冊略ス)

但明治二十七年陸達第八號陸軍蹄鐵術教範第一部及陸軍蹄鐵術教範附錄ハ廢止ス

明治三十二年六月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第六十三號

明治二十六年十一月陸達第七號陸軍監獄看守及陸軍傭人被服給與規則中左ノ通改正ス

明治三十二年六月二十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

附表第一表中看守ノ區畫甲額「拾八圓六拾九錢」ヲ「參拾壹圓」ニ乙額「五圓六拾壹錢」ヲ「九圓九拾錢」ニ改ム

附表第二表外套ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

雨 笠

一箇

○海軍省達第百六號

海軍下士卒履歷表別紙ノ通改正ス

舊履歷表ハ其ノ貯藏アル間ハ之ヲ併セ用ユルコトヲ得但シ本年以後入團スル新兵ニハ新定ノモノヲ携帶セシムヘシ

別紙ハ之ヲ要スル向ヘ配付ス (別紙略ス)

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百六號ノ二

明治三十二年達第六十號ヲ廢ス

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十二年三月三日海軍省達第六十號ハ下士卒履歷表取扱方ノ件ナリ

○海軍省達第百七號

海軍上長官士官任用進級取扱規則中左ノ通追加ス

明治三十二年五月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

第一條第三項及第二條第四項軍醫學校ノ次ニ「主計官練習所」ノ六字ヲ追加ス

〔參照〕

海軍省達第九十六號海軍上長官士官任用進級取扱規則(明治三十年九月十七日)抄錄

第一條 准士官ヨリ兵曹長同相當官ニ任用スヘキ者及少尉同相當官ヨリ中尉同相當官ニ中尉同相當官ヨリ大尉同相當官ニ進級セシムヘキ者ハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ

三海軍省軍令部、技術會議、臨時建築部、東京造兵廠、水陸部、大學校、兵學校、機關學校、軍醫學校及侍從武官東宮武官、元帥副官ニ在テハ第二條ニ準據シ拔擢名簿及候補名簿ヲ編製シ進達又ハ移轉スルモノトス

第二條 大尉同相當官ヨリ少佐同相當官ニ少佐同相當官ヨリ中佐同相當官ニ中佐同相當官ヨリ大佐同相當官ニ進級セシムヘキ者ハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ

四大學校、技術會議、兵學校、東京造兵廠、水陸部、機關學校、軍醫學校ニ在テハ各其ノ長ハ部下大尉少佐中佐同相當官中進級セシムルニ適當ナル者ヲ拔擢シ拔擢名簿及候補名簿ヲ編製シ共ニ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第百八號

艦船發着報告例第三條中「所管長官」ノ下ニ「及其本籍鎮守府司令長官」ヲ追加ス

明治三十二年六月三日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第四十九號艦船發着報告例(明治三十二年三月二十二日)抄錄

第三條 艦船外國ノ港灣ニ發着スルトキハ其艦船ヨリ海軍省ニ報告シ海軍省ハ之ヲ其所管長官ニ通知ス(司令官以下ノ官及日付ヨリ)但司令官若クハ司令官モ亦外國ニ在ルトキハ海軍省ニ報告スルト同時ニ其艦船ヨリ直ニ該官ニ報告スヘシ

郵便ヲ以テ本條ノ報告ヲ爲ス場合ニハ第二條ノ例ニ依ル

○海軍省達第百九號

各鎮守府經理部衣糧庫ニ於テ購買スヘキ被服物品糧食品ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 被服物品ハ横須賀鎮守府經理部衣糧庫ニ於テ購買シ各地衣糧庫ヘ供給スヘシ
- 二 糧食品ハ各地衣糧庫ニ於テ調辦スヘシ但乾麵包及貯藏獸魚肉ハ毎年度經理局長ノ定ムル處

ニ依ル

明治二十七年達第四十一號ハ本達施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十二年六月三日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

海軍省達第四十一號(明治二十七年三月二十九日)

明治二十七年度ヨリ被服品及糧食品中乾麵包餅乾糖油イロドビーフ、ローストビーフ、コンビーフ、罐詰鮭魚ハ鎮守府監督部條
例第十七條ニ依リ横須賀衣糧庫ヨリ供給シ其他ノ糧食品ハ各地衣糧庫ニ於テ調辨スヘシ

○海軍省達第百十號

海軍准士官下士官志願者取扱内規左ノ通定ム

明治三十二年六月六日

海軍大臣山本權兵衛

海軍准士官下士官志願者取扱内規

- 第一條 海軍准士官及下士官ニシテ其ノ退職、現役満期若ハ免役ノ後明治二十年勅令第六十五號及部内特別任用令ニ依リ文官奉職ヲ志願セント欲スル者ハ其ノ退職、現役満期若ハ免役ノ際履歷書(其ノ習得セル學術ハ可)ヲ添ヘ其ノ官所屬長ヲ經テ所管長官ニ届出ツヘシ但シ其官廳ニ限リ奉職セント欲スル者ハ其ノ志願ノ廳名ヲモ届出ツヘシ
- 第二條 所屬長前條ノ届書ヲ受取りタルトキハ之ニ本人ノ學術技能性質等ニ關スル自己ノ所見ヲ加ヘ且ツ其官職ニ適スル見込ナルコトヲ附記シテ所管長官ニ進達スヘシ
- 第三條 志願者ノ氏名ハ部内文官志願者及部外文官志願者ニ區別シ志願ノ順序ニ從テ之ヲ志願者名簿ニ記入スヘシ

第四條 部内文官ニ缺員アリテ退職、現役満期若ハ免役ノ准士官及下士官ヲ採用スル場合ニ於テハ可成志願者名簿ニ依リ撰拔スヘシ

部外文官志願者ニ付テハ特ニ其ノ志願ノ官廳ニ紹介スルコトアルヘシ

第五條 志願者名簿ニ依リ部内文官ニ採用セントスルトキハ其ノ本人ヲシテ書式ニ從ヒ志願書ヲ差出サシム

第六條 海軍服役以來ノ經歷ニシテ文官試験規則第四條ニ抵觸スル者ハ文官奉職ヲ志願スルコトヲ得ス

第七條 第一條ノ届書ヲ出サ、ル者ニシテ部内文官ニ奉職セントスル者ノ志願書モ亦同書式ニ依リ

第八條 志願者ニシテ部外文官ニ任用セラレタルトキハ速ニ其ノ奉職スル廳名及其ノ官等ヲ海軍省ニ届出ツヘシ

其ノ轉任若ハ罷免セラレタルトキ亦同シ

書式(用紙美濃添)

志願書

過ル年月日退職(現役満期)相成候ニ付文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書(下士コトアリテハ後備)相添此段奉願候也

所管鎮守府(後備)族籍及現住所

官 姓 名 印 生 年 月 日

海軍大臣宛

(備考) 公務上ノ傷疾疾病ニ依リ現役ヲ退キタル者或ハ免官ノ者ハ尙ホ文官ニ附ヘ得ヘキ事ヲ證明シタル軍醫官ノ診斷書ヲ添フヘシ

下士ノ履歷書ハ徵募官ノ證明ヲ要スルモノトス

○海軍省達第百十一號

海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十二年六月六日

海軍大臣山本權兵衛

第十四條ヲ左ノ通改ム

第十四條 艦團其ノ他各部ノ長ハ現役ヲ離ルヘキ部下下士卒若ハ兵役ヲ免セラレヘキ部下下士卒ヲ海兵團ニ入團セシムルニ際シテハ服役中ノ成績ヲ考査シ其ノ成績良好ノ者ナルトキハ別紙様式ニ依リ服役成績書ニ一通ヲ作り且別ニ其ノ所見ヲ附シ之ヲ海兵團長ニ移スヘシ海兵團長ハ其ノ部下下士卒ノ成績書並ニ所見ト共ニ其ノ一通ヲ地方廳ニ移シ其ノ家族ニ下渡方ヲ依頼シ他ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ場合ニ於テ海軍准士官下士文官志願者取扱内規ニ依リ文官奉職志願ノ旨届出ル者アルトキハ其ノ伎倆文官ノ任務ニ適スト認メタル者ニ限り其ノ志願ノ際ニ於テ別紙様式ニ依リ伎倆證明書ヲ作り之ヲ附與スヘシ

服役成績書様式ノ次ニ左ノ伎倆證明書様式ヲ追加ス

伎倆證明書様式 用紙美濃半葉紙

伎倆證明書

府縣族籍

官位 勳氏 名

右者現役中勤務ノ成績良好ニシテ其ノ伎倆文官ノ任務ニ適スルコトヲ證明ス
年 月 日

〔參照〕

職官位勳爵氏 名印

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録

第十四條 艦團其ノ他各部ノ長ハ部下下士卒現役ヲ退キ若ハ兵役ヲ免セル爲海兵團ニ入團セシムルトキハ服役中ノ成績ニ基キ其ノ一通ヲ地方廳ニ移シ其ノ家族ニ通知方ヲ依頼シ他ノ一通ヲ保存スヘシ

○海軍省達第百十二號

艦船ニ屬セサル常備艦隊ノ經費ハ旗艦ノ主計長ヲ現金前渡官吏トス

旗艦變更シタルトキハ前旗艦ノ主計長保管ノ經費ヲ後旗艦ノ主計長ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ現金前渡官吏交代事務引繼ノ例ヲ適用ス

本達ハ明治三十二年六月十二日ヨリ施行ス

明治三十二年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百十三號

軍事費機動費取扱規程中左ノ如ク改正ス

明治三十二年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 機動費ハ艦隊ニ於テ司令長官旗艦ノ主計長ヲ現金前渡官吏トシ艦隊主計長之カ保管出納ヲ監督ス

第四條中分割交付ノ下「シタル」ヲ「スル」ニ改ム

明治三十二年六月 達 海軍省第百十二號 第百十三號

第七條 艦船主計長ハ機動費ノ前渡ヲ受クルト同時ニ當該艦船經費ノ委任仕拂命令官ニ對シ經費金ノ要求ヲ爲シ該經費金ノ前渡ヲ受ケタルトキハ直ニ機動費委任仕拂命令官ニ對シ機動費ヲ返納スヘシ但經費金要求ノ場合ニ於テハ機動費ヲ該經費ノ前渡金ニ振替納受ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第九條ヲ第十條ニ改ム

第九條 司令長官旗艦變更シタルトキハ前旗艦ノ主計長保管ノ機動費ヲ後旗艦ノ主計長ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ現金前渡官吏交代事務引繼ノ例ヲ適用ス

附則

此ノ規程中ニ艦隊トアルヲ常備艦隊ニ改ム

此ノ規程ハ明治三十二年六月十二日ヨリ施行ス

〔參照〕

海軍省達第百三十九號軍費機動費取扱規程(明治三十年十月十五日)抄錄

第二條 機動費ハ艦隊ニ於テ司令長官署僚ノ秘書ヲ以テ現金前渡官吏トシ艦隊主計長ノカ保管出納ヲ監督ス

第四條 艦隊ノ現金前渡官吏前條ニ據リ保管ノ現金ヲ艦船主計長ニ分割交付シタルトキハ別紙書式ノ通知書ヲ調製シテ現金ノ受授ヲナスヘシ而シテ通知書ニ機動費ノ領收證ヲ徵シ通知書ハ最近便ヲ以テ機動費ノ委任仕拂命令官ヘ發送スヘシ

機動費委任仕拂命令官前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ對シ受授シタル現金保管者ノ更訂ヲナスヘシ

第七條 艦船主計長ニ於テ受入シタル機動費ハ經費金ノ前渡ヲ受ケタルトキ機動費委任仕拂命令官ニ對シ直ニ返納スヘシ但經費金ノ要求ヲナス場合ニハ該經費ノ前渡金ニ振替納受ノ手續ヲナスヘシ

○海軍省達第百十四號

艦隊部隊金錢出納規程第十九條中「ヲ云フ」ノ下「艦船ニ屬セサル」以下ヲ刪除シ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十二年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

軍事費機動費ノ保管出納ニ關シテハ常備艦隊主計長所轄長ノ職務ヲ行フヘシ

〔參照〕

海軍省達第百三十三號艦隊部隊金錢出納規程(明治二十七年三月十五日)抄錄

第十九條 此ノ規程中所轄長トハ要港部司令官、軍艦長、海兵團長及水雷團長(水雷敷設隊附主計長ヲ指シ現金前渡)ヲ云フ

艦船ニ屬セサル艦隊ノ經費ニ關シテハ司令長官署僚ニ在テハ艦隊主計長、司令官署僚ニ在テハ其ノ先任將校所轄長ノ職務ヲ行フヘシ

○海軍省達第百十五號

鎮守府處務細則別表軍港部附ノ欄中左ノ通改正ス

本達ハ明治三十二年六月十二日ヨリ施行ス

明治三十二年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

吳鎮守府ノ部一等兵曹及二等兵曹各「三」ヲ各「四」ニ改メ一等水兵「四十五」ヲ「五十一」ニ改ム

二等兵曹ノ次ニ左ノ通追加ス

一等水兵ノ次ニ左ノ通追加ス

三等 信 號 兵 曹	一	一
一等 信 號 兵	一	一
二等 信 號 兵	二	二
三等 信 號 兵	二	二

○海軍省達第百十六號

海軍省處務細則左ノ通改ム

明治三十二年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

海軍省處務細則

第一章 總則

- 第一條 局長ハ大臣ニ課長ハ所屬局長ニ對シ各管掌ノ事務ニ就キ其ノ責ニ任ス
- 第二條 局長課長ハ各主任ノ事務ニ就キ法規ノ疑義質問ニ對シテハ之カ解釋ヲ與フルモノトス
- 第三條 尋常定例ノ省務ニ關スル通牒ハ次官ノ名ヲ以テシ其ノ輕易ノ事件ハ先任副官ノ名ヲ以テスルコトヲ得
- 第四條 局長ハ主任事務ニ就キ各局部長ト合議ノ必要アルトキハ大臣ニ請求シテ會議ヲ開キ尙ホ必要アルトキハ課長ヲ列席セシムルコトヲ得
- 第五條 局長又ハ課長不在ノ爲メ代理ヲ要スルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ其ノ代理ヲ命スルモノトス
- 局長ハ一時ノ病氣又ハ事故不在ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス課長ニ委任シテ便宜常務ヲ處辨セシムルコトヲ得課長亦此例ニ依ル
- 第六條 局長ハ管掌ノ事務整理ノ爲メ局内ノ服務規程ヲ定ムルコトヲ得
- 第七條 局長ハ所屬判任官ノ分課ヲ定メ人事課長ニ報告スヘシ
- 第八條 大臣官房中副官ノ公務ヲ取扱フ所ヲ副官部ト稱ス
- 第九條 各局課分掌事項中ニ明記セサル事件アルトキハ其ノ事ニ關係ヲ有スルコト最モ多キ局課ノ管掌事項トシテ該局課ノ掌理ニ附シ各局課ニ全ク關係ヲ有セサル事件ハ副官部ニ於テ掌理スルモノトス
- 第十條 本則ニ於テ各局課ノ爲ニ規定シタル條項ハ司法部及人事課ニ、各局長ノ爲ニ規定シタル

條項ハ司法部長及人事課長ニ準用ス

第十一條 本省ノ當直トシテ判任官一人ヲシテ順次宿直セシム

第十二條 宿直ハ開廳時間外ニ於ケル事務ノ取扱ヲ爲シ省内取締ノ責ニ任ス

第二章 事務分課

- 第十三條 副官ハ大臣次官ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ掌ル尙ホ先任副官ハ副官部ノ事務ヲ總理ス
 - 一 公文書類ノ接受及發送ニ關スルコト
 - 二 成案文書ノ審査及公文ノ起案淨書ニ關スルコト
 - 三 決裁ヲ要スル書類ノ取扱ニ關スルコト
 - 四 諸報告ノ取扱、記録、翻譯、編纂及公文書類ノ保存ニ關スルコト
 - 五 省内ニ於ケル印刷、官報部及新聞社ニ關スルコト
 - 六 統計及年報ニ關スルコト
 - 七 將官會議ニ關スルコト
 - 八 接待ニ關スルコト
 - 九 靖國神社ニ關スルコト
 - 十 公使館附外國武官及海軍雇傭外ノ外國人ニ關スルコト
 - 十一 本省内電信取扱所、守衛、傭人ノ管理、省内ノ風紀取締及保安ニ關スルコト
 - 十二 本省宿直ニ關スルコト
 - 十三 各局部課ノ所掌ニ屬セサルコト
- 第十四條 秘書官ヲ兼ヌル副官ハ本務分掌ノ外大臣ニ屬シテ機密文書ノ取扱及祕密事務ニ服シ且

- 大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス其ノ他人事ヲ除クノ外上裁又ハ機密ニ關スル差使往復ヲ掌ル
- 第十五條 大臣官房附兼務ヲ命セラレタル將校、同相當官ハ副官部ニ在テ副官所掌ノ事務ニ服シ又大臣次官ノ命ヲ承ケテ特ニ指示セラレタル事項ノ調査ニ從事ス
- 第十六條 參事官ハ大臣官房ニ在テ大臣次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具申シ及法規ノ審査ヲ掌ル
- 第十七條 編修ハ大臣官房ニ在テ翻譯編纂ノ事務ニ服ス又命ヲ承ケ局課ニ兼勤ス
- 第十八條 人事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 高等武官、候補生、准士官及文官ノ進退、任免、補職、命課、增俸、分限其ノ他ノ人事ニ關スルコト
 - 二 豫備役後備役退役高等武官、准士官及休職文官ノ人事ニ關スルコト
 - 三 軍人軍屬ノ敘位、敘勳、記章、褒章及賞與ニ關スルコト
 - 四 高等武官、候補生、准士官、文官ノ名簿、職員錄停年名簿履歷簿ニ關スルコト
 - 五 高等武官、候補生、准士官ノ考課表、勤務報告ニ關スルコト
 - 六 武文官ノ人事ニ關スル上奏書、親裁書及諸辭令書褒狀ノ取扱及辭令通報ニ關スルコト
 - 七 進級會議ニ關スルコト
 - 八 拜謁、參賀、參拜、御陪食、陪宴及之ニ等シキ儀式祭典ニ關スルコト
 - 九 外國旅行券ニ關スルコト
 - 十 軍人軍屬ノ恩給、遺族扶助、退官賜金ニ關スルコト
 - 十一 囑託者ノ身分取扱ニ關スルコト
 - 十二 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第十九條 軍務局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

軍事課

- 一 鎮守府艦隊、軍艦其ノ他各部ノ建制及其ノ勤務ニ關スルコト
- 二 軍艦、水雷艇、運送船、通信船、工作船及病院船ノ本籍及所屬ニ關スルコト
- 三 艦隊、軍隊ノ編制、進退、役務ニ關スルコト
- 四 武文官ノ定員ニ關スルコト
- 五 演習檢閲ニ關スルコト
- 六 將校及水路官ノ補充ニ關スルコト
- 七 將校、將校生徒、准士官下士卒^{上等機關兵曹以下ヲ除ク}ノ教育訓練ニ關スルコト
- 八 大學校、兵學校、砲術練習所、水雷術練習所ニ關スルコト
- 九 將校ノ教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
- 十 將校ノ外國派遣及留學ニ關スルコト
- 十一 下士卒ノ任用進級及考課表ニ關スルコト
- 十二 兵員ノ徵募補充及服役ニ關スルコト
- 十三 召集令ニ關スルコト
- 十四 軍紀風紀ニ關スルコト
- 十五 戒嚴及徵發ニ關スルコト
- 十六 儀式禮式ニ關スルコト
- 十七 服制服裝ニ關スルコト

- 十八 旗章ニ關スルコト
- 十九 徽章ニ關スルコト
- 二十 海上保安及水路ニ關スルコト
- 二十一 望樓及氣象ニ關スルコト
- 二十二 運輸通信ニ關スルコト
- 二十三 測器ノ品種、海圖ノ數額ヲ定メ及其ノ配備供給ニ關スルコト
- 二十四 測器庫ノ構造、設置、存廢ニ關スルコト
- 二十五 各科ノ教育補充ノ整一ニ關スルコト
- 二十六 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

機關課

- 一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト
- 二 機關官以下ノ教育訓練及機關官ノ補充ニ關スルコト
- 三 機關學校及機關術練習所ニ關スルコト
- 四 機關官ノ教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
- 五 機關官ノ外國派遣及留學ニ關スルコト
- 六 機關ノ改造修理等ノ調査ニ關スルコト
- 七 機關ノ使用保存ニ關スルコト
- 八 機關構造ノ適否及其ノ改良ニ關スルコト
- 九 艦營需品ノ品種數額ヲ定メ及其ノ配備供給並經理ニ關スルコト

- 十 艦營需品ニ係ル原簿等ヲ調製スルコト
- 十一 艦營需品庫、各地炭庫ノ構造、設置、存廢ニ關スルコト
- 十二 豫備炭山ニ關スルコト
- 十三 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

造船課

- 一 造船官及造船技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
- 二 雜役船運送船、通信船、工作船及病院船除クノ所屬ニ關スルコト
- 三 軍艦及水雷艇ノ大體計畫圖案及製造方法書調製ニ關スルコト
- 四 艦船ノ注文購買及其ノ契約ニ關スルコト
- 五 艦船ノ製造修理ニ關スルコト
- 六 造船部ノ新築、改築、工業用諸機械及其ノ費用ニ關スルコト
- 七 艦船及造船部ノ工場、工業用物品ノ保存、廢棄、賣買ニ關スルコト
- 八 艦船及材料ノ試驗検査ニ關スルコト
- 九 造船監督官、造船監督會計官、造船監督助手、造船監督書記ニ關スルコト
- 十 造船職工ニ關スルコト
- 十一 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

兵器課

- 一 造兵官及造兵技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
- 二 兵器及屬具ノ製造、購買、修理ニ關スルコト

- 十八 旗章ニ關スルコト
- 十九 徽章ニ關スルコト
- 二十 海上保安及水路ニ關スルコト
- 二十一 望樓及氣象ニ關スルコト
- 二十二 運輸通信ニ關スルコト
- 二十三 測器ノ品種、海圖ノ數額ヲ定メ及其ノ配備供給ニ關スルコト
- 二十四 測器庫ノ構造、設置、存廢ニ關スルコト
- 二十五 各科ノ教育補充ノ整一ニ關スルコト
- 二十六 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

機關課

- 一 機關官以下ノ勤務ニ關スルコト
- 二 機關官以下ノ教育訓練及機關官ノ補充ニ關スルコト
- 三 機關學校及機關術練習所ニ關スルコト
- 四 機關官ノ教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
- 五 機關官ノ外國派遣及留學ニ關スルコト
- 六 機關ノ改造修理等ノ調査ニ關スルコト
- 七 機關ノ使用保存ニ關スルコト
- 八 機關構造ノ適否及其ノ改良ニ關スルコト
- 九 艦營需品ノ品種數額ヲ定メ及其ノ配備供給並經理ニ關スルコト

- 十 艦營需品ニ係ル原簿等ヲ調製スルコト
- 十一 艦營需品庫、各地炭庫ノ構造、設置、存廢ニ關スルコト
- 十二 豫備炭山ニ關スルコト
- 十三 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

造船課

- 一 造船官及造船技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
- 二 雜役船運送船、通信船、工作船及病院船ヲ除クノ所屬ニ關スルコト
- 三 軍艦及水雷艇ノ大體計畫圖案及製造方法書調製ニ關スルコト
- 四 艦船ノ注文購買及其ノ契約ニ關スルコト
- 五 艦船ノ製造修理ニ關スルコト
- 六 造船部ノ新築、改築、工業用諸機械及其ノ費用ニ關スルコト
- 七 艦船及造船部ノ工場、工業用物品ノ保存、廢棄、賣買ニ關スルコト
- 八 艦船及材料ノ試験検査ニ關スルコト
- 九 造船監督官、造船監督會計官、造船監督助手、造船監督書記ニ關スルコト
- 十 造船職工ニ關スルコト
- 十一 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

兵器課

- 一 造兵官及造兵技師技手ノ教育及補充ニ關スルコト
- 二 兵器及屬具ノ製造、購買、修理ニ關スルコト

- 三 兵器及屬具ノ配備供給ニ關スルコト
 - 四 艦船ノ兵裝ニ關スルコト
 - 五 兵器簿、兵器明細簿等ヲ調製スルコト
 - 六 造兵廠、兵器工場及兵器庫ノ新築、改築、存廢ニ關スルコト
 - 七 造兵監督官、造兵監督會計官、造兵監督助手、造兵監督書記ニ關スルコト
 - 八 造兵職工ニ關スルコト
 - 九 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十條 醫務局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第一課

- 一 海軍一般ノ醫務衛生ニ關スルコト
- 二 軍人ノ體格ニ關スルコト
- 三 恩給ニ係ル診斷書ノ調査ニ關スルコト
- 四 軍醫官ノ補充ニ關スルコト
- 五 軍醫官ノ外國留學ニ關スルコト
- 六 治療品ニ關スルコト
- 七 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第二課

- 一 艦船、建築、被服、糧食、給水ノ衛生ニ關スルコト
- 二 病院ノ新築、改築ニ關スルコト

- 三 内外國諸港ノ風土及地方病ニ關スルコト
 - 四 外國海軍ノ醫務衛生調査ニ關スルコト
 - 五 軍醫官ノ教育ニ關スルコト
 - 六 海軍衛生學、軍陣醫學ニ關スルコト
 - 七 醫務衛生ノ統計ニ關スルコト
 - 八 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 第二十一條 經理局各課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第一課

- 一 豫算、總豫算及決算報告ニ關スルコト
- 二 仕拂豫算令示ノコト
- 三 豫備金支出ニ關スルコト
- 四 定額繰越、過年度支出、定額戻入ニ關スルコト
- 五 特別會計ニ關スルコト
- 六 收入及仕拂ニ關スルコト
- 七 本省及收入監督官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル收入ノコト
- 八 本省及委任仕拂命令官ヲ置カサル東京所在各廳ニ屬スル經費仕拂ノコト
- 九 機動費ノ出納ニ關スルコト
- 十 收入總報告書ニ關スルコト
- 十一 歳入簿及歳出簿登記保管ノコト

- 十二 金錢ノ會計監督ニ關スルコト
- 十三 出納官吏ノ身元保證金ニ關スルコト
- 十四 主計官ノ教育補充及外國留學ニ關スルコト
- 十五 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第二課

- 一 被服、糧食、俸給、旅費、諸手當、扶助金其ノ他金錢給與（他ノ主管ニ屬スル雇員傭人及職工人夫等ニ係ルモノハ除ク）ニ關スルコト
- 二 被服、糧食ノ出師準備ニ關スルコト
- 三 被服、糧食其ノ他兵備品ノ會計監督ニ關スルコト
- 四 被服物品及糧食品ノ出納實況監査ニ關スルコト
- 五 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト

第二課

- 一 通常物品及其ノ會計監督ニ關スルコト
- 二 物品買賣貸借ニ關スルコト
- 三 本省及省内各廳ノ通常物品取扱ニ關スルコト
- 四 官有財産管理ニ關スルコト
- 五 土地建物ノ取扱ニ關スルコト
- 六 建築工事ノ計畫及施行ニ關スルコト
- 七 建築工事請負ニ關スルコト

- 八 東京所在各廳ノ建築工事ヲ爲スコト
- 九 本省及省内各廳ノ運輸通信取扱及船舶車馬備入ニ關スルコト
- 十 本省及省内各廳ノ用度ニ關スルコト
- 十一 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 二十二條 司法部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 海軍刑法、海軍治罪法、違警罪處分例、刑法、刑事訴訟法及諸罰則ニ關スルコト
- 二 海軍懲罰令、文官懲戒令、海軍監獄則、軍事司法警察及捕獲審檢ニ關スルコト
- 三 軍法會議ノ裁判及海軍檢察ニ關スルコト
- 四 訴訟ニ關スルコト
- 五 主理、録事、監獄官ノ補充及監獄人員ニ關スルコト
- 六 軍法會議、監獄ノ新築、改築ニ關スルコト
- 七 前諸項ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 二十三條 各局課ニ於テ調理スヘキ豫算ノ分掌ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 文書取扱

- 第二十四條 大臣次官又ハ本省ニ宛テ到來スル公文ハ總テ大臣官房副官部ニ於テ接受スルモノトス但シ大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受シ其ノ人事ニ關スルモノハ人事課長ニ於テ接受ス
- 第二十五條 副官ハ前條ニ依リ接受シタル公文ヲ査閲シ各局ノ主務ニ屬スルモノハ指定ノ印ヲ捺シ件名番號ヲ簿冊ニ記入セシメ直ニ之ヲ各局ニ配付スヘシ
- 第二十六條 前條接受シタル公文中重要ナル事件ハ先任副官ヨリ次官ノ査閲ニ供シ處分ノ指揮ヲ

受クヘシ

第二十七條 各課長ハ主務ノ公文ヲ審査シ次官大臣ノ閱覽ニ供スルニ止マルモノハ自己ノ認印ヲ捺シタル後供覽ノ印ヲ捺シ其ノ閣議命令（註）訓令指令等ヲ指シテ照會回答ヲ要スルモノハ各其ノ案ヲ付シ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ副官部ニ送付スヘシ

副官部ノ主務ニ屬スル事項ニ關シテハ前項ノ例ヲ準用ス

第二十八條 閣議命令照會回答案ヲ付シ大臣ノ決裁ヲ受クルニハ所定ノ野紙ヲ用ヒ局長課長及主任課僚若ハ部員之ニ檢印スヘシ但シ關係者ハ主務者ノ次ニ列記スヘシ

第二十九條 他局ニ關係アル文書ハ主務局長課長等捺印ノ後主務局ヨリ關係ノ局ニ送付シ關係局ノ主務課長調査捺印シ局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ副官部ニ送付スヘシ

副官部ノ主務ニシテ他局ニ關係アルモノ亦前項ノ例ニ依ル

第二十條 事ノ數局ニ聯帶スル文書ニシテ主務局ノ審案ニ對シ彼是意見ヲ異ニスルトキハ互ニ面議商量シ尙ホ決セサルトキハ直ニ次官又ハ大臣ニ面陳スヘシ付箋ヲ以テ意見ヲ述フヘカラス

第二十一條 副官部ニ於テハ主務局調査公文ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ次官大臣ノ閱覽ニ供シ文ハ決裁ヲ經テ其ノ文案ニ依リ發付ヲ要スルモノハ直ニ淨書校合シ番號ヲ附シ發付ノ手續ヲ爲スヘシ但シ重要ナル法規案ハ其ノ審査ヲ爲ス爲メ大臣ノ決裁ヲ受クル前參事官ニ交付スルモノトス又計算書類其ノ他文書ニ附屬ノ表圖若ハ別紙別冊アルトキハ主務局ニ於テ淨書校合シ副官部ニ送付スルモノトス

前項閱覽及發付濟ノ書類ニシテ主務局ニ送付ヲ要スルモノハ副官部ヨリ直ニ之ヲ主務局ニ送付スヘシ

人事課ノ主務ニ屬スルモノニシテ本則第十八條第八乃至第十ノ事項及第十二ノ規程其ノ他機密號官房號ヲ附スルモノヲ除クノ外ハ該課ニ於テ淨書發付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 上申伺ニシテ當分又ハ到底詮議ニ及ヒ難キモノハ各局若ハ副官部ニ於テ其ノ理由ヲ附記シ次官大臣ノ査閱ヲ經テ之ヲ差出廳ニ返却スヘシ但シ時宜ニ依リ該書類ハ參考トシテ主務局若ハ副官部ニ留置キ其ノ事由ヲ差出廳ニ通牒スルコトアルヘシ

第三十三條 本則第二條ニ掲グルル事項ニシテ重要ナルモノ又ハ一般ニ涉ルモノハ次官大臣ノ閱覽ニ供スルモノトス

第三十四條 本省公文ハ件名簿ニ登記シ以テ處分ノ終始ヲ明ナラシム

件名簿ハ官房號、機密號及祕人號ノ三種トシ官房號、機密號ハ副官部ニ備ヘ置キ祕人號ハ人事課ニ備ヘ置クモノトス

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名（原）番號アルモノハ等ヲ記入シ各一貫ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附點スヘシ

前項ニ掲グルル件名簿ノ外副官部ニ省令、訓令、告示、達、內令、官房號（印）副配賦ニ係ルモノ及指令通報ノ各件名簿ヲ備フ

第三十五條 前條ニ掲グルル外本省公文ニ對シ各局ニ於テハ別ニ件名簿ヲ置カス只受領發送簿ヲ備ヘ以テ文書ノ出入ヲ明ナラシム

受領發送簿ニハ公文ノ件名番號（原）番號アルモノハ及受領發送月日等ヲ記入スヘシ

第三十六條 左ニ掲グルル公文ハ處分終了後直ニ副官部ニ於テ編纂保存シ其ノ他ハ主務各局ニ於テ保管スヘシ

- 一 上奏案允裁案並親裁書
 - 二 法律勅令案
 - 三 內令省令訓令達告示案
 - 四 官房號摺物案
 - 五 指令通報ニ載セタル指令案
 - 六 將官會議書類
 - 七 統計及年報材料
- 第二十七條 各局ニ於テ保管スル公文中未結了ノモノヲ除クノ外ハ毎年六月ニ於テ必ス其ノ前年分ヲ副官部ニ送致スヘシ副官部ニ於テハ之ヲ査閱シ編纂保存ヲ要スヘキモノハ編纂保存ス
- 第二十八條 各局ニ於テ處務參照ノ爲メ官房記録庫ニ在ル文書ノ閱覽ヲ要スルトキハ庫内ニ於テ之ヲ閱覽スルヲ例トス若シ各局ニ携帶スルヲ要スルモノアルトキハ必ス其ノ日ノ中ニ還付スヘシ
- 海軍省達第百十七號
海軍武官考課表規則別表第二號欄内主事、大臣祕書官ヲ副官ニ改メ備考欄内第十項海軍軍醫學校ノ下ニ及海軍主計官練習所ノ九字ヲ追加ス
明治三十二年六月九日
海軍大臣山本權兵衛
- 海軍省達第百十八號
海軍文官考課表規則別表第二號欄内參事官ヲ參事官ニ主事ヲ大佐副官ニ改メ臺灣總督府海軍幕僚ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加ス
明治三十二年六月九日
海軍大臣山本權兵衛

明治三十二年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

主計官練習所	主	幹	所	長	判	任	官	先	任	監	事
下瀬火藥製造所	主	幹	所	長	判	任	官	主	幹	技	師

○海軍省達第百十九號

海軍看護教科書別冊ノ通改正ス

但別冊ハ之ヲ要スル各廳ニ配布ス (別冊略ス)

明治三十二年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十號

雜役船名ニ船名ヲ付シタルモノ左ノ如シ

明治三十二年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

附屬廳	船種	船名
吳水雷團水雷敷設隊	三百二十噸曳船	那沙美丸
舞鶴 同		第一天橋
門司 同		硯海丸
由良 同		紀淡丸
佐世保水雷團水雷敷設隊		第五震天
同 長崎水雷敷設隊		第六震天
同 馬公水雷敷設隊		第一回天

同 同
 吳軍港部 同
 舞鶴軍港部 同
 竹敷要港部知港事 同
 大湊水雷團水雷敷設隊 同
 同 同
 ○海軍省達第百二十一號
 明治三十年達第百一號歲入歳出取扱規程書式中左ノ如ク改正ス
 明治三十二年六月九日
 海軍大臣山本權兵衛

同	第二回天
同	百五十噸曳船
同	第二吳丸
同	二百五十噸曳船
同	第一舞鶴丸
同	四百噸汽船
同	第一竹敷丸
同	三百二十噸曳船
同	第一大湊
同	第二大湊

○海軍省達第百二十二號
 海軍參謀將校タルモノハ參謀ノ職名參謀長參謀ヲ帶フルモノ若ハ特ニ命令ニ於テ規定アルモノ、外左ノ如ク定メラル

- 一 海軍軍令部長、次長、局長及局員
- 二 海軍省軍務局軍事課長
- 三 各國公使館附海軍將校

明治三十二年六月十三日
 海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十三號
 明治二十八年達第九十八號ヲ廢ス
 明治三十二年六月十三日
 海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治二十八年九月三日 海軍省達第九十八號ハ海軍參謀將校タル職員ノ件ナリ
 ○海軍省達第百二十四號
 通常物品出納命令官會計官吏表中左ノ通改ム
 明治三十二年六月十六日
 海軍大臣山本權兵衛

鎮守府ノ部會計官吏ノ欄「軍港部屬員」ノ五字ヲ「主計長」ニ改ム
 ○海軍省達第百二十五號
 明治十八年十一月二十三日 丙第六十六號陸海軍剛以譜同目次同區分表中ニ左ノ通追加ス (追加略ス)
 明治三十二年六月二十日
 海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十六號
 艦船公試規則第八條中鎮守府軍港部長ノ次ニ「鎮守府軍港部機關長」ヲ加フ
 明治三十二年六月二十六日
 海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年十一月九日 海軍省達第百五十六號艦船公試規則第八條ハ公試委員ヲ編成スル職員列記ノ件ナリ
 ○海軍省達第百二十七號
 明治二十年十一月達第百二十六號別表所屬區分欄中「艦隊」トアルヲ「常備艦隊」ニ改ム
 明治三十二年六月二十六日
 海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年十一月十日 海軍省達第百二十六號別表ハ海軍省所管收入及經費ニ係ル所屬區分及委任仕拂命令官、收入調定官、收入監督官、收入官吏、收入下検査官ノ件ナリ
 明治三十二年六月 達 海軍省達第百二十四號 第百二十五號 第百二十六號 第百二十七號

本月十一日ヨリ來ル九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜フ但明治七年^七第八十四號達ノ通心得ヘシ

明治三十二年七月五日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

各官廳

〔參照〕

太政官第八十四號達(明治七年七月三日)
本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員休暇ヲ賜候條各員申合御用差支無之様可致尤賜暇中旅行ノ儀モ被差許候間其行先可届出
此旨相達候事
但各廳共長官ヨリ御用ノ都合見計休暇可申達事

○陸達第六十四號

明治十八年達乙第五百五十四號陸海軍喇叭譜中第二號「海行カバ」ノ譜ヲ別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

明治三十二年七月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第六十五號

明治三十二年陸達第二十二號雇員備人給料支給規則第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十二年七月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

雇員及備人ニシテ豫備役後備役ノ軍籍ニ在ル者陸軍給與令第十六條ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ本規則ニ依レル給料ノ支給ヲ停止ス

○陸達第六十六號

韓國駐劄陸軍部隊ニ係ル給與ハ臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則ニ依ルヘシト雖其ノ給與ノ異ナルモノ左ノ如シ

明治三十二年七月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 在隊加俸年功加俸通譯加俸ノ支給ハ當分ノ停止ス
- 一 賄料及三十一年送乙第九一號ニ依ル代金給與ノ定額ハ一日一八金拾四錢七厘トス
- 一 寢具用厚毛布ハ六枚一組トス
- 一 特種被服ハ別表ノ品種トシ歸還ノ際外套頭巾手法被股引頭巾手ハ之ヲ返納セシメ其ノ他ハ其ノ儘應用セシム
- 一 補給廠長ノ指定スヘキモノハ當該部隊長之ヲ指定スヘシ

品目	備	要	出發ノ際 携持數	駐荷地 給與數	給與區別
外 <small>頭巾手</small> 法被股引 <small>頭巾手</small>	將校同相當官特務曹長各兵各部 部下兵卒軍醫履員				三箇年間應用セシメ實 際ノ損破ニ依リ換給ス
眞綿製 附著	被服ヲ官給スル備役者				
本小絨襪 袴					
同 腹 卷					
同 足 卷					
毛メリヤス袴下					
深 靴					
特務曹長各兵各部部下兵卒					
一箇年間應用ノ後毎年 一箇或ハ一組ヲ給ス					

○陸運第六十七號
臺灣島及澎湖島駐荷陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十二年七月八日

- 第一條中「第十一表」ヲ「第十四表」ニ改ム
- 第三條中「第八表」ヲ「第十一表」ニ改ム
- 第九條中「第九表」ヲ「第十二表」ニ改ム
- 第十條中「第十表」ヲ「第十三表」ニ改ム
- 第十六條 本規則第十一條ノ被服ハ左ノ區別ニ依ルヘシ
 - 一 軍隊ニ於ケル携持品及補填品ノ定數ハ第五表ニ依ル但歸還ノ際携持セシモノハ總テ原隊ノ委任經理ニ屬ス
 - 二 官衙ニ於ケル携持品及派遣中給與ノ定數ハ第六表ニ依ル但派遣中給與ヲ受ケタルモノ備附除クト雖モ歸還ノ際携持シ其ノ儘應用セシム
- 第十七條 判任文官ニハ寢具ヲ貸與スルコトヲ得其ノ品目員數ハ第七表ニ依ル
- 第十八條 衛戍病院ニハ患者及看護用被服ヲ備付ク其ノ品目員數ハ第八表ニ依ル
- 第十九條 各兵下士卒ヨリ臺灣憲兵隊ニ轉科シタル者ノ被服ハ時服ヲ著裝赴任セシメ憲兵隊ニ於テ更ニ第六表ニ基キ給與シ著裝ノ被服ハ返納セシム
- 第二十條 下士以下被服ノ補修ハ第九表ノ金額ヲ用途トシ實費支辨スヘシ
- 第二十一條 本規則第十二條特種ノ被服ハ附表第十表ニ依リ現品ヲ以テ別途ニ之ヲ交付シ其ノ外套ハ歸還ノ際返納セシメ襦袢腹卷ハ其ノ儘應用セシム
- 第二十三條中「第六表」ヲ「第七表」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム
- 雇員ニハ時宜ニ依リ寢具ヲ貸與スルコトヲ得其ノ員數ハ第七表ニ依ル
- 附表第五表、第六表、第七表ヲ別表ノ通り改メ第七表ノ次ニ第八表、第九表、第十表ヲ加ヘ第八表ヲ第十一表トシ以下順次繰下ク